

文 学 部

履 修 要 項

平 成 2 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(日) 入学式
- 9日(月) } 新生オリエンテーション
- 13日(金) }
- 9日(月) } 在校生身分証明登録
- 19日(木) }
- 9日(月) } 在校生成績発表
- 10日(火) }
- 9日(月) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(火) } 受付(学部2年次生)
- 11日(水) } 在校生成績質疑応答
- 20日(金) }
- 14日(土) 前期授業開始
- 23日(月) } 履修届受付(学部・短大)
- 26日(木) } (学部により受付日が異なる)
- 5月7日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 11日(金) }
- 25日(金) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月11日(月) }
- 7月6日(金) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米文>・法学部・短大国文・英文の1年次生および昭和63年度以前入学の経済学部の2年次生)
- 12日(木) }
- 13日(金) } 中間試験(授業平常どおり)
- 19日(木) }
- 19日(木) 前期授業最終日
- 20日(金) } 前期終了科目定期試験
- 21日(土) }
- 23日(月) 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 22日(日) } 体育実技II集中授業コース
- 26日(木) } (学部2年次生)
- 26日(木) 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

後 期

- 9月7日(金) } 補講期間
- 14日(金) }
- 17日(月) 後期授業開始
- 17日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答) および再試験申込受付
- 18日(火) }

- 25日(火) } 前期終了科目追・再試験
- 10月1日(月) } (授業平常どおり)
- 10月2日(火) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 5日(金) }
- 3日(水) } 専攻コース指定届受付
- 4日(木) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(月) 第108回開校記念日(全学休業)
- 24日(水) } 転部・転科試験願書受付
- 26日(金) }
- 11月16日(金) 転部・転科試験
- 12月1日(土) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 10日(月) }
- 3日(月) } 編・再入学願書受付
- 7日(金) }
- 19日(水) 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(水) } 体育実技II集中授業コース
- 23日(日) } (学部2年次生)
- 20日(木) 編・再入学試験

平成3年

- 1月8日(火) 後期授業再開
- 14日(月) 後期授業最終日
- 16日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 25日(金) }
- 26日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月4日(月) }
- 5日(火) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 6日(水) 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 18日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
- 22日(金) }
- 19日(火) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 20日(水) }
- 25日(月) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 3月2日(土) } および追試験(学部1~3年次生)
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 25日(月) 卒業式

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位計算 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業論文 (12)
3. 学 士 号 (12)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (13)
2. 外国語科目の履修方法 (15)
3. 保健体育科目の履修方法 (19)
4. 基礎教育科目の履修方法 (20)
5. 専門教育科目の履修方法 (20)
6. 他学部科目の履修方法 (40)
7. 随意科目の履修方法 (42)
8. 再履修科目の履修方法 (42)
 - ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (43)
 - ※ 授業科目のコード番号について (44)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (45)
2. 履修届記入上の注意 (46)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (47)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (49)
2. 中間試験 (49)
3. 追・再試験 (49)
4. 受験心得 (50)
5. 成績評価・単位認定 (50)
6. 試験時間 (50)

VI	進級について	(51)
VII	クラス制およびクラス主任	(52)
VIII	教職課程・資格講座	(52)
IX	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(53)
	2. 授業時間	(53)
	3. 事務室の事務受付時間	(53)
	4. 休講	(53)
	5. 掲示	(53)
	6. 問い合わせ	(53)
X	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(54)
	2. 休学	(54)
	3. 復学	(54)
	4. 退学	(55)
	5. 除籍	(55)
	6. 懲戒	(55)
	7. 編入学(学士入学)	(55)
	8. 再入学	(55)
	9. 転部・転科	(55)
	10. 留学	(56)
	11. 学生氏名・保証人	(56)
	12. 学生番号	(56)
XI	既修得単位の認定について	(57)
XII	届書・願書について	(58)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(59)
	試験実施規程(抜粋)	(60)
	講義内容	(63)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | | |
|-----------|--------------------|-------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | （人文分野・社会分野・自然分野） | …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | （第1外国語・第2外国語） | …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | （講義・実技） | …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | （専門教育科目の基礎となる科目） | …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | （専門的知識を内容とする科目） | …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | （履修可能な他学部公開設置科目） | …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | （卒業に必要な単位に含まれない科目） | …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

A. 昭和60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	28	} 128以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	36	72	
	選 択		28		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	28	} 128以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	36	72	
	選 択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和58・59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

〔日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻〕

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

A. 昭和62年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	10	38	72	
	選択		26		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60・61年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

社会学科
〔社会学コース〕

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

A. 昭和63年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	13	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60～62年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

[心理学コース]

A. 昭和60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目	育 科 目	3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目	育 科 目	3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（金）～6月11日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと（英米文・地理・社会学科はワープロ使用可）。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（土）～10日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月5日（火）

3. 学士号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書が授与され、次の学士の称号が与えられる。

文学部	国文学科	}	文学士
	英米文学科		
	地理学科		
	歴史学科		
	社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学 科 \ 分 野	人 文 分 野	社 会 分 野	自 然 分 野	計
国 文 学 科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英 米 文 学 科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地 理 学 科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴 史 学 科	16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社 会 学 科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人 文 分 野			社 会 分 野				自 然 分 野		
	授 業 科 目	単 位	修得単位	授 業 科 目	単 位	修得単位	備 考	授 業 科 目	単 位	修得単位
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			物 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			化 学	4	
	文 学	4		文 化 人 類 学	4			生 物 学	4	
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			地 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			心 理 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得しよ うとするも のは「法学 憲法」を必 修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		政 治 学	4			生 物 学	4	
	論 理 学	4		経 済 学	4			地 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4								
	芸術学(日本美術)	4								
芸術学(西洋美術)	4									

※「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

年次 \ 学科	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
2年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
3年次	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5	10	4	8	4	8	4	8

第2外国語

年次 \ 学科	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と入学手続の際に指定した外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ（定員40名）」または「英語LLⅠ（定員30名）」に振り替えできる。（ただし英米文学科は「英会話Ⅰ」に振り替えできない。）なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ⅠA	2	文法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新名称

旧名称

〔英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語〕ⅠA — 〔英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語〕ⅠG
 〔英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語〕ⅠB — 〔英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語〕ⅠR

※ 英語科目内容

英語ⅠA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語ⅠB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ⅠB」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語としⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とすること。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称	旧 名 称	
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 } Ⅱ A	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	2 A I
{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 } Ⅱ B	{ 英語, ドイツ語, フランス語 中国語, スペイン語, ロシア語 }	2 A II

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 Ⅲ	2	講 読	1 科 目 必 修

〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称	旧 名 称
英 語 Ⅲ	英 語 3 A

※「英語Ⅲ」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次の7月6日（金）～12日（木）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし、英米文学科は『英語』のため登録の必要がない。）なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。
また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.42参照）。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生には、旧カリキュラムが適用される。

A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

基礎教育科目とは専門教育の基礎となる授業科目で、各年次別履修順序は次表のとおりである。

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会話)	2						

(注意) 「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を、「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科	地理学科	歴史学科			社会学科			
		昭和58年度以降入学生適用		日本史 東洋史 西洋史	考古学		社会学	社会福祉		心理学
					62年度以降入学生適用	61年度以降入学生適用		63年度以降入学生適用	63年度以降入学生適用	
必修科目	36(12)	28(7)	16(6)	32(8)	38(10)	32(8)	48(12)	48(13)	48(12)	28(8)
選択科目	28	36	48	32	26	32	16	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※ () 内の数字は科目数

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国 文 学 講 読 I	2		国 文 学 研 究	4	
2 年 次 必 修			国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 3 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 以外 を 履 修 す る こ と。
国 語 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 古)	4	
国 文 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 世)	4	
国 文 学 講 読 II	2		国 文 学 史 (近 世)	4	
中 国 文 学 講 読	2		国 文 学 史 (近 代)	4	
3 年 次 必 修			国 語 学 演 習 II	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。
国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	国 文 学 演 習 II (上 代)	2	
国 文 学 史 (中 古)	4		国 文 学 演 習 II (中 古)	2	
国 文 学 史 (中 世)	4		国 文 学 演 習 II (中 世)	2	
国 文 学 史 (近 世)	4		国 文 学 演 習 II (近 世)	2	
国 文 学 史 (近 代)	4		国 文 学 演 習 II (近 代)	2	
国 語 学 研 究	4		卒 業 論 文	8	12 頁 参 照
国 文 学 講 読 III	2				
国 語 学 演 習 I	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 原 則 として 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。			
国 文 学 演 習 I (上 代)	2				
国 文 学 演 習 I (中 古)	2				
国 文 学 演 習 I (中 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 代)	2				

(注意) 3 年次で「国文学演習 I」を履修した者は原則として 4 年次も「国文学演習 II」を、また 3 年次で「国語学演習 I」を履修した者は 4 年次でも「国語学演習 II」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 文 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 文 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 文 学 特 講 IV	4	
	近 世 文 学	4		国 文 学 史 (上代)	4	} 選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること。
	近 代 文 学	4		国 文 学 史 (中古)	4	
	国 語 史	4	} 隔年開講	国 文 学 史 (中世)	4	
	国 語 学 史	4		国 文 学 史 (近世)	4	
	文 学 概 論	4	休 講	国 文 学 史 (近代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	
	有 職 故 実	4	休 講	近 代 文 学 講 読	2	
国 文 学 特 講 I	4					

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 文 化 史 I	4	} 休 講 } 隔年開講
	中 国 文 学 演 習	4		日 本 文 化 史 II	4	
	中 国 文 学 概 論	4		現 代 美 術	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 I	4	
	英 米 文 化	4		書 道 実 習 II	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古代・中世	美 術 史	2	半期科目
	日 本 史 概 説 II	4	近世・近代	書 道 史	2	半期科目
	日 本 民 俗 学	4		編 集 実 務	2	半期科目

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

英米文学科

必修科目

A. 平成2年度入学生適用 (36単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 音 声 学	4		米 文 学 演 習 Ⅱ	4	
2 年 次 必 修			米 文 学 演 習 Ⅲ	4	
英 語 学 概 論	4		英米語学演習(言語学)	4	
英 作 文 I	4		英米語学演習(音声学)	4	
3 年 次 必 修			英米語学演習(英語史)	4	
英 語 史	4		4 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 I	4	1科目4単位選択必修	卒 業 論 文	8	12頁参照
英 文 学 演 習 Ⅲ	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 V	4		英 文 学 史 I	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
英 文 学 演 習 VI	4		英 文 学 史 Ⅱ	4	
英 文 学 演 習 VII	4		米 文 学 史	4	
米 文 学 演 習 I	4				

B. 平成元年度以前入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		卒 業 論 文	8	12頁参照
英 作 文 I	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			英 文 学 史 I	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音 声 学	4		英 文 学 史 Ⅱ	4	
英 語 史	4		米 文 学 史	4	
シェイクスピア	4				

※「英文学史Ⅰ」・「英文学史Ⅱ」・「米文学史」のうち2科目を選択必修とし、残りの1科目は専門選択科目として履修できない。

選 択 科 目 (36単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英文学特講Ⅰ	4	2・3・4		米文学演習Ⅵ	4	2・3・4	
英文学特講Ⅱ	4	2・3・4		英米演劇演習	4	2・3・4	
英文学特講Ⅲ	4	2・3・4		時事英語	4	2・3・4	
英文学特講Ⅳ	4	2・3・4		商業英語	4	2・3・4	
英文学特講Ⅴ	4	2・3・4		ラテン語特講	4	2・3・4	
英文学特講Ⅵ	4	2・3・4		英米文化	4	2・3・4	
米文学特講Ⅰ	4	2・3・4		日本文化史Ⅰ	4	2・3・4	休講 } 隔年開講
米文学特講Ⅱ	4	2・3・4		日本文化史Ⅱ	4	2・3・4	
米文学特講Ⅲ	4	2・3・4		現代美術	4	2・3・4	
米文学特講Ⅳ	4	2・3・4		英文学演習Ⅰ	4	3・4	}
米文学特講Ⅴ	4	2・3・4		英文学演習Ⅲ	4	3・4	
英米演劇特講	4	2・3・4		英文学演習Ⅴ	4	3・4	
英米語学演習 (英文法)	4	3・4		英文学演習Ⅵ	4	3・4	
英米語学演習 (英作文Ⅱ)	4	3・4		英文学演習Ⅶ	4	3・4	※イ, ロ
英米語学演習 (英会話)	2	3・4		米文学演習Ⅰ	4	3・4	
英文学演習Ⅱ	4	2・3・4		米文学演習Ⅱ	4	3・4	
英文学演習Ⅳ	4	2・3・4		米文学演習Ⅲ	4	3・4	
英文学演習Ⅶ	4	2・3・4		英米語学演習 (言語学)	4	3・4	旧「英米語学演習(英語学)」
米文学演習Ⅳ	4	2・3・4		英米語学演習 (音声学)	4	3・4	
米文学演習Ⅴ	4	2・3・4		英米語学演習 (英語史)	4	3・4	

※イ. 平成2年度入学生は, 3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

※ロ. 平成元年度以前入学生は, 3年次または4年次に選択科目として履修できる。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

- イ. 2・3・4年次に演習1科目(4単位)ずつ、あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。
- ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。
- ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。
※ 平成2年度入学生は、1科目必修のこと。
- ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。
※ 平成2年度入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

II) 履修上の注意

- イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『単位履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。
- ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地理学科

必修科目(24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (12頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検(Ⅰ・Ⅱ)」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選 択 科 目 (48単位以上)

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4		外 国 地 誌 II	4	
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	半期科目
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4		計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

(注意) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学（I・II）」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学（I・II）」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1ヵ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届け出ること。）

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替える。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(日本史)	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(2) 東洋史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替える。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(東洋史)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替えて可。
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修	演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻

A. 昭和62年度以降入学生適用 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	} 1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替えて可。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	12頁参照

B. 昭和61年度以前入学生適用 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替えて可。
考古学史	4		4年次必修		
考古学概説Ⅰ(日本)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		卒業論文	8	12頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				

選 択 科 目（2年次以降の履修科目）

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻（32単位以上）

考古学専攻（昭和62年度以降入学生適用，26単位以上）

（昭和61年度以前入学生適用，32単位以上）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 I（古 代）	4	旧「東洋史特講Ⅶ」 休 講
日 本 史 各 説 II	4		東洋史特講 II（古 代）	4	
日 本 史 各 説 III	4		東洋史特講 III（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東洋史特講 IV（中 世）	4	休 講
東洋史各説 I（古 代）	4	旧「東洋史各説Ⅱ」	東洋史特講 V（中 世）	4	
東洋史各説 II（古 代）	4	休 講	東洋史特講 VI（中 世）	4	旧「東洋史特講Ⅲ・Ⅵ」 休 講
東洋史各説 III（中 世）	4	旧「東洋史各説Ⅰ」	東洋史特講 VII（近 世）	4	
東洋史各説 IV（中 世）	4	休 講	東洋史特講 VIII（近 世）	4	
東洋史各説 V（近 世）	4	旧「東洋史各説Ⅲ」	東洋史特講 IX（近 世）	4	休 講
東洋史各説 VI（近 世）	4	休 講	東洋史特講 X（近・現代）	4	
東洋史各説 VII（近・現代）	4		東洋史特講 XI（近・現代）	4	旧「東洋史特講Ⅳ」 休 講
東洋史各説 VIII（周 辺 史）	4		東洋史特講 XII（近・現代）	4	旧「東洋史特講Ⅱ」
東洋史各説 IX（周 辺 史）	4	旧「東洋史各説Ⅳ」	東洋史特講 XIII（周 辺 史）	4	旧「東洋史特講Ⅴ」
東洋史各説 X（周 辺 史）	4	旧「東洋史各説Ⅱ」	東洋史特講 XIV（周 辺 史）	4	旧「東洋史特講Ⅰ」 休 講
西 洋 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 XV（周 辺 史）	4	
西 洋 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4	休 講	西 洋 史 特 講 II	4	
西 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 III	4	休 講
考 古 学 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休 講
考 古 学 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 V	4	
考 古 学 各 説 III	4	休 講	西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4	休 講	西 洋 各 国 史 II	4	
日本史特講 I（古 代）	4		西 洋 各 国 史 III	4	
日本史特講 II（中 世）	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日本史特講 III（中 世）	4		考 古 学 特 講 I	4	
日本史特講 IV（近 世）	4		考 古 学 特 講 II	4	休 講
日本史特講 V（近 世）	4		考 古 学 特 講 III	4	} 隔年開講
日本史特講 VI（近 代）	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日本史特講 VII（近 代）	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4	
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4	休 講	哲 学 史	4	
日 本 仏 教 史 II	4	休 講	歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 III	4		仏 教 美 術	4	
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	西 域 美 術 史	4	
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4	
西 洋 文 化 史 I	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
西 洋 文 化 史 II	4		演 習 I	4	※イ ※ロ
西 洋 文 化 史 III	4	休 講	演 習 II	4	
考 古 学 実 習 (写 真)	4	} (注) ※イ	日 本 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	} (注)
考 古 学 実 習 (測 量)	4		日 本 史 概 説 II (近 世・近 代)	4	
考 古 学 実 習 (石 器)	4		東 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	
考 古 学 実 習 (土 器)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	
有 職 故 実	4		休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4	
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4	
歴 史 地 理 学	4				

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
東洋史特講 I (古 代)	東洋史特講 VII (古 代 史)	東洋史各説 I (古 代)	東洋史各説 II
東洋史特講 VI (中 世)	東洋史特講 III (中 世 史)	東洋史各説 III (中 世)	東洋史各説 I
	東洋史特講 VI (中 世 史)	東洋史各説 V (近 世)	東洋史各説 III
東洋史特講 XI (近・現代)	東洋史特講 IV (近代・現代史)	東洋史各説 IX (周辺史)	東洋史各説 IV
東洋史特講 XII (近・現代)	東洋史特講 II (近世・近代史)	東洋史各説 X (周辺史)	東洋史各説 II (昭和59年度 光島担当分)
東洋史特講 XIII (周辺史)	東洋史特講 V (西・中央アジア史)	考 古 学 実 習 (写 真)	考古学実習 I (写 真)
東洋史特講 XIV (周辺史)	東洋史特講 I (中国周辺史)	考 古 学 実 習 (測 量)	考古学実習 III (測 量)
		考 古 学 実 習 (石 器)	考古学実習 II (記 録)
		考 古 学 実 習 (土 器)	考古学実習 IV (調 査)

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届け出ること。）

(1) 社会学コース

必修科目 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20単位 選択必修 休講
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	12頁参照	外書講読Ⅰ	4	
			外書講読Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅰ	4	
			社会学特講Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅲ	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	(注) 休 講	図 書 館 学 II	4	
産 業 社 会 学	4		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
都 市 社 会 学	4		法 学 (福 祉)	4	旧「社会福祉法制」
農 村 社 会 学	4		社 会 保 障 論	4	旧「社会保障概論」
家 族 社 会 学	4		老 人 福 祉 論	4	
法 社 会 学	4		児 童 福 祉 論	4	
宗 教 社 会 学	4		地 域 福 祉 論	4	
社 会 心 理 学	4		基 礎 心 理 学 I	4	
社 会 病 理 学	4		産 業 心 理 学	4	
外 書 講 読 I	4		グループ・ダイナミックス	4	休 講
外 書 講 読 II	4		民 法	4	
社 会 学 特 講 I	4		労 働 法	4	
社 会 学 特 講 II	4		行 政 法	4	
社 会 学 特 講 III	4		経 済 原 論	4	
社 会 学 原 論	4	社 会 政 策	4		
図 書 館 学 I	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
社会福祉援助技術総論	— 社会福祉方法総論
法 学 (福 祉)	— 社会福祉法制
社 会 保 障 論	— 社会保障概論

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 昭和63年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2 ・ 3 ・ 4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉調査論	2		方法・援助技術部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ ※ ※ 3科目12単位 選択必修
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4	
法 学 (福 祉)	4	*		リハビリテーション論	4	
				社会福祉計画論	4	
				社会福祉運営論	4	
3 年 次 必 修			分野部門	家族福祉論	4	* * * * 3科目12単位 選択必修
演 習 I	4	社会福祉		児童福祉論	4	
社会福祉調査実習	2			障害者福祉論	4	
				老人福祉論	4	
4 年 次 必 修				地域福祉論	4	
演 習 II	4	社会福祉		公的扶助論	4	
卒 業 論 文	8	12頁参照		医療福祉論	4	
				婦人福祉論	4	
				保健福祉論	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のもの、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習」および「社会福祉援助技術演習(I・II)」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術実習」(2年次選択科目)および「社会福祉援助技術現場実習」(3年次選択科目)の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

選択科目

A. 昭和63年度以降入学生適用（16単位以上）

2 年 次 選 択			2・3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術実習	2	※	社会 保 障 論	4	*
			社会福祉発達史	4	
3 年 次 選 択			社会福祉外書講読	4	
社会福祉援助技術現場実習	4	※	海外社会福祉論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社 会 学(福祉)	4	*
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学(福祉)	4	*
			医 学 一 般	4	※
2・3・4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社会福祉計画論	4		家 族 社 会 学	4	
社会福祉運営論	4		法 社 会 学	4	
家族福祉論	4		産 業 社 会 学	4	
児童福祉論	4	*	社 会 病 理 学	4	休 講
障害者福祉論	4	*	心 理 検 査 法	4	
老人福祉論	4	*	グループ・ダイナミックス	4	休 講
地域福祉論	4	*	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公的扶助論	4	*	精 神 医 学	4	
医療福祉論	4		精 神 病 理 学	4	休 講
婦人福祉論	4		図 書 館 学Ⅰ	4	
保健福祉論	4		図 書 館 学Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休 講	経 済 原 論	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。
「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

必修科目

B. 昭和62年度以前入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会保障論	4	*旧「社会保障概論」	公 的 扶 助 論	4	*
法 学 (福 祉)	4	*旧「社会福祉法制」	障 害 者 福 祉 論	4	*旧「障害福祉論」
社会福祉援助技術総論	4	※旧「社会福祉方法総論」	老 人 福 祉 論	4	*
			児 童 福 祉 論	4	*
3 年 次 必 修			婦 人 福 祉 論	4	旧「母子福祉論」
社会福祉実習Ⅰ	4	※	医 療 福 祉 論	4	旧「医療社会事業論」
演 習 Ⅰ	4	社会福祉	地 域 福 祉 論	4	*
			社 会 福 祉 発 達 史	4	旧「社会福祉事業発達史」
4 年 次 必 修			社 会 福 祉 運 営 論	4	旧「社会福祉管理運営論」
演 習 Ⅱ	4	社会福祉	社 会 福 祉 外 書 講 読	4	旧「福祉外書講読」
卒 業 論 文	8	12頁参照	リハビリテーション論	4	
			社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」

A群
(3科目12単位選択必修)

B群
(3科目12単位選択必修)

(注意)「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは昭和63年度から実施される『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づき改定した。

ロ. 社会福祉士国家試験の受験資格取得希望学生は、指定科目をすべて履修できるよう特別の配慮がしてある。

ハ. ※印および*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ニ. 選択科目の「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」および「社会福祉援助技術現場実習」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

[名称変更科目] 旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
社会福祉原論	社会福祉概論	婦人福祉論	母子福祉論
社会学(福祉)	社会福祉法制	社会保障論	社会保障概論
社会福祉援助技術総論	社会福祉方法総論	社会福祉発達史	社会福祉事業発達史
社会福祉援助技術各論ⅠA	ケースワーク論	社会福祉運営論	社会福祉管理運営論
社会福祉援助技術各論ⅠB	グループワーク論	社会福祉外書講読	福祉外書講読
障害者福祉論	障害福祉論	社会福祉援助技術現場実習	社会福祉実習Ⅱ
医療福祉論	医療社会事業論	社会福祉援助技術各論ⅡB	社会福祉調査論

選択科目

B. 昭和62年度以前入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	*	社会学（福祉）	4	*
障害者福祉論	4	*旧「障害福祉論」	心理学（福祉）	4	*
老人福祉論	4	*	医学一般	4	※
児童福祉論	4	*	介護概論	4	※
婦人福祉論	4	旧「母子福祉論」	心理検査法	4	
医療福祉論	4	旧「医療社会事業論」	グループ・ダイナミックス	4	休講
地域福祉論	4	*	カウンセリング	4	
社会福祉発達史	4	旧「社会福祉事業発達史」	精神医学	4	
社会福祉運営論	4	旧「社会福祉管理運営論」	精神病理学	4	休講
社会福祉外書講読	4	旧「福祉外書講読」	産業社会学	4	
リハビリテーション論	4		家族社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」	法社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※旧「ケースワーク論」	社会病理学	4	休講
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※旧「グループワーク論」	障害児教育原論	4	
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障害児教育方法論	4	休講
海外社会福祉論	4		障害児病理	4	休講
社会福祉学特講Ⅰ	4		障害児心理	4	休講
社会福祉学特講Ⅱ	4		図書館学Ⅰ	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		図書館学Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		社会政策	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休講	行政法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	労働法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	民法	4	
社会福祉計画論	4		経済原論	4	
社会福祉調査論	2	昭和63年度新設科目			
社会福祉調査実習	2		3・4年次選択		
家族福祉論	4		社会福祉援助技術現場実習	4	※旧「社会福祉実習Ⅱ」
保健福祉論	4				

（注意） 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

〔廃講科目〕

基礎心理学Ⅰ・基礎心理学Ⅱ・社会心理学・宗教社会学・都市社会学・農村社会学・青少年問題研究

(3) 心理学コース
必修科目 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ (実習)	2	} 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ (実習)	2	
心理学実験 (実習)	2		心理学研究Ⅴ (実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	} 1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 休 講	心理学研究Ⅵ (実習)	2	} 1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 { 2 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 } 以 外 を 履 修 す る こ と 。 休 講
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ (実習)	2	}	演 習	4	
心理学研究Ⅱ (実習)	2		卒 業 論 文	8	13頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること。 休 講	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休 講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	休 講
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること。	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	休 講
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
生理心理学	4		障害者福祉論	4	旧「障害福祉論」
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミクス	4	休 講	民 法	4	
カウンセリング	4		経 済 原 論	4	
心理検査法	4		行 政 法	4	
禅心理学	4		労 働 法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

(注意) 2年次における「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
社会福祉援助技術総論	社会福祉方法総論
障害者福祉論	障害福祉論

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.41参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.42）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		経済学科	ソビエト経済論	4	3・4	
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			社会政策	4	3・4	社会学科除く
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	哲学史	4	3・4	歴史学科除く		日本経済史	4	3・4	
仏教学科	印度仏教史	4	3・4		中小企業論	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4		教育経済論	4	3・4	地理学科除く	
	日本仏教史	4	3・4		アメリカ経済論	4	3・4		
	日用経典	4	3・4		財務会計論	4	3・4		
	仏教美術	4	3・4	歴史学科除く	管理会計論	4	3・4		
	現代哲学概説	4	3・4		会計監査論	4	3・4		
国文学科	上代文学	4	3・4	国文学科除く	商学科	商業政策	4	3・4	
	中世文学	4	3・4	国文学科除く		貿易論	4	3・4	
	近世文学	4	3・4	国文学科除く		マーケティング	4	3・4	
	近代文学	4	3・4	国文学科除く		原価計算論	4	3・4	
	中国文学	4	3・4	国文・歴史学科除く		労務管理論	4	3・4	
英米文学科	英文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く	法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4	英米文学科除く		民法Ⅳ(1)	4	3・4	社会学科除く
	英文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く	政治学科	民法Ⅳ(2)	4	4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4	英米文学科除く		比較憲法	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4	英米文学科除く		地方自治法	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4	英米文学科除く		経済法	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4	英米文学科除く		国際関係論	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く		西洋政治史	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く		宣伝広告論	4	3・4	
	時事英語	4	3・4	英米文学科除く		比較社会構造論	4	3・4	休講
				政党論	4	3・4			
地理学科	地質学	4	3・4	地理学科除く	経営学科	経営学史	4	3・4	
	気候学	4	3・4	地理学科除く		国際経営論	4	3・4	
	人口地理学	4	3・4	地理学科除く		経営統計	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4	地理学科除く		保険経営論	4	3・4	
	都市地理学	4	3・4	地理学科除く		財務会計論	4	3・4	
歴史学科	文化地理学	4	3・4	地理学科除く	短大国文科	経営分析論	4	3・4	
	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	歴史講義除く		税務会計論	4	3・4	
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	歴史学科除く		経営労務論	4	3・4	
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科除く		商業史	4	3・4	
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4	歴史学科除く		国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	国文学科除く
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	歴史講義(臨幸講)除く		国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	国文学科除く
	歴史哲学	4	3・4	歴史学科除く		国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	国文学科除く
	哲学史	4	3・4	歴史学科除く		国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	国文学科除く
社会学科	日本民俗学	4	3・4	歴史・国文学科除く	国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	国文学科除く	
	マスコミュニケーション	4	3・4	社会学科除く	国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4	国文学科除く	
	産業社会学	4	3・4	社会学科除く	短英大科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	国文学科除く
	都市社会学	4	3・4	社会学科除く	時事英語	4	3・4	国文・英米文学科除く	
					短放線大科	計算機言語概論	2	3・4	国文学科除く 前期科目
						臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	国文学科除く 前期科目
						応用計測学	2	3・4	国文学科除く 前期科目

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
宗 教 学 特 講 I	4		美 術 史 概 説	4	※ロ	ドイツ語FLL(初級)	2	
宗 教 学 特 講 II	4		東 洋 思 想 研 究	4	※ハ	ドイツ語FLL(中級)	2	
宗 教 学 特 講 III	4		日 本 仏 教 史	4	※イ	フランス語FLL(初級)	2	
哲 学 特 講 I	4		日 本 文 化 史 I	4	※ニ } 隔年 休講 } 開講	フランス語FLL(中級)	2	
哲 学 特 講 II	4		日 本 文 化 史 II	4		中国語FLL(初級)	2	
哲 学 特 講 III	4		英 会 話 II	2	※ヘ	中国語FLL(中級)	2	
宗 教 人 類 学	4		ド イ ツ 語 F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
民 間 信 仰 論	4		フ ラ ン ス 語 F	2		スペイン語FLL(中級)	2	
日 本 宗 教 文 化 史	4		中 国 語 F	2		ロシア語FLL(初級)	2	
民 衆 宗 教 成 立 史	4		ス ペ イ ン 語 F	2		ロシア語FLL(中級)	2	
歴 史 哲 学	4	※イ	ロ シ ア 語 F	2		英 語 (海 外 演 習)	2	※ホ
日 本 民 俗 学	4	※ロ	英 語 L L II	2	※ヘ			

※イ. 歴史学科を除く。

※ロ. 国文・歴史学科を除く

※ハ. 国文学科を除く。

※ニ. 国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ. 「英語(海外演習)」は、ハワイ大学、カリフォルニア大学、クィーンズランド大学およびブリティッシュコロンビア大学で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.76)を参照のこと。

※ヘ. 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

注) 再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新規履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新規履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語(英米文学科の英語Ⅲは除く)・体育実技Ⅰ(昭和59年度以前入学生は体育実技)・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。なお、外国語科目を再履修する場合は、2年度に名称変更があったので、新名称科目の再履修クラスで履修すること。

ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
 - 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
 - 昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。
- （注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.56参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修)・2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	2
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1・2・3
選 択 科 目		5・6・7・8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3・4・5・6・7・8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ、随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.41参照）は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 (例)

月 曜 日				
	授 業 科 目	科 目 コ ー ド	担 当	担 当 コ ー ド
一 時 限	ドイツ語 1 G	212201	百 濟	879
二 時 限	保健体育理論 (前期)	214201	長 濱	A10
	保健体育理論 (後期)			622
三 時 限	宗 教 学 I	210101	平井 (俊)	735
四 時 限	論 理 学	210203	國 嶋	306
五 時 限	自然科学概論	210401	宇 和 川	104

正 しい 記 入 例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 当	担 当 コ ー ド
(I)	1		ドイツ語 1 G	2 1 2 2 0 1	百 濟	8 7 9
	2		保健体育理論 (前期)	2 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	2 1 0 1 0 1	平井 (俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	2 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	2 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合 (例として間違い易い数字 0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	専門教育科目	英語音声学（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

地理学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

歴史学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

社会学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉原論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月20日（金）～21日（土）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日（水）～2月4日（月）に実施される。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示板参照）
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）	
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10

追・再試験実施時間（前期）
1時限 16:10～17:00
2時限 17:10～18:00

追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:20
2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～13:50
4時限 14:10～15:00
5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.60）ので参照のこと。

Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

VII クラス制およびクラス主任

イ、学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。

ロ、クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

VIII 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	〃	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
時 間	9 : 00～10 : 30	10 : 40～12 : 10	12 : 50～14 : 20	14 : 30～16 : 00	16 : 10～17 : 40

3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休 学 願 提 出 日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

--	--	--	--	--	--

⋮ ⋮ ⋮ ┌──────────┐
 学 学 入 一
 部 科 学 連
 (年 番
 (西 号
 (度)

(例) 1990年度入学・文学部
国文学科12番の場合

2	1	0	0	1	2
---	---	---	---	---	---

⋮ ⋮ ⋮ ┌──────────┐
 文 国 一
 学 国 九
 部 学 〇
 科 年
 (入
 (学

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、編入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位は、転部・転科が許可された時に、提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ホ. 留学者の単位認定

本学より外国の協定校・認定校へ派遣された学生で、留学先の成績証明書・授業内容等をもとに当該教授会で認定した授業科目（専門選択科目）の単位は、卒業所要単位の算入される。

XII 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類	要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること（締切日は掲示参照） 	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・掲示板にて指示 	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県名）変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書（保証書）添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類（写し可）添付 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 〔英文証明書〕 1通 300円
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書（卒業生のみ） （教職，司書教諭，学芸員，社会教育，社会福祉）		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し，手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上，取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は，6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので，掲示に注意し，十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目 (共通)	(66)
保健体育科目 (共通)	(72)
随意科目 (共通)	(73)
国文学科	(79)
英米文学科	(90)
地理学科	(100)
歴史学科	(111)
社会学科	(126)
他学部履修科目 (共通)	(142)

〔巻末〕

教職および資格講座

一般教育科目（共通）

人文分野	
宗教学Ⅰ（佐々木 宏幹）	66
宗教学Ⅰ（洗 建）	66
宗教学Ⅰ（山岡 隆晃）	66
宗教学Ⅰ（脇本 平也）	66
宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）	66
宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）	66
宗教学Ⅱ（青龍 宗二）	67
宗教学Ⅱ（峰岸 孝哉）	67
宗教学Ⅱ（河村 孝道）	67
宗教学Ⅱ（原田 弘道）	67
宗教学Ⅱ（石井 修道）	67
哲学（戸田 洋樹・中村 友太郎）	67
論理学（榊原 哲成・湯浅 正彦）	67
歴史学（大久保 俊昭）	68
文学（田中 徳定）	68
芸術学（日本美術）（松平 美和子）	68
芸術学（西洋美術）（宮崎 克己）	68
社会分野	
法学憲法（和知 恵一）	68
法学憲法（鷄徳 啓登）	68
経済学（齊藤 正）	69
政治学（小林 正敏）	69
社会学（橋爪 敏）	69
文化人類学（蒲原 大作）	69
地理学（小田 匡保）	69
地理学（矢野 陽子）	69
自然分野	
自然科学概論（宇和川 正人）	70
自然科学概論（篠原 正雄）	70
数学（三好 重明）	70
生物学（清水 善和）	70
生物学（富山 清升）	70
心理学（横山 剛）	70
心理学（牧野 晋）	70
人類学（斎藤 成也）	71
地学（中島 義一）	71
化学（高木 正博）	71
物理学（篠原 正雄）	71

保健体育科目（共通）

保健体育理論（三幣 晴三）	72
保健体育理論（森本 葵）	72
保健体育理論（再クラス）（長濱 友雄）	72
保健体育理論（再クラス）（森本 葵）	72

随意科目（共通）

宗教学概説（脇本 平也）	73
宗教学概説（洗 建）	73
哲学概説（篠原 壽雄）	73
哲学概説（國嶋 一則）	73
倫理学概説（久保 陽一）	73
宗教人類学（佐々木 宏幹）	73
民間信仰論（谷口 貢）	74
日本宗教文化史（脇本 平也）	74
民衆宗教成立史（洗 建）	74
歴史哲学（大石 紀一郎）	74
美術史概説（中島 野一）	74
東洋思想研究（館野 正美）	74
日本文化史Ⅱ（廣瀬 良弘）	74
日本仏教史（廣瀬 良弘）	74
日本民俗学（谷口 貢）	75
英会話Ⅱ（P. A. ベンディネリイ・ J. G. ギャリソン・T. J. コーガン・ J. W. グリフィス・M. ピアス）	75
英語LLⅡ（T. J. コーガン・大庭 直樹）	75
ドイツ語F（松本 洋子）	75
ドイツ語FLL（初級）（P. ジャコムツィ）	75
ドイツ語FLL（中級）（松岡 晋）	75
フランス語F（遠山 博雄）	75
フランス語FLL（初級）（小玉 齊夫）	76
フランス語FLL（初級）（M. マルタン）	76
フランス語FLL（中級）（M. マルタン）	76
中国語F（釜屋 修）	76
中国語FLL（初級）（釜屋 修）	76
中国語FLL（中級）（松本 丁俊）	76
スペイン語F（M. アルマラス）	76
スペイン語FLL（初級）（ホワン・ナバロ）	76
スペイン語FLL（中級）（ホワン・ナバロ）	76
ロシア語F（杉山 秀子）	77
ロシア語FLL（初級）（池田 ガリーナ）	77
ロシア語FLL（中級）（池田 ガリーナ）	77
英語（海外演習）	77

一般教育科目(共通)

人文分野

もに、人間理解の一助としたい。また、様々な宗教が共存する日本の宗教についても考えてみたい。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐってどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の宗教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

〔参考書〕脇本平也著『宗教を語る』(日新出版)

宗 教 学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

『仏教の歩んだ道1』(東京書籍)

宗 教 学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象である。宗教は時代を超えて、人間社会の様々な場面で重要な役割を演じ続けてきた。人間はなぜ宗教を必要とし、宗教は人間にとってどのような意味をもち、個人または社会に対していかに機能してきたか。宗教の起源や構造・機能をめぐる学説を概観することにより、宗教に関する基礎的な理解を深めると

宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

『仏教のおしえ』(東京書籍)

宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の間人形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学Ⅱは、宗教学Ⅰを学んだ後を受けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日の意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関わり合いと、そこからの種々の問題について考察する（なお、座禅も行う）。

〔参考書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次とりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅的人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりでいる。

〔参考書〕水野・柴田編『宗教学ハンドブック』

（世界書院）¥2,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学Ⅱとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Ⅰの後を受けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ課目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅という自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

¥1,950

哲 学

戸 田 洋 樹・中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

論 理 学

榊 原 哲 成・湯 浅 正 彦

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

社 会 分 野

歴 史 学

大久保 俊 昭

歴史学とは何か、というテーマを考えるために近年ひとつの潮流となり、また隣接諸学問との関係も深い社会史を中心に検討してみたい。参考書等未定。

文 学

田 中 徳 定

文学は歴史的に表面に現れる部分だけでなく、むしろその裏側にひそむ「人間」を描くことによって、その時代というものを逆に照射していると考えることができる。そこで、歴史との関わりの中において、文学は何を描き出しているのかを、日本の文学を中心に考えていきたい。

芸 術 学 (日本美術)

松 平 美和子

日本美術の様式を歴史的にたどり、同時に東洋美術との関係を考えていく。なお、授業ではスライド、図版などを多く用いたい。

芸 術 学 (西洋美術)

宮 崎 克 己

ヨーロッパのルネサンスから現代までの絵画を考える。各地域、各時代の代表的名作を選んで、掘り下げて論ずる。西洋の美術作品の基本的な見方を修得する事を目標とする。

受講者には、適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポート提出を要求する。

法 学 憲 法

和 知 恵 一

我々の日常生活は法と密接に関わり合っている。例えば、本屋さんで週刊誌を買う行為は、「売買契約」という民法 555条以下の規定で律される。映画を見る・電車に乗るといった行為も同様に、すべて法的な側面を持っている。

天ぶらを揚げていて火事を出してしまうということがあるが (S. 59年の東京都では6964件の火事のうち 529件が天ぶらの油による火災)、この火事を出したことで、どんな刑罰が科されるのか、また隣家を焼失させてしまった損害の賠償はどうすべきか？

こういった具体的事例を多数挙げて講義を進める。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』(八千代出版)

『ポケット六法』(有斐閣)

〔参考書〕小林弘人他著『憲法27講』(創成社)
橋本辰夫編著『ケースメソッド現代法学入門』(圭文社)
小林・高橋・花井・和知著『事例法学入門』(東京教学社)

法 学 憲 法

鷓 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならない問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕『法学・憲法』(八千代出版) ¥2,800

〔参考書〕『事例法学入門』(東京教学社)

¥1,700

『ケースメソッド現代法学入門』
(圭文社) ¥1,800

〔新版〕(学文社)
〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

経済学

齊藤 正

円高、貿易摩擦、地価上昇、株式ブーム、消費税、インフレーション、といった経済現象は社会を構成する様々な人々の行為の結果として生じたものです。経済学はそれらの経済現象が誰の、どのような行為によって惹き起こされ、それが誰に、どのような影響を及ぼすかを見極める学問であるといえます。

そのことを理解するためには、私たちの生きている社会(資本主義社会)の特徴が何であり、どのようなメカニズムによって成り立っているかを知る必要があります。

本講義では、経済現象の具体例を挙げながら「経済学的とらえ方」を学びます。
〔教科書・参考書〕授業の中で指示します。

文化人類学

蒲原 大作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることので多い未開民族(未開社会)が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』(有斐閣双書)

政治学

小林 正敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会学科の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕高橋正則他著『現代日本の政治構造』(芦書房)

地理学

小田 匡保

地理学の大枠を外観した後、特に集落や文化の地理学的見方について述べる。

社会学

橋爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』

地理学

矢野 陽子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質(地域の特性)を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕『日本地誌』〔改訂増補版〕¥1,900
地図帳使用。

自然分野

自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

篠原 正 雄

「人間はいかにして宇宙の中に生まれたか」

20世紀前半の自然科学は、原子が素粒子から成ることや、我々の銀河系の外にも無数の銀河のあることを発見した。今日では、素粒子を構成するクォーク粒子の性質が研究され、我々の宇宙の外の無数の宇宙につき議論されている。また、分子生物学や太陽系探査の成果を加えて、地球史・生物史の認識も深まった。

この講義では、「宇宙人はいるか?」という問いを携えながら、「素粒子の中から宇宙の外まで」、「宇宙の誕生から人類の出現まで」、現代の自然科学が招く自然像を、研究史を交えながら展開する。

〔教科書〕八杉龍一著『図解 科学の歴史』
(東京教学社) ¥1,700

数 学

三 好 重 明

数学的考え方の基本的な一側面を理解することを目標とする。そのために、主に幾何学(特にトポロジー)から題材をとって、現代的視点から、問題解決へ向けて数学理論が如何にして構築されていくかを示してみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦系に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横系に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死、生殖革命などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

生 物 学

富 山 清 升

進化、遺伝、生態・自然保護を3つの柱として、生物学の基本的知識を中心に、人間生活と関連した問題や最近話題になっている問題(遺伝子工学、ガン・免疫、環境問題etc)をまじえ、わかりやすく解説する予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

心 理 学

横 山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎の分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版) ¥1,400

〔参考書〕村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』(学術図書出版)

心 理 学

牧 野 晋

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、人間理解への一つの方法として、心理学のとり、科学的アプローチとはどのような

ものであるかを考えていく。日常生活において見られる人間の様々な行動について、従来の研究成果をもとに解説しながら、心理学的なものの見方、考え方がどのようなものであるかを理解してもらいたい。また講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版)

〔参考書〕開講時に指示する。

人 類 学

齋 藤 成 也

人類進化を中心に、自然人類学を講義する。内容は、(1)人類学とはなにか、(2)人間観の変遷、(3)進化論と進化思想の歴史、(4)脊椎動物としてのヒト、(5)哺乳類としてのヒト、(6)霊長類としてのヒト、(7)霊長類の分類と進化、(8)霊長類の生態と行動、(9)化石からみたヒト科の進化、(10)人類進化の独自性、(11)遺伝子の進化と中立説、(12)分子からみたヒト科の進化、(13)人種と民族、(14)採集狩猟民の社会、(15)人類集団間の遺伝的近縁関係、(16)海外調査、(17)先史学と年代学、(18)日本の先史時代、(19)日本人の起源と成立、(20)新石器革命と文明の誕生、等を予定している。

〔教科書〕齋藤成也編著『人類学講義資料』

(駒沢書房にて購入すること)

¥500 (予価)

地 学

中 島 義 一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。地図帳(高校生の時に使用したものでよい)を忘れずに持ってくること。

化 学

高 木 正 博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。

物 理 学

篠 原 正 雄

「エネルギーはいくら使っても少しも減らない」(??エネルギー保存法則)ならば、なぜ「エネルギー問題」などがあるのだろうか?本講では、物理学の基本概念である「エネルギー」を軸に、物理の諸分野を概観する。はじめに、エネルギー概念の出発点となった力学の分野を、力学的な「力」と「エネルギー」を中心に解説する。次に、「エネルギー」の流れを追って、熱、光、電磁気、原子等の分野を探る。最後に、宇宙物理学の成果にも触れたい。

〔教科書〕藤城敏幸著『生活の中の物理』

(東京教学社) ¥1,600

保健体育科目（共通）

保健体育理論

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際的考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容をとりあつかう。

保健体育理論（再クラス）

長 濱 友 雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在，我々はそれにどのように対応し，健康で有意義な生活を送るために体力を高めなければならないと考えるが，そのための方策について講義を進める。

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

オリンピックゲーム

- 〈歴史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

オリンピックゲーム

- 〈歴史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

随 意 科 目 (共 通)

宗教学概説

脇 本 平 也

— 宗教学説史 — 経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕適時指示する。

哲 学 概 説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかに受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禪思想を考究したい。

〔教科書〕『莊子』〔内篇〕（中公文庫）

哲 学 概 説

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に

拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとなしたい。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

デカルト以来の主観—客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのようにみえる。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については、カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚学すべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について、後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕カント著『道徳形而上学原論』

（岩波文庫）

ヘーゲル著『法の哲学』（中央公論社
世界の名著「ヘーゲル」）（以文社）

ヤメ・ベゲラー編『ヘーゲル・ヘルダ
ーリンとその仲間』（公論社）

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕佐々木宏幹著『聖と呪力 — 日本宗教の人類学序説 —』（青弓社）

¥2,060

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔教科書〕桜井徳太郎著『祭りと信仰』（講談社学術文庫）¥840（本体価格）

日本宗教文化史

脇 本 平 也

— 夢の問題 — 教科書、およびその他の関連の文献を読む。出欠をとり、文献読解の分担を課する。

〔教科書〕『日本人の深層分析 5 夢と象徴の深層』（有斐閣）

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

大 石 紀一郎

この講義では、われわれが現代において「歴史」と取り組むことはどのような意味を持ちうるか、また、歴史の研究はどのようにして可能であるのか、そして、歴史に関する哲学的反省と歴史の研究とはどのような関係にあるのかという3つの問いを導きの糸にしつつ、ヨーロッパにおける「歴史」の思想の展開を概観し、とりわけ19世紀以降のドイツにおける歴史哲学と歴史学の関係、歴史主義とその克服の試みに焦点を当てて、現代における歴史とのありうべき関係を考えていくことにする。

〔教科書〕〔参考書〕講義のなかで指示する。

美術史概説

中 島 亮 一

美術史を学ぶには、未だに生命を保ち続ける遺跡、遺物の研究が重要で、それらを生んだ民族、風土、思潮、美意識、作家集団などをマクロ的に、またミクロ的に検討することが必要である。そこで前半では主に西欧の美術、後半では主に東洋の美術に視点をおき、その造形理念や技術をスライドを使って、芸術学的な視点からも考察を加え、更に「見せる側」、「見る側」の鑑賞とは如何にあるべきかなどについても考えたい。

〔教科書〕井上 章著『美と美術』（家政教育社）
¥1,545

〔参考書〕その都度指摘する。

東洋思想研究

館 野 正 美

中国古代の哲学思想のうち、本年度は、特に「易」の哲学体系に焦点をあてて講義する。

易の哲学体系は、「占い」という一種の宗教的実践を背景に、深い形而上学的思惟によって貫かれた、六十四卦の象徴体系（シンボリズム）であると考えられる。そこで、この易の哲学体系を概観することによって、中国古代における哲学的思惟の一端を、いささか明らかにすることができると思うのである。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

日本仏教史

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりにつ

いて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

英 会 話 Ⅱ

P. A. ベンディネリィ・J. G. ギャリソン
T. J. コーガン・J. W. グリフィス
M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

英語L L Ⅱ

T. J. コーガン・大 庭 直 樹

英語L L Iのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語L L Iを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

（大庭）前半は英語を耳で聞いて理解する力を集中的に訓練し、後半はTOEFL、TOEIC等の問題に挑戦する。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

ドイツ語F

松 本 洋 子

ドイツの第三帝国に関係する論文、またはドイツ新聞（Die zeit, Neues Deutschland, Die Frankfurter Allgemeine）の論評などを読みながらドイツ語の読解力をつけて行く、同時にドイツの歴史、社会についての理解を深めて行きたい。テキストはプリントで配布する。

ドイツ語F L L（初級）

P. ジャコムツィ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語F L L（中級）

松 岡 晋

本講義はF L L（初級）終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履習してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。

フランス語F

遠 山 博 雄

前期については語学のレベルを中級から上級に引き上げることを第一目的とし、フランス語の文章を欲張らずにじっくりと読んでいきます。テキストは参加する学生諸君の希望を聞いてから、また所属学部を考慮にいれて、第一回の授業の時に決定します。後期に関しては、前期授業による語学知識の深化をふまえて、再度学生諸君と相談の上教材を選択するつもりです。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を用いて、一年間で何とか「初級」のフランス語が話せ、聞きとれるようにします。文法は、知識としては、有ったほうが有利でしょうが、特に重要とは言いきれません。ふだんと同じような、日本語を話したり聞いたりするのと同じ調子で、授業に(休まず)出てきて、声を出していれば、おのずからフランス語での「おしゃべり」の基礎がつくられていく、はずです。初心者でも参加できるような授業内容にするつもりです。〔教科書〕開講時に指示します。

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。〔教科書〕『Avec Plaisir 1』

中 国 語 F

釜 屋 修

中国語一年以上履修者を対象とする。最近の中国文学作品を精読しつつ、現代中国の民衆像についてともに考えていく。〔教科書〕開講時にプリント配布。〔参考書〕その都度紹介する。

中国語 F L L (初級)

釜 屋 修

中国語を一年間履修したもの、あるいはそれと同等の学力を有するものを対象とし、日常初級会話を中心に、口語基本表現形式の習得をめざす。ビデオ教材使用。〔教科書〕開講後指示する。〔参考書〕開講後指示する。

中国語 F L L (中級)

松 本 丁 俊

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

M. アルマラス

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリーオーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——最新版のアガニョーク、諷刺漫画（クロコディル）、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に、現代ソ連におけるペレストロイカの動向を探っていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語F L L（初級）

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』（白水社）

ロシア語F L L（中級）

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや、平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』（白水社）

英語（海外演習）

この授業科目はハワイ大学・カリフォルニア大学・クイーンズランド大学・プリティッシュコロロンビア大学における短期留学セミナーでの四週間・60時間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとする。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学 (高田 知波)	79
基礎国文学 (田中 徳定)	79
基礎国語学 (若杉 哲男)	79
基礎中国文学 (中村 璋八)	79

専門教育科目

国文学概論 (水原 一)	79
国語学概論 (木村 晟)	79
国文学講読 I (村上 光徳)	80
国文学講読 II (田中 徳定)	80
国文学講読 III (林 達也)	80
国文学講読 III (富士 昭雄)	80
中国文学講読 (篠原 壽雄)	80
国語学研究 (木村 晟)	80
国語学研究 (田中 章夫)	80
国語学研究 (長尾 勇)	80
国文学史 (上代) (遠藤 宏)	81
国文学史 (中古) (高橋 文二)	81
国文学史 (中世) (村上 光徳)	81
国文学史 (近世) (林 達也)	81
国文学史 (近代) (畑 實)	81
国語学演習 I (木村 晟)	81
国文学演習 I (上代) (小野 寛)	81
国文学演習 I (中古) (高橋 文二)	81
国文学演習 I (中古) (田中 徳定)	82
国文学演習 I (中世) (水原 一)	82
国文学演習 I (中世) (村上 光徳)	82
国文学演習 I (近世) (林 達也)	82
国文学演習 I (近世) (富士 昭雄)	82
国文学演習 I (近代) (片岡 懋)	82
国文学演習 I (近代) (高田 知波)	82
国文学演習 I (近代) (畑 實)	82
国語学演習 II (木村 晟)	82
国文学演習 II (上代) (小野 寛)	83
国文学演習 II (中古) (高橋 文二)	83
国文学演習 II (中古) (田中 徳定)	83
国文学演習 II (中世) (水原 一)	83
国文学演習 II (中世) (村上 光徳)	83
国文学演習 II (近世) (林 達也)	83
国文学演習 II (近世) (富士 昭雄)	83
国文学演習 II (近代) (片岡 懋)	83
国文学演習 II (近代) (高田 知波)	83
国文学演習 II (近代) (畑 實)	84
国文学研究 (片岡 懋)	84

国文学研究 (畑 實)	84
国文学研究 (村上 光徳)	84
国語学史 (田中 章夫)	84
言語学概論 (飯島 周)	84
上代文学講読 (小野 寛)	84
近代文学講読 (高田 知波)	84
上代文学 (小野 寛)	85
中古文学 (廣島 まさる)	85
中世文学 (水原 一)	85
近世文学 (富士 昭雄)	85
近代文学 (片岡 懋)	85
近代文学 (高田 知波)	85
国文学特講 I (近藤 瑞男)	85
国文学特講 I (武藤 元昭)	85
国文学特講 II (岩佐 美代子)	86
国文学特講 III (神野藤 昭夫)	86
国文学特講 IV (牧野 和夫)	86
中国文学 (中村 璋八)	86
中国文学演習 (中村 璋八)	86
中国文学概論 (篠原 壽雄)	86
仏教概論 (山内 舜雄)	86
東洋思想研究 (館野 正美)	86
日本史概説 I (古代・中世) (渡辺 直彦)	87
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫)	87
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	87
書道史 (谷村 義雄)	87
書道実習 I (金子 卓義)	87
書道実習 II (金子 卓義)	87
美術史概説 (林 良一)	87
美術史 (谷村 義雄)	87
現代美術 (宮崎 克己)	88
編集実務 (長谷川 孝)	88
英米文化 (荒井 良雄)	88
日本民俗学 (谷口 貢)	88

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

高 田 知 波

日本の近代小説を〈学問〉として読む、ということの基礎的な学習が目的である。素材としては『舞姫』『坊っちゃん』『こころ』をとりあげる予定。

〔教科書〕森鷗外著『阿部一族・舞姫』
夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』
(いずれも新潮文庫版)

基礎国文学

田 中 徳 定

古典文学の代表的な作品を取り上げながら、どのように作品を読み解いていくのかを考え、また作品と時代とはどのように関わっていたのかを考えていくことを目的とする。

〔教科書〕『日本文学の古典 第二版』
(岩波新書) ¥480

基礎国語学

若 杉 哲 男

直接は、文語を中心とする国文法への考察を目的とするが、それだけにとどまらず、広く言葉に関する諸問題を取上げて、国語への関心と知識を深めるようにしたい。

〔教科書〕塚原鉄雄著『新講古典文法』(新典社)
¥1,236

基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解読し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』(明治書院)
¥1,500

専門教育科目

国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について国文学史の視野から各種作品の実例に触れつつ講じ、研究課題・研究法等について概観する。

〔教科書〕吉田精一編『日本文学概説』(有精堂)
¥1,800

国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。— こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や

文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）
¥1,000

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』（岩波書店）
時枝誠記著『国語学原論』（岩波書店）
山田忠雄著『国語学概論』（日大通信
教育部）

国文学講読Ⅰ

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読Ⅱ

田中徳定

『源氏物語』「若紫」の巻を講読し、王朝文学の特質について考察する。

〔教科書〕 『源氏物語（一）』（明治書院）
¥1,200

国文学講読Ⅲ

林達也

井原西鶴の『世間胸算用』を精読して、西鶴の町人もの世界について考えることにしたい。

〔教科書〕 富士昭雄『世間胸算用』（明治書院）

国文学講読Ⅲ

富士昭雄

上田秋成の『雨月物語』を講読し、秋成文学の特質を考察する。

〔教科書〕 校注古典叢書『雨月物語』（明治書院）
¥1,339

中国文学講読

篠原壽雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにつとめたい。

〔教科書〕 『詩文精粹』（明治書院）¥1,100

〔参考書〕 その都度紹介したい。

国語学研究

木村 晟

唱導文学として知られている『玉造小町壮衰書』を、鎌倉期古写の東大本と、室町期写本の叡山文庫本とを比較して国語史の立場から解説を加える。和習を帯びた変体漢文の用字法、文選読み、傍訓・捨て仮名の用法等を考察し、『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 山内潤三他編『玉造小町壮衰書』（笠間書院）¥2,000

〔参考書〕 授業中に説明する。

国語学研究

田中章夫

現代日本語の背景としての江戸語の形成から、明治に至る近代日本語の成立過程を考察する。

〔教科書〕 真田信治著『標準語の成立事情』（PHP研究所）

国語学研究

長尾 勇

1. 国立国語研究所編「日本言語地図（LAJ）」
300面は世界的にも高い水準にある方言地図といえる。この「LAJ」の数十面をとりあげて、方言分布にいろいろのスタイルのあることを知り、方言地図の読み方を学ぶ。

2. テレビ・ラジオの影響、教育の普及、交通網の発達等により、日本各地の貴重な文化財である方言は次第に消滅しつつある。方言の記録はここ数年が最後のチャンスである。学生諸君が独自に郷里などで実施し得る科学的な方言調査法を学ぶ。

〔教科書〕徳川宗賢編『日本の方言地図』
中公新書533（中央公論社）¥620

国文学史（上代）

遠藤 宏

文学の発生からの上代文学の流れを講述する。
〔教科書〕小野 寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

国文学史（中古）

高橋 文二

『蜻蛉日記』をはじめとする平安時代の女流日記の史的展相を辿りながら、それら諸作品の特質を考え、さらには、王朝の女流文学とは、この国の文学史の中において、どのような意味あいをもつものであったのか、を考えたい。

〔教科書〕『風景と共感覚』（春秋社）

国文学史（中世）

村上 光徳

太平記以後の軍記物語の流れを史実を追いながら、時代背景や作品の特質・作者の問題等を講ずる。

国文学史（近世）

林 達也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。本年は、古典学・国学を中心にして、考えていくことにする。教材は、教場において、その都度配布する。

〔参考書〕原 道生・林 達也編『日本文芸史』
〔第四巻 近世〕（河出書房）

国文学史（近代）

畑 實

近代文学の流れを講ずる。テキストは用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

国語学演習 I

木村 晟

室町期の国語資料である『かながき論語』を採り挙げ、室町時代の音韻・語彙・語法・仮名づかいの各方面から考察する。『名義抄』『日葡辞書』『下学集』『節用集』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕プリントを用意する。

〔参考書〕授業中に紹介する。

国文学演習 I（上代）

小野 寛

『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当し、本文の異同、諸注釈の検討、用語の調査研究など、徹底的によみ込んでゆく。今年度は巻三から歌を取り上げる。

〔教科書〕鶴 久・森山 隆編『万葉集』
（桜楓社）

〔参考書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
（笠間書院）

国文学演習 I（中古）

高橋 文二

『源氏物語』の「朝顔」の巻を読み、王朝文学世界の特質を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の通時的・共時的調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。作業は、時間をかけた、厳密なものでありたい。

〔教科書〕（影印本）「朝顔」（新典社）

国文学演習 I (中古)

田 中 徳 定

『今昔物語集』を中心として、説話集に取り入れられた説話の典拠・類話の調査をしながら、説話の伝承の問題について考察していく予定。

〔教科書〕『説話文学選(古代)』(和泉書院)
¥1,300

国文学演習 I (中世)

水 原 一

『とはずがたり』について文学上の問題点を探り、調査研究を発表し、意見を交換し、研究技術を学ばせる。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』
(筑摩書房)

国文学演習 I (中世)

村 上 光 徳

『無名抄』の研究。とくに歌論・歌学に関する研究を中心とする。六条源家の流れを受けついでいる鴨長明が当時の歌壇をどのようにうけとめていたか、また和歌について考察する。

〔教科書〕『方丈記・無名抄』(双文社)

国文学演習 I (近世)

林 達 也

学生各自が、近世文学の作品の中から一つ選び、そのレポートを中心に授業をすすめる。レポートにあたっては、レジュメの用意を義務とする。但し、出席学生の数によって、若干の変更を行うこともある。

国文学演習 I (近世)

富 士 昭 雄

『西鶴諸国ばなし』『懷硯』などの読解を通して、西鶴の文学の特色を考察する。

〔教科書〕『西鶴諸国ばなし』(桜楓社)
¥1,854

国文学演習 I (近代)

片 岡 懋

泉鏡花、国木田独步、正宗白鳥、夏目漱石、木下杢太郎、山本有三、菊地寛、横光利一、堀辰雄、井伏鱒二らの小説、戯曲からそれぞれに幾つかを選び、その作品の内容と文学史の流れの中に於ける作家なり作品なりの位置についても考察する。取り扱う作品については最初の時間に示すが、鏡花の「外科室」、「海域発電」、「照葉狂言」などから始める予定。

国文学演習 I (近代)

高 田 知 波

〈戦後前期の小説〉を演習テーマにする。敗戦から昭和30年代末までの約20年間に書かれた代表作・問題作を読んでいく。

〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習 I (近代)

畑 實

明治期の小説

明治二十年代、三十年代に出た主要な作品を取り上げて演習を行う。取り上げる作品、演習方法等については最初の時間に指示する予定。

国語学演習 II

木 村 晟

鎌倉時代成立の『西方指南抄』を解読して、音韻・表記・語彙・語法の各方面から考察する。併せて卒論指導も行なう。『名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の古辞書は常に参照する。

〔教科書〕プリントを用意する。

国文学演習Ⅱ（上代）

小野 寛

記紀・風土記・万葉集など上代作品を徹底的によみ込んでゆく。とり上げる作品は、開講時に相談してきめる。後期には、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、揉み合いながら、それぞれの卒業論文への結実を図る。

国文学演習Ⅱ（中古）

高橋 文二

『枕草子』を読み、王朝文学世界の特質について考える。併せて卒論の指導をかねる。
〔教科書〕校注『枕草子』（和泉書院）

国文学演習Ⅱ（中古）

田中 徳定

『伊勢物語』を読みながら、歌物語における虚構の問題を中心に考えていく。併せて卒業論文指導も行なう。
〔教科書〕『伊勢物語』（明治書院）¥980

国文学演習Ⅱ（中世）

水原 一

『平家物語』は異本すこぶる多く、それは研究上の障害でもあるが、反面豊富な問題を提示しているともいえる。八坂系統の異本を選定し、諸本をも比較しつつ、記事や表現・構成について研究する。
〔教科書〕授業時に指示する。

国文学演習Ⅱ（中世）

村上 光徳

『承久記』の研究。とくに慈光寺本を中心に他本との比較検討、時代背景人物の動き、作者の問

題等をも合わせて考察する。
〔教科書〕村上編『承久記』『慈光寺本全』
（桜楓社）¥2,800

国文学演習Ⅱ（近世）

林 達也

近世文学の作品を読み、作品の読解方法を身につけることを目的とする。読む作品は、開講時に、学生と相談のうえ、きめる。

国文学演習Ⅱ（近世）

富士 昭雄

影印本による西鶴など近世文学の演習。併せて卒業論文の指導をする。
〔教科書〕教場でプリントを配布する。

国文学演習Ⅱ（近代）

片岡 懋

夏目漱石の後期の作品を主にして考察しながら、卒業論文についての指導助言を併せて行う。漱石については「彼岸過迄」から始める。

国文学演習Ⅱ（近代）

高田 知波

学生の卒業論文テーマと関連させながら日本の近代小説を対象にした演習を行う。
〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習Ⅱ（近代）

畑 實

森鷗外、樋口一葉、北田薄水、広津柳浪等の作品について演習を行い、あわせて卒業論文の指導を行う。テキスト、演習の方法等は授業の最初の時間に指示する。

国文学研究

片岡 懋

日本近代の浪漫主義文学について考察する。北村透谷から始める。

国文学研究

畑 實

明治初期の文学論

明治十年代に出た作品の序や坪内逍遙の「小説神髓」二葉亭四迷の「小説總論」その他の評論などを読み、それを通して近代小説成立期の問題を考えてみたい。

〔教科書〕『現代日本文学大系1 政治小説・坪内逍遙・二葉亭四迷集』（筑摩書房）

国文学研究

村上 光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

国語学史

田中 章夫

主として、近代の文法学説の展開を、文法事象の観察を通じて考察する。

〔教科書〕重松信弘著『国語学史綱要』（武蔵野書院）

〔参考書〕松村 明編『日本文法大辞典』（明治書院）

北原保雄ほか著『日本文法事典』（有精堂）

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕V. マテジウス『機能言語学』（桐原書店）¥2,800

上代文学講読

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土紀』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが曲節をつけ、所作をつけ、楽器を伴奏に唱ったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

近代文学講読

高田 知波

樋口一葉の代表作は「奇蹟の期間」と呼ばれる14ヶ月間に集中している。この時期の主要作品を

購読し、一葉の思想と表現を考察する。
〔教科書〕『にぎりえ・たけくらべ』
(新潮文庫版)

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。
〔教科書〕小野 寛著『万葉集抄』(笠間書院)
〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料 上代文学史』(笠間書院)

中古文学

廣島 まさる

影印本によって草がなの読み方を養うとともに、読解力を深め、さらに作品の持つ文芸性や作品中の人物像にも触れることにする。
〔教科書〕源氏物語『藤裏葉』影印本(新典社) ¥700
廣島まさる編『写本の読み方』
(桜楓社) ¥680

中世文学

水原 一

鴨長明作『発心集』を読んで、仏教説話の意義に触れ、作者の人物像について考える。
〔教科書〕三木紀人『方丈記・発心集』(新潮日本古典集成)(新潮社)

近世文学

富士 昭雄

『猿蓑』の連句の講読を通して、蕉風俳諧の特質を考察する。また影印本の読解に習熟する。
〔教科書〕(影印本)『猿蓑』(武蔵野書院) ¥620

近代文学

片岡 懋

島崎藤村と田山花袋の作品を中心に、明治20年代中葉以後の文学の展開の相を考察する。

近代文学

高田 知波

「日清戦争後の日本文学」をテーマにする。19世紀末から20世紀への移行期における文学状況を、小説を中心に考察していく。
〔教科書〕教場で指示する。

国文学特講 I

近藤 瑞男

近松門左衛門の世話浄瑠璃『心中天の網島』をとり上げる。近松の代表的傑作として著名な本作を、登場人物の心理、行動をていねいに追いながら講読して行きたい。古典芸能としての文楽(人形浄瑠璃)や歌舞伎への理解をふかめることも考えながら、授業をすすめるつもりである。
〔教科書〕もう少しお待ち下さい。

国文学特講 I

武藤 元昭

江戸読本の発生と変遷について考えてみたい。山東京伝・曲亭馬琴の読本が生まれるまでの過程を簡単に辿り、京伝・馬琴の読本の個々について考察を加える。本年は京伝の最後の読本『双蝶記』に至ることを目標とする。講義はノート形成とする。

国文学特講Ⅱ

岩佐美代子

『千載和歌集』。中世最初の勅撰集であり、新古今集を生み出す基盤となったこの集を演習形式で読みたい。注釈書は無いに等しいので、自力による和歌読解の力を養い、多くの作品を読みなれる事を目的とする。

〔教科書〕久保田淳校注『千載和歌集』
(岩波文庫) ¥550

国文学特講Ⅲ

神野藤昭夫

『源氏物語』のいわゆる宇治十帖を対象として、巻を追いながら、その輪郭と特質について論じる。匂宮巻の前後から考察を開始することにした。

〔教科書〕新潮古典集成『源氏物語』(六)
または小学館の日本古典文学全集『源氏物語』(五)以降を用意されたい。

国文学特講Ⅳ

牧野和夫

中世文学の周辺をめぐる、諸種の資料を紹介しつつ、漢籍受容の問題、民間信仰にかかわる問題などを講ずる予定である。

又、従って、その前提となる書誌的知識を「実物」を通して、学んで戴くことになる。

中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版) ¥2,000

中国文学演習

中村璋八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智慧の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕プリント

中国文学概論

篠原壽雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の詩賦文章を中心に、その時代相と文人と、その作品を学ぶ。なお、日本文学との関連作品なども併せ講じたい。

〔教科書〕塩谷温著『中国文学概論』(講談社) ¥880

仏教概論

山内舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的發展に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

東洋思想研究

館野正美

中国古代の哲学思想のうち、本年度は、特に「易」の哲学体系に焦点をあてて講義する。

易の哲学体系は、「占い」という一種の宗教的実践を背景に、深い形而上学的思惟によって貫かれた、六十四卦の象徴体系(シンボリズム)であると考えられる。そこで、この易の哲学体系を概観することによって、中国古代における哲学的思

惟の一端を、いささか明らかにすることができる
と思うのである。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺直彦

平安時代の諸様相について概観する。

〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』

〔中公文庫〕（中央公論社）¥640

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会
の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題
点の発見に資するように努めたい。教科書は特定
しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）

¥4,800

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文
化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元
禄文化等、中世から近世にかけての文化について
詳述する。

書道史

谷村義雄

文字の発生から書体の変遷、書風の変化、書法
の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿
り、また日本での独自の展開を概観する。本学で
は書道科の教職過程として開講しているので、書
道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書
道史の延長とする。

〔参考書〕神田喜一郎著『中国書道史』

（岩波書店）¥5,800

『書の歴史』（二玄社）¥1,800

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表
現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月
頃まで）は楷、行、草の各体の古典を広く学び、
後半は中国北魏時代の楷書『高貞碑』を細かに深
く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅰ』（高校用教科書）

（教育出版）

『高貞碑』（書学名蹟選）

（日本書道資料㈱）

書道実習Ⅱ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表
現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月
頃まで）は楷、行、草の各体の古典を広く学び、
後半は中国王羲之の行書『集字聖教序』を細かに
深く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅱ』（高校用教科書）

（教育出版）

『集字聖教序』（書学名蹟選）

（日本書道資料㈱）

美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが
国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開につい
て講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー
・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるよう
に努める方針である。

美術史

谷村義雄

書道科の教職課程として開講する関係上、講義
や内容は書の歴史とする。

〔参考書〕『書の歴史』（二玄社）¥1,800

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

編集実務

長谷川 孝

情報化社会といわれる今、多様な情報を主体的に選択し活用できる力が必要です。そしてそれ以上に、自分のほうから情報を発信できる能力も大事だと言われます。自分の中にある知識や体験、意見や批判、感動や思いなどを、さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと攷みとり、それに形を与えて他者に伝わるように表現することです。この講義では、さまざまな表現手段の中で文章と印刷を中心にした表現の担い手としての編集者に必要な、知識と技能と心構えを考えていきます。また、その中で個人のミニ新聞（雑誌）をつくってもらい、作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川孝編著『新聞をつくろう』
（さ・え・ら書房 ¥1,200）を随時、
使用します。

英米文化

荒井 良雄

英米の文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』
（新樹社）¥2,000

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論 (高野 正夫)	90
米文学概論 (金関 寿夫)	90
基礎英語 I A (東 雄一郎)	90
基礎英語 I A (河崎 征俊)	90
基礎英語 I A (高野 正夫)	90
基礎英語 I B (J. S. Lander)	90
基礎英語 I B (N. Readdy)	90
基礎英語 I B (T. J. Wright)	91
基礎英語 II A (東 雄一郎)	91
基礎英語 II A (河崎 征俊)	91
基礎英語 II A (高野 正夫)	91
基礎英語 II B (J. S. Lander)	91
基礎英語 II B (N. Readdy)	91

専門教育科目

英語学概論 (大沢 一雄)	91
英語音声学 (坂本 武)	92
英作文 I (東 雄一郎)	92
英作文 I (高野 正夫)	92
英作文 I (佐藤 千春)	92
英作文 I (坂本 武)	92
英文学史 I (河崎 征俊)	92
英文学史 II (中岡 洋)	92
米文学史 (佐藤 千春)	93
英語史 (岡田 尚)	93
音声学 (坂本 武)	93
英米語学演習 (英作文 II) (佐藤 千春)	93
英米語学演習 (英作文 II) (河崎 征俊)	93
シェイクスピア (荒井 良雄)	93
英文学演習 I (河崎 征俊)	93
英文学演習 II (荒井 良雄)	93
英文学演習 III (荒井 良雄)	94
英文学演習 IV (高松 雄一)	94
英文学演習 V (高野 正夫)	94
英文学演習 VI (中岡 洋)	94
英文学演習 VII (高松 雄一)	94
英文学演習 VIII (金関 寿夫)	94
米文学演習 I (金関 寿夫)	94
米文学演習 II (東 雄一郎)	94
米文学演習 III (佐藤 千春)	95
米文学演習 IV (田中 剛)	95
米文学演習 V (土岐 恒二)	95
米文学演習 VI (佐藤 吉介)	95
英米演劇演習 (荒井 良雄)	95

英文学特講 I (石原 孝哉)	95
英文学特講 II (小林 亨)	95
英文学特講 III (高野 正夫)	95
英文学特講 IV (中岡 洋)	96
英文学特講 V (高松 雄一)	96
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	96
米文学特講 I (東 雄一郎)	96
米文学特講 II (金関 寿夫)	96
米文学特講 III (山縣 敏夫)	96
米文学特講 IV (田中 剛)	96
米文学特講 V (佐藤 吉介)	96
英米演劇特講 (落合 和昭)	97
英米語学演習 (言語学) (大沢 一雄)	97
英米語学演習 (英語史) (岡田 尚)	97
英米語学演習 (英文法) (岡田 尚)	97
英米語学演習 (英会話) (W. Hubbard)	97
英米語学演習 (英会話) (N. Readdy)	97
英米語学演習 (英会話) (T. J. Wright)	97
英米語学演習 (音声学) (坂本 武)	97
英米文化 (荒井 良雄)	97
時事英語 (大沢 一雄)	98
商業英語 (町井 靖)	98
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	98
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	98
現代美術 (宮崎 克己)	98

英 米 文 学 科

基礎教育科目

英文学概論

高野正夫

文学にはさまざまなジャンルがあり、アリストテレスは 'drama', 'epic' そして 'lyric' の三つに文学のジャンルを分けていた。一般的には, 'prose' と 'poetry' の二つの分け方があるようであるが, 現代では, これが 'fiction', 'drama' そして 'poetry' の三つのジャンルに分けられることもある。

このようなさまざまな多様性をそなえた英文学の, 初期の時代から現代までに現われた, 主要な作家, 詩人, そして戯曲家などの作品について論じながら, 具体的な考察を進めていくつもりです。
〔教科書〕教場にて指示します。

米文学概論

金関寿夫

米文学鑑賞研究に必要な時代背景, 思想, 文学批評などを解説, アメリカ文学の特質を明らかにする。

〔参考書〕教場で示す。

基礎英語 I A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

基礎英語 I A

河崎征俊

英語の基礎力の向上をねらいとします。したがって, Reading, Translation, Hearing, Composition などを中心とした総合的学習を行います。予習・復習を欠かさないことが大切です。
〔教科書〕教場にて指示します。
〔参考書〕未 定。

基礎英語 I A

高野正夫

さまざまな英文を読み, そしてテープを使いながら, 総合的な英語力の向上を図るつもりです。
〔教科書〕教場にて指示します。

基礎英語 I B

J. S. Lander

This class will focus on listening skills (50%) and speaking skills (50%). The text is video-based and interesting for young people. Grading is based on ACTIVE PARTICIPATION IN CLASS.

Textbook to be announced first day of class.

基礎英語 I B

N. Readdy

In the first semester, we will be using one of the textbooks in the English 900 Series. Emphasis will be placed on grammar, sentence structure, substitution drills and listening /comprehension skills. Group and individual

participation is required.

In the second semester, we will be studying in preparation for the STEP Test level 3. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation and individual speaking. The STEP Test is divided into two sections ; listening and speaking. This class will concentrate on the speaking part only as listening skills should have improved after the first semester.

There will be two examinations during the schoolyear and students are required to attend both to receive a grade.

Textbooks ; 1st Semester. To be chosen later depending on the ability of the class as a whole.

2nd Semester. All materials will be supplied by the instructor.

基礎英語 I B

T. J. Wright

This class will cover the four skills of the language comprehension. Students will be expected to try to understand and communicate in English.

The class will be challenging and educational.

基礎英語 II A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

基礎英語 II A

河 崎 征 俊

英語の基礎力から応用力への向上をねらいとします。高度な英文構造の把握や、内容及び思考を必要とする Composition の演習を行ないます。予習・復習に努めて、積極的な学習を心がけることが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未 定。

基礎英語 II A

高 野 正 夫

現代のイギリス作家の文章を読みながら、さまざまな英語的表現や言いまわしについてもふれていくつもりです。

〔教科書〕教場にて指示する。

基礎英語 II B

J. S. Lander

This class will focus on listening and speaking skills. (50% listening / 50% speaking). The text will be video-based and interesting. Grading is based on ACTIVE PARTICIPATION in class.

TEXT TO BE ANNOUNCED FIRST DAY OF CLASS.

基礎英語 II B

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but on a more intermediate level.

〔教科書〕 See content for 1st year students.

専 門 教 育 科 目

英語学概論

大 沢 一 雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、言語について研究する学問すなわち言語学の一部である。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語でEnglish philology とかEnglish linguistics といわれるのは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、

語彙(い)論、意味論、語源論、文体論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

英語音声学

坂本 武

言語学の一分野としての音声学は、当該言語学習の重要な基礎学問の一つである。本講義では、母音・子音・半母音についての調音音声学入門から、この科目に関する必須各論を講じる。音声記号のみをとりあげても、〔i〕や〔r〕をはじめとする初見のものが数多く出てくるので、十分注意して受講されたい。Tapeを併用して、nativesの発音に習熟してもらうよう配慮する。また、年間数冊のノート提出を求めるとともに、出欠およびassignmentsの提出は、いずれも重視する。過去6年間学習してきた英(米)語発音について、各自の積極的な見直しが多分必要となろう。さて、〔fənéfəks〕は何と発音するか。
〔教科書〕教場にて指示する。

英作文 I

東 雄一郎

基本構文から応用へと、ある程度自己の感情、思想を自由に英語で表現できるようになるためのtrainingを行う。しかし、英作文はあくまでもfour skills of English learningの一つであることを忘れずに。毎回、授業の始まりから20分間ほどの時間は、数問の小テストにあて、それを出席にかえる。授業に対するpreparationは必要不可欠。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

英作文 I

高野 正夫

日常生活などでよく使われる、口語的な表現を

とり上げながら作文の授業を進めていく予定です。
〔教科書〕教場にて指示します。

英作文 I

佐藤 千春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を十分に養ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

英作文 I

坂本 武

一般的散文、時事文および手紙文等について幅広く採りあげる積りである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。
〔教科書〕教場にて指示する。

英文学史 I

河崎 征俊

古代から中世をへて、ルネサンス及び18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品などの説明を中心に講義します。
〔教科書〕教場にて指示します。
〔参考書〕未定。

英文学史 II

中岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austenらの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる喜びを共に味わいたい。
〔教科書〕荒牧鉄雄・岡地嶺著『英文学読本』(開文社) ¥1,800

米文学史

佐藤千春

一般にアメリカの歴史は17c. から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、18c. の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばり分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。

〔教科書〕井上謙治編『アメリカ文学史入門』
(創元社)

英語史

岡田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕教室で指示する。

音声学

坂本 武

「調音音声学」の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが本講義の内容である。今更発音の修正など…と思わず、英米文学科生として必須の科目であると考え、第一歩から徹底的に取り組んでほしい。英語の母音、子音からはじめて、各論に至るまでの知識を得てほしいのである。英語専攻の学生が、「natives の言うことが判らない」では困るので、英音、米音の区別等についても詳しくふれる。出欠は重視すると同時に、年間数冊のノートおよびTapeの提出を求める。

〔教科書〕教室にて指示する。

英米語学演習(英作文Ⅱ)

佐藤千春

すでに英作文Ⅰで十分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

英米語学演習(英作文Ⅱ)

河崎 征俊

短文から長文への応用力養成を主眼とします。予習、復習を欠かさず受講することが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕教場にて指示します。

シェイクスピア

荒井良雄

シェイクスピアの人生観と劇作術と言葉の魅力を中心に講義します。生涯と作品、批評史や上演史などにも言及しながら講義を進めます。特にシェイクスピアに関心の深い学生は、全作品を一冊に収録したThe Alexander Text(Collins)を持つのが望ましいと思います。

英文学演習Ⅰ

河崎 征俊

Chaucer の作品及びPearl-poet の作品を読みます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅱ

荒井良雄

シェイクスピアの悲劇MACBETH の原文を精読し、批論文を読みます。シェイクスピアの英語の劇的な意味を探り、上演台本としての魅力を引き出し

ます。

〔教科書〕Shakespeare : MACBETH (研究社小英文叢書) ¥940

英文学演習Ⅲ

荒井良雄

英米現代文の演習を、THE LISTENER, TIME, NEWSWEEK, JAPAN TIMES などの論説を中心にを行います。またオスカー・ワイルドのウィットを毎時間少しずつ読みます。

〔教科書〕オスカー・ワイルド『OSCARIANA』(北星堂) ¥1,300

英文学演習Ⅳ

高松雄一

18世紀古典主義詩人Alexander Pope他の作品を読む。

〔教科書〕開講時に指示する。

英文学演習Ⅴ

高野正夫

イギリス・ロマン派から現代にいたるまでの主要な詩人について、それぞれの時代的背景や特徴をふまえながら読んでいくつもりです。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅵ

中岡洋

Anne Brontë 作 Agnes Grey (1847) について勉強する。

英文学演習Ⅶ

高松雄一

Virginia Woolfの小説*Mrs. Dalloway* を読むことから始める。

〔教科書〕Virginia Woolf, *Mrs. Dalloway* (Panther Books) または (研究社)

英文学演習Ⅷ

金関寿夫

イギリスの現代詩人T. S. エリオット、オーデン、スペンダーなどの詩および文化一般についての批評作品を読みながら、現代英語文学の特質を考察する。

〔教科書〕ゼロックス・プリントによる。

〔参考書〕教場で指示。

米文学演習Ⅰ

金関寿夫

ロバート・フロストよりゲイリー・スナイダーまで、16人のアメリカ現代詩人のアンソロジーを精読、時代精神との関連においてアメリカ詩の真髄を考察する。

学生諸君の独自の研究を重んじ、クラスへの積極的参加を前提とする。

〔教科書〕ピアスン、金関編、*Sixteen Modern American Poets* (英潮社)

〔参考書〕教場で指示する。

米文学演習Ⅱ

東雄一郎

新鮮で簡潔な文体を駆使し人間の内的世界と現代生活の様相を描出しようとしたシャーウッド・アンダソン (1876-1941) の作品『ワインズバーグ、オハイオ』を読みます。さらに1920年代のアメリカを考えて行きます。都会と農村、物質文明と夢想、断片と統合、抑圧と解放、ならびに逃避等の問題を活発に議論して下さい。

米文学演習Ⅲ

佐藤千春

アメリカ文学史上、1850年から1855年にいたる五年間は、“moment of adult health”と呼ばれる黄金時代であり、アメリカ文学が世界に誇る名作を続々と世に出した。「アメリカ・ルネッサンス」と呼ばれるのはこの時期のことである。ここでは、その代表的作家、エマソン、ホーソン等を取りあげ、問題点を探ってみることにする。

テキストその他に関しては、授業開始の時に連絡する。

英米演劇演習

荒井良雄

英米の一幕物を中心にした演習を行います。英国演劇ではバーナード・ショー、アメリカ演劇ではユージン・オニールの一幕物を取りあげます。演劇入門として、最初にドナルド・リチーの新作英語狂言を読みます。

〔教科書〕ドナルド・リチー著『Kyogen』

〔Three Modern Kyogen〕(研究社)

予価¥1,200

米文学演習Ⅳ

田中剛

ジョン・スタインベックの代表的作品、『怒りのぶどう』を読みつつ、他のスタインベックの作品を考察する。

〔教科書〕John Steinbeck: *The Grapes of Wrath* (英潮社新社ペンギンブック)
¥3,090

英文学特講Ⅰ

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』(三修社)

米文学演習Ⅴ

土岐恒二

アメリカの作家・批評家の文明論的紀行文を読む。テキストは授業時に指示する。当面、プリントを使用の予定。

英文学特講Ⅱ

小林亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察する。講義だけでなく出来る限り作品に接することをこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

米文学演習Ⅵ

佐藤吉介

英文を修得するためアメリカ文学作品、例えばMark Twain, Stephen Craneなどの19世紀の作品を読む。(プリント使用)

英文学特講Ⅲ

高野正夫

詩が読者を失ってから久しいと言われているが、このような傾向に抗してイギリス的な詩の復興を唱えた、1950年代の‘The Movement’の詩人を中心に論じていく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre* や*Wuthering Heights* を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指定する。

英文学特講Ⅴ

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。

〔教科書〕開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸 小 哲 雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の意義と快楽を目指します。

〔教科書〕適宜プリントを配布します。

米文学特講Ⅰ

東 雄 一 郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の内向性と開拓者精神の外向性を常に遍在させ、American Renaissance, Realism, Chicago

Renaissance, Harlem Renaissance を展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism とPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕開講時に指示します。

米文学特講Ⅱ

金 関 寿 夫

アメリカ小説に現われた様々な人間疎外の様相を、19世紀中葉から現在までの代表的な作品について、宗教的、社会的、人種的その他の角度から検討、アメリカ文学の特質を探る。

〔参考書〕教場で示す。

米文学特講Ⅲ

山 縣 敏 夫

20世紀アメリカ文学、特に黒人作家やユダヤ系作家の作品をとりあげ、社会的変遷とのかかわりあいについて研究する。

米文学特講Ⅳ

田 中 剛

イギリスのアメリカ文学者、マルカム・ブラッドベリー著『現代アメリカ小説』の1930年代の部分を解説しつつ、30年代の主要な小説からの抜粋を読む。（教場でコピーを配る。）

米文学特講Ⅴ

佐 藤 吉 介

アメリカ文学の作品を材料に使うって批評の方法 — 分析、文体論、表現論、時間論 — を習得せしめるように講述する。最近の言語記号論も考察に入れてみたい。

〔教科書〕プリント

英米演劇特講

落合和昭

今年度は、悲劇、メロドラマ、喜劇における構成要素を考察する。そのうち、現代演劇の思潮について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が数多く入っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としては、レポートを十回（一回につき、原稿用紙一、二枚程度）を提出してもらう。

and topics will be used. Class discussion and hearing comprehension emphasized. Text and class material will be furnished at class time.

〔教科書〕 No textbook

英米語学演習（言語学）

大沢一雄

Noam Chomskyの著書または論文を読む。テキストは教場で指示。

英米語学演習（英会話）

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but of a more advanced level.

〔教科書〕 See content for 1st year students.

英米語学演習（英語史）

岡田尚

高等学校の英文法の教科書を教材に用い、どのように教えれば生徒が文法に興味をもつかを考えていきたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習（英会話）

T. J. Wright

This will be an intensive conversation class. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to SPEAK! in English. The class will be challenging-exciting and educational.

〔教科書〕 未定

英米語学演習（英文法）

岡田尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習（音声学）

坂本武

3必として学習中、または既学習の調音音声学について、英米語を主体とするさらなる分野、たとえば、より広範囲に亘るRPとGAの差異、リズム学習をはじめとするTapeの聴き取り、時に dictation による natives の生きた発音に対する understanding 等を学習したい。発音に対する十分な取組こそ conversation 上達への第一歩と知るべきである。

〔教科書〕 教場で指示する。

英米語学演習（英会話）

W. Hubbard

Practical English for third and fourth year students. A variety of dialogues, plays

英米文化

荒井良雄

英米の文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕 荒井良雄著『イギリス演劇と映画』（新樹社）¥2,000

時事英語

大沢 一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass mediaすなわちマスコミで用いられる英語である。

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

商業英語

町井 靖

日本企業の国際的進出は、海外での子会社、合併会社の設立、外国企業の買収等めざましいものがあるが、「商業英語」では「商品の輸出入に関する英文の手紙」を勉強する。

取引先の発見、見積り、交渉、注文、船積み等、貿易取引の流れに従って良く使用される基本的表現を修得する。貿易の専門用語も解説する。

〔教科書〕町井 靖著『基礎商業英語』

（梓出版社）¥1,700

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕コピー

〔参考書〕羅話辞典（研究社）

日本文化史Ⅱ

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

地理学科

基礎教育科目

基礎人文地理学 (今朝洞 重美)	100
基礎人文地理学 (長野 覚)	100
基礎自然地理学 (長沼 信夫)	100
基礎自然地理学 (早船 元峰)	100

専門教育科目

人文地理学実習 (菱口 善美)	100
人文地理学実習 (小田 匡保)	100
人文地理学実習 (今朝洞 重美)	101
人文地理学実習 (長野 覚)	101
人文地理学実習 (再クラス) (桜井 正信)	101
自然地理学実習 (小池 一之)	101
自然地理学実習 (中村 和郎)	101
自然地理学実習 (長沼 信夫)	101
自然地理学実習 (早船 元峰)	101
自然地理学実習 (再クラス) (高木 正博)	102
野外巡検 I (中村 和郎)	102
野外巡検 I (桜井 正信)	102
野外巡検 I (西村 嘉助)	102
野外巡検 I (長沼 信夫)	102
野外巡検 I (長野 覚)	102
野外巡検 I (早船 元峰)	102
日本地誌 I (今朝洞 重美)	102
外国地誌 I (山口 岳志)	102
経済地理学 I (杉浦 芳夫)	103
郷土地理学 (長野 覚)	103
集落地理学 (小田 匡保)	103
地形学 I (西村 嘉助)	103
地 図 学 (高木 正博)	103
交通地理学 (生井澤 進)	103
地理学総論 (西村 嘉助)	103
地理学総論 (菱口 善美)	103
地理学総論 (中村 和郎)	103
野外巡検 II (今朝洞 重美)	104
野外巡検 II (小池 一之)	104
野外巡検 II (菱口 善美)	104
野外巡検 II (高木 正博)	104
野外巡検 II (小田 匡保)	104
野外巡検 II (中村 和郎)	104
野外巡検 II (長沼 信夫)	104
日本地誌 II (宮口 侗雄)	104
外国地誌 II (西村 嘉助)	104
経済地理学 II (生井澤 進)	105
地形学 II (今泉 俊文)	105

歴史地理学 (桜井 正信)	105
人口地理学 (上坂 修夫)	105
原書講読 (梅原 弘光)	105
地球物理学 (篠原 正雄)	105
地 質 学 (小池 一之)	105
土壤地理学 (漆原 和子)	106
気 候 学 (中村 和郎)	106
海洋学及び陸水学 (長沼 信夫)	106
環境地理学 (早船 元峰)	106
日本地誌 III (中島 義一)	106
外国地誌 III (梅原 弘光)	106
都市地理学 (今朝洞 重美)	106
計量地理学 (矢野 桂司)	106
応用地理学 I (高木 正博)	107
応用地理学 II (今野 修平)	107
文化地理学 (菱口 善美)	107
空中写真判読法及び測量学 (小池 一之)	107
地理学特講 I (半期) (長野 覚)	107
地理学演習 (小田 匡保)	107
地理学演習 (今朝洞 重美)	107
地理学演習 (小池 一之)	107
地理学演習 (菱口 善美)	108
地理学演習 (桜井 正信)	108
地理学演習 (高木 正博)	108
地理学演習 (西村 嘉助)	108
地理学演習 (中村 和郎)	108
地理学演習 (長沼 信夫)	108
地理学演習 (長野 覚)	108
地理学演習 (早船 元峰)	108

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」，「考え方」とはどのようなものであるか，について事例を中心に説明する。

基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく，かつ，人間と密接なかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

基礎人文地理学

長 野 覚

世界的視野において，自然と人間活動の相関性を考えながら，地理学の発達史を理解すると共に，多彩な人文現象の基礎知識を，系統地理的に講義する。テキストは下記のほか，適宜プリントで補足する。受講に際して地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕藤岡謙二郎著『五訂 人文地理学』（大明堂）

人文地理学実習

荻 口 善 美

この実習は，人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解，および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち，(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義，(2)産業や人口に関する統計資料の収集，整理および図表化作業の修得，(3)地域を選定し，その地理学的説明のための図表およびレポートの作成，(4)一定地域の変化をテーマとして，種々の資料にもとづくレポートの作成。

基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために，自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し，第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお，参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕『自然環境の生い立ち』（朝倉書店）
¥2,200

人文地理学実習

小 田 匡 保

人文地図・統計図表などが，見る人にとってわかりやすく作成できることを目指し，基礎的なことを学ぶ。また歴史史料の扱いにも触れたい。

人文地理学実習

今朝洞 重 美

地形図、都市図を利用して土地利用、宗教、集落など人文地理学に関する実習を行う。

予定しているが、実施の順序は変更することがある。

1. 計測（野外および机上で各種の計測を行う）
2. 統計処理（各種データの整理方法を学ぶ）
3. 地図化（主題図を作成する）
4. 読図（地図の読図を行う）
5. 空中写真判読（空中写真から必要な情報を読む）
6. 地上写真撮影（地理的事象を写真で表現する）

人文地理学実習

長 野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう、土地利用図・地形段彩図・地形図模型などを作成し、人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして、各種の統計地図類を作成することにより、主として人文現象の図化を習得する。

自然地理学実習

長 沼 信 夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕

谷岡武雄ほか著『新訂地理実習』（大明堂）
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

人文地理学実習（再クラス）

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、そのつど指示し、実習の成果をあげるようにする。

自然地理学実習

早 船 元 峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行う。

前 期

- 図上作業（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）
- 資料の収集・整理・分析の方法
- 調査器械・器具の使用法

後 期（班別）

- 粒度分析
- 空中写真判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）
- 水調査（湖水・河川水・地下水の水温、水質等）
- 微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

自然地理学実習

小 池 一 之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査方法などについて実習を行う。

実習内容（予定）

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理方法
3. 空中写真判読（含現地調査）
4. その他

自然地理学実習

中 村 和 郎

自然地理学の基礎的な実習を行う。次の内容を

自然地理学実習（再クラス）

高木正博

自然地理学を学ぶために必要となる、基礎的な実習を行う。

作業内容については、次の事項を予定しているが、授業の進捗状況に応じて指示する。

1. 地形図、空中写真の読み方と主題図の作成
2. 計測器材を利用した調査と、結果の整理
3. 各種の統計資料の解析、図化
4. コンピュータの使用を考慮する

野外巡検Ⅰ

中村和郎

教科書や講義で学ぶ地理的事象（自然・人文）を、学生自らの現地での観察・調査を通じて理解させる。

巡検地と日程はガイダンスのときに発表する。

野外巡検Ⅰ

桜井正信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

野外巡検Ⅰ

西村嘉助

初夏の数日間、東北地方の一地域を選び、終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形学Ⅰを受講する者でないとは参加の意味がない。

野外巡検Ⅰ

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細につい

ては申込時（ガイダンス）に報告する。

1. 巡検地域：北海道・苫小牧とその周辺地域
2. 巡検期日：平成2年6月下旬、3泊4日で行実施。
3. 巡検テーマ：自然環境と人々の生活。

野外巡検Ⅰ

長野 覚

黒潮に浮かぶ屋久島・種子島を3泊4日程度で巡検する。垂直変化の著しい屋久島と、平坦な種子島の自然と人文を対比しながら、離島の地理を学びたい。実施時期は7月下旬の予定。

野外巡検Ⅰ

早船元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

日本地誌Ⅰ

今朝洞 重美

地誌学の本質を考察しつつ、「日本」、「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕『日本の地域－新しい日本地誌－』（森北出版）

外国地誌Ⅰ

山口 岳志

アメリカ合衆国およびカナダ連邦の都市を中心とした地域システムについて講義する。その間、地域研究・都市研究・その他の国の事例についても言及したい。

〔教科書〕本間・有賀編『アメリカ研究入門』（第2版）（東京大学出版会）¥1,800

〔参考書〕山口岳志編『世界の都市システム』（古今書院）¥3,800

経済地理学 I

杉浦 芳夫

立地論, 計量地理学, 行動地理学を横断する研究領域について概説する。一つのテーマを2時間で解説する講義様式とする。1時間めは, 小説(例えば, 田山花袋の『田舎教師』)中において, 当該現象(例えば, 中心地の分布)がいかに叙述されているかを示し, 2時間めは, 当該理論(例えば, 中心地理論)の説明を行なう。この講義を通して, 受講者の「帝都と近郊」の地誌についての知識も深まれば幸いである。

〔教科書〕杉浦芳夫著『立地と空間的行動』
(古今書院) ¥2,800

郷土地理学

長野 覚

1. 国土面積の約3/4を占める山地の包蔵する山岳信仰文化の地域的特色を考察し, 各自の郷土における山岳信仰を調査しレポートする。(前期)
 2. 郷土の地域概念を理解するため, 古代から現代に至る行政変化について学習し, 各自で調査した成果をレポートする。(後期)
- 〔参考書〕『山岳宗教史研究叢書』(名著出版)
『地名大辞典』(角川書店)
『日本歴史地名大系』(平凡社)

集落地理学

小田 匡保

集落地理学の大枠を概観した後, 現在の研究動向の二, 三に触れる。後半には, 宗教集落に言及する予定。

地形学 I

西村 嘉助

地理学の基礎的な部分を講義する。営力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

地図学

高木 正博

まず, 地図の歴史をとおして, 地図の重要性を認識する。つぎに, 地図の作成・表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに解説, 利用法について講ずる。

授業内容に応じて作図実習を伴うので, 定規, コンパス, 分度器を揃えておくこと。

交通地理学

生井澤 進

商品の流れ(貨物流)の変化について, この変化の要因となる港湾・道路等諸施設の変化ならびに情報システムの変化に焦点を当てて, 現在の交通体系を理解してゆく。

〔教科書〕講義の最初に指示する。

地理学総論

西村 嘉助

詳細は開講直後に指示する。「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。

地理学総論

菱口 善美

現代地理学の概念と主要な地域分析法について講義を行なう。

地理学総論

中村 和郎

「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆく。各自もこのテーマを十分考えてみて欲しい。夏休み前にも試験を実施するので注意すること。

〔参考書〕高橋伸夫・中村和郎ほか編『地理学講座 1』（古今書院）¥2,900

野外巡検Ⅱ

今朝洞 重 美

北陸地方（白山，金沢）の巡検を行う。実施時期は夏期休暇（7月）。

野外巡検Ⅱ

小 池 一 之

地形学を中心とした野外調査法を学ぶ。平成2年度のフィールドは北部フォッサ・マグナ（諏訪～白馬間）を予定している。調査の中心課題は次のとおり；

- (1) 断層地形（特に活断層地形）の認定と調査
- (2) 山麓に発達する扇状地群の形成過程
- (3) 氷期における河谷の発達

実施予定 9月末～10月初の3泊4日

野外巡検Ⅱ

荻 口 善 美

目 的：地域の変貌についての実態調査とレポート作成

調査地：未定（ガイダンスの際に発表）

野外巡検Ⅱ

高 木 正 博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

期日・内容については、ガイダンスの際に発表する。

野外巡検Ⅱ

小 田 匡 保

実際のフィールドでどのような地理的情報を入力することができるかを、現地に赴いて学ぶ。巡検地・期日は未定。

野外巡検Ⅱ

中 村 和 郎

地域の調査方法を学ぶ。巡検地と日程はガイダンスのときに発表する。

野外巡検Ⅱ

長 沼 信 夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時（ガイダンス）に報告する。

1. 巡検地域：鹿児島県喜界島
2. 巡検期間：平成2年10月下旬（3泊4日）
3. 巡検テーマ：自然環境と人々の生活

日本地誌Ⅱ

宮 口 侗 勉

この講義では、できるだけ広い世界の中で日本を理解する視点と、その日本がどういう地域から成立しているかという問題を共に扱う。具体的には、日本の村落景観の原型と風土、水田耕作の展開、山村の諸問題、北海道と沖縄をみる文化的視点といったところであるが、非日本的な世界にもふれる。

外国地誌Ⅱ

西 村 嘉 助

ヨーロッパの地誌を自然・人文にわたって講義する。

外国語の書物を読むが必要になるから、その準備をしておくこと。

経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地方における生活活動の中心となる商業活動について、商店街形成という観点から分析、講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い、レポートを作成することを条件とする。

〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

地形学Ⅱ

今泉俊文

「動かざること大地のごとし」と言われるが、変動帯に属する日本の地形は、活発な地殻変動のもとで形成されている。変動地形を中心に講義を行う。

〔参考書〕貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,200
笠原慶一ほか編『岩波講座 地球科学 10』（岩波書店）
加藤碩一著『地震と活断層の科学』（朝倉書店）

歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

人口地理学

上坂修夫

人口現象は、社会地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけでなく、質（構造）的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では、人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活

用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかわり合い方について考えていく予定である。

原書講読

梅原弘光

熱帯地域の農業に注目して、その人びとと環境との関係を考察する。

〔教科書〕Jean-Paul Sajhau and Jürgen von Muralt, *Plantations and Plantation Workers*, (ILO, Geneva, 1987)

地球物理学

篠原正雄

「地球はいかにして宇宙の中に生まれたか」

川や風の流れのエネルギーは太陽に由来する。隕石による恐竜滅亡説もある。地球は宇宙の中で暮している。大陸移動のエネルギーは50億年前、銀河の一隅で生じた超新星爆発に由来する。岩石や生物の構成元素も恒星の深奥で形成された。地球は宇宙史の中で生まれた。

物理学は宇宙の共通語である。物理学の目で地球を見るということは、単に宇宙を地球の環境と見るにとどまらず、地球を無数の宇宙の天体の一つとして理解することを可能にする。100億光年彼方でブラックホールを生じる巨大天体と、地球とは、同じ方程式の2つの解である。本講義では、宇宙物理学を論じ、地球にも及ぶ。

〔教科書〕力武常次著『変動する地球とその環境』（地球社）¥2,884

地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』（東大出版会）¥3,400

〔参考書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）各¥3,400

貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』
(東大出版会) ¥4,200

土壌地理学

漆原和子

世界の土壌の生成と分布について解説する。土壌生成因子のうち、特に地形、気候、時間について詳しく考察する。さらに人為によって、土壌がどのように変りつつあるのかについても述べる。

〔教科書〕『世界の土壌』(古今書院)

1月現在価格未定です。

気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

〔教科書〕中村和郎・木村龍治・内嶋善兵衛著
『日本の気候』(岩波書店) ¥3,400

海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学(水文学)の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕
(東海大学出版会)

〔参考書〕『水文学』〔自然地理学講座3〕
(大明堂)

『日本の水』〔環境と人間の科学4〕
(三省堂)

環境地理学

早船元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用、水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

日本地誌Ⅲ

中島義一

歴史地理学の諸問題に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳(高校生の時に使ったものでよい)を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕矢守一彦著『空からみた歴史景観』

(大明堂) ¥2,200

〔参考書〕授業の際に紹介する。

外国地誌Ⅲ

梅原弘光

対象地域は東南アジア。1960年代以降この地域の農業と農村は大きな変化過程に入っているが、その実態を検討して変化の基本的性格を明らかにし、その空間的展開を考察する。

都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次著『都市地理学』(大明堂)

計量地理学

矢野桂司

理論・計量地理学の基本的な概念や手法を習得するために、最近の地理学における研究トピックスを解説する。また、実際のデータを分析し、レポートを作成してもらおう。コンピュータによる実習も行なう予定なので、受講生は電子計算機室利用の登録をしていただきたい。

〔参考書〕キング著、奥野隆史・西岡久雄共訳
『地域の統計的分析』(大明堂)

¥3,300

応用地理学Ⅰ

高木正博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人のかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕大矢雅彦著『河川の開発と平野』
(大明堂)
山田安彦編著『地域の科学』
(古今書院)

〔教科書〕〔前期〕小田部和司著『図解土木講座
測量学』(技報堂出版)
¥2,800

〔後期〕貝塚ほか編『写真と図でみる
地形学』(東大出版会)
¥4,200

応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第四次全国総合開発計画および長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第四次全国総合開発計画』
『世界とともに生きる日本—経済運営
5ヶ年計画—』

地理学特講Ⅰ(半期)

長野 覚

高等学校・中学校の地理教員採用試験の受験者を対象とする。指導内容は1学年以来学習した教科内容を整理・集約することに重点を置く。また近年の採用試験合格者・不合格者の協力を得て、その経験談なども参考にしたい。開講は後期であるが、前期初めにガイダンスを予定している。

〔参考書〕学習指導要領
高等学校・中学校の地理教科書および
地図帳、地理統計

地理学演習

小田匡保

卒業論文作成の指導を行なう。既往の研究や自身の調査結果などについて、各自に中間発表を行なってもらう。

地理学演習

今朝洞 重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学(人文地理学)に関する卒業論文の演習を行う。

地理学演習

小池 一之

前期:地理学調査方法(野外調査・文献調査)の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ。

後期:各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

文化地理学

菱口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

空中写真判読法及び測量学

小池 一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また、対数、三角関数(数学Ⅰ程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は、自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

- (1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定
- (4)水準測量 (5)多角測量 (6)地形測量
- (7)写真測量 (8)写真判読法
- (9)リモートセンシング

地理学演習

菱 口 善 美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に包含される問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

地理学演習

長 沼 信 夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理・調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。

出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告・中間検討会）を行う予定である。

地理学演習

桜 井 正 信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

地理学演習

長 野 覚

卒業論文の作成を目標にして、前期は参考文献・資料収集・実施調査・成果の整理などの方法を指導する。後期は論文作成の進度に合わせて中間発表を行い、討論を重ねて内容を充実させ、完成までの指導をする。

卒業論文の提出後、論文内容の発表会を、一人15分程度で実施する。

地理学演習

高 木 正 博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

地理学演習

早 船 元 峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

地理学演習

西 村 嘉 助

卒業論文を作成する学生に対し、問題の設定・情報の収集・論理のたて方など、討論を主として指導する。

地理学演習

中 村 和 郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理の仕方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表の仕方などについて指導する。

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学 (飯島 武次)	111
基礎歴史学 (廣瀬 良弘)	111
基礎歴史学 (久保田 真継)	111

専門教育科目

史学概論 (椽川 一朗)	111
日本史概説Ⅰ (古代・中世) (渡辺 直彦)	111
日本史概説Ⅱ (近世・近代) (木槻 哲夫)	111
東洋史概説Ⅰ (古代・中世) (阿部 肇一)	111
東洋史概説Ⅱ (近世・近代) (渡辺 惇)	112
西洋史概説Ⅰ (古代・中世) (椽川 一朗)	112
西洋史概説Ⅱ (近世・近代) (青木 道彦)	112
考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎)	112
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次)	112
日本史学史 (葉貫 磨哉)	112
東洋史学史 (阿部 肇一)	112
西洋史学史 (石川 澄雄)	112
考古学史 (平井 尚志)	113
演習Ⅰ (久保田 真継)	113
演習Ⅱ (久保田 真継)	113
演習Ⅰ (葉貫 磨哉)	113
演習Ⅱ (葉貫 磨哉)	113
演習Ⅰ (廣瀬 良弘)	113
演習Ⅱ (廣瀬 良弘)	113
演習Ⅰ (南 和男)	113
演習Ⅱ (南 和男)	113
演習Ⅰ (山口 一之)	114
演習Ⅱ (山口 一之)	114
演習Ⅰ (渡辺 直彦)	114
演習Ⅱ (渡辺 直彦)	114
演習Ⅰ (阿部 肇一)	114
演習Ⅱ (阿部 肇一)	114
演習Ⅰ (渡辺 惇)	114
演習Ⅱ (渡辺 惇)	114
演習Ⅰ (石川 澄雄)	114
演習Ⅱ (石川 澄雄)	114
演習Ⅰ (椽川 一朗)	115
演習Ⅱ (椽川 一朗)	115
演習Ⅰ (飯島 武次)	115
演習Ⅱ (飯島 武次)	115
演習Ⅰ (加藤 晋平)	115
演習Ⅱ (加藤 晋平)	115
演習Ⅱ (倉田 芳郎)	115
日本史各説Ⅱ (久保田 真継)	115

日本史各説Ⅲ (土肥 鑑高)	115
日本史各説Ⅳ (山口 一之)	115
東洋史各説Ⅰ (古代) (宇都木 章)	116
東洋史各説Ⅲ (中世) (町田 隆吉)	116
東洋史各説Ⅴ (近世) (吉田 寅)	116
東洋史各説Ⅶ (近・現代) (安藤 正士)	116
東洋史各説Ⅷ (周辺史) (海老沢 哲雄)	116
東洋史各説Ⅸ (周辺史) (片岡 一忠)	116
東洋史各説Ⅹ (周辺史) (田中 通彦)	116
西洋史各説Ⅱ (岩本 裕子)	116
西洋史各説Ⅳ (伏島 正義)	117
西洋各国史Ⅰ (青木 道彦)	117
西洋各国史Ⅱ (阿部 三樹夫)	117
西洋各国史Ⅲ (椽川 一朗)	117
西洋各国史Ⅳ (石川 澄雄)	117
考古学各説Ⅰ (西江 清高)	117
考古学各説Ⅱ (小林 達雄)	117
古文書学 (葉貫 磨哉)	118
古文書講読Ⅰ (久保田 真継)	118
古文書講読Ⅱ (廣瀬 良弘)	118
日本史特講Ⅰ (古代) (渡辺 直彦)	118
日本史特講Ⅱ (中世) (宮本 由紀子)	118
日本史特講Ⅲ (中世) (久保田 真継)	118
日本史特講Ⅲ (中世) (芥川 龍男)	118
日本史特講Ⅳ (近世) (土肥 鑑高)	119
日本史特講Ⅴ (近世) (有元 修一)	119
日本史特講Ⅵ (近代) (南 和男)	119
日本史特講Ⅶ (近代) (山口 一之)	119
東洋史特講Ⅱ (古代) (宇都木 章)	119
東洋史特講Ⅴ (中世) (町田 隆吉)	119
東洋史特講Ⅶ (近世) (阿部 肇一)	119
東洋史特講Ⅷ (近世) (吉田 寅)	119
東洋史特講Ⅹ (近・現代) (渡辺 惇)	119
東洋史特講Ⅺ (近・現代) (安藤 正士)	120
東洋史特講Ⅻ (周辺史) (田中 通彦)	120
東洋史特講ⅩⅤ (周辺史) (片岡 一忠)	120
西洋史特講Ⅰ (伏島 正義)	120
西洋史特講Ⅱ (三小田 敏雄)	120
西洋史特講Ⅴ (中村 純)	120
考古学特講Ⅰ (高浜 秀)	120
考古学特講Ⅲ (飯島 武次)	120
日本仏教史Ⅲ (廣瀬 良弘)	120
日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘)	121
西洋文化史Ⅰ (椽川 一朗)	121
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄)	121
考古発掘実習 (寺社下 博)	121
考古学実習 (写真) (鈴木 昭夫)	121
考古学実習 (測量) (栗山 稔)	121
考古学実習 (石器) (田中 英司)	121
考古学実習 (土器) (酒井 清治)	121
地誌学 (今朝洞 重美)	122
地誌学 (長野 寛)	122
地誌学 (宮口 侗迪)	122
人文地理学概説 (小林 高壽)	122

歴史地理学 (桜井 正信)	122
哲学史 (丸山 豊樹)	122
歴史哲学 (大石 紀一郎)	122
美術史概説 (中島 亮一)	123
西域美術史 (相馬 隆)	123
仏教美術 (中島 亮一)	123
中国歴史文学 (中村 璋八)	123
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	123
日本民俗学 (谷口 貢)	123

歴史学 科

基礎教育科目

専門教育科目

基礎歴史学

飯島 武次

考古学より見た東洋の歴史について。この科目名は、「基礎歴史学」であるが、担当教員（飯島）が専門とする東洋考古学の講義を行なう。

史学概論

椋川 一朗

歴史学研究法とくに比較史的方法につき、社会経済史および思想史を中心に講述する。
〔教科書〕 追って指定する。

基礎歴史学

廣瀬 良弘

歴史とは何か、なぜ歴史を学ぶのか、など歴史研究を行っていく上での基本的な問題をはじめとして、研究方法論や史料批判等について講述する。テキストはコピーして配布。ただし実費を徴収する。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺 直彦

平安時代の諸様相について概観する。
〔教科書〕 『日本の歴史5 王朝の貴族』
〔中公文庫〕（中央公論社）¥640

基礎歴史学

久保田 真継

「歴史」とは何か、また「歴史」を学ぶとはどういうことか。この基本的な問いかけについて考える機会としたい。その際、さまざまな歴史観や、研究を進めるうえでの方法論、史料論などを紹介する。

これらを通じて「歴史」をみる眼を自分なりにひろげてほしいと思う。テキストは適宜コピーしたものを配布する。

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻 哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕 『地方史研究必携』（岩波書店）
¥4,800

東洋史概説Ⅰ（古代・中世）

阿部 肇一

東洋史とくに中国史を中心に、政治社会の変化、展開をのべ、併せて文化史にも及ぶ。大体唐末、宋代中頃までについて、説明してゆく。

〔教科書〕『東洋史概説』（南雲堂深山社）
¥1,500

東洋史概説Ⅱ（近世・近代）

渡 辺 惇

中国の近世（明・清）、近代（アヘン戦争～辛亥革命）の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕特に定めない。プリント資料を配布する。

〔参考書〕授業の中で指示する。

西洋史概説Ⅰ（古代・中世）

椽 川 一 朗

西洋古代より近代前期までの社会経済史および思想史を総合的に講述する。

西洋史概説Ⅱ（近世・近代）

青 木 道 彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたつてはなかった西欧世界が、なぜ近代工業化の先頭にたつて、他の文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を指定し、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）¥1,200

大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』（近現代編）（ミネルヴァ書房）
¥2,000

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年 ¥2,800

日本史学史

葉 貫 磨 哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

東洋史学史

阿 部 肇 一

中国における歴史思想の展開について、古代より近代にいたるまでの説明を、それぞれを代表する著作を通して行う。

〔参考書〕内藤虎次郎著『支那史学史』

西洋史学史

石 川 澄 雄

西洋史学専攻者必修の課目。主要な西洋史の古典について、重要部分を原文（欧文、おもに英語、他に独・仏文）で読みながら進めるゼミ形式を一部採用の予定。プリントその他開講後配布する。

西洋史概説の知識のほか、十分な外国語の勉強をもって臨むこと。

〔教科書〕簡単なテキスト使用の予定、開講時に指示する。

考古学史

平井尚志

先ず考古遺物、遺跡についての古記録をのべ、17、18世紀に入るや欧州では古典文化、中近東の遺跡、遺物への関心が高まり、時を同じくして日本でも石器類を採集し同好知識人間の意見開陳も初まった。大英博物館を始め欧州首都の博物館の創設、個人の収集品を中心とした研究が考古学前史となる。19世紀に入り進化論に刺激され、地質学の発達と相まって方法論と目的をもった学問としての考古学が逐次定着した。

後半において明治以後の日本考古学の発達と併せて日本考古学に関係深い東北アジアで行われた調査、研究史を講じる。

演習 I

久保田真継

織田信長の給人太田牛一の著した「信長記」（池田本）をテキストとして、史料の読解力を養いながら、室町幕府の滅亡から織田政権の形成過程を考えていきたい。なおテキストについてはプリントしたものを使用する。

演習 II

久保田真継

室町・戦国期の諸相を追究し、あわせて卒業論文作成の指導を行なう。なお参考書は適宜指示したい。

演習 I

葉貫磨哉

『蔭涼軒日録』の文明19年6月より講読して、室町将軍の動静や時代思潮などを考える。また五山派のあり方を理解するために見学も行う。

演習 II

葉貫磨哉

鎌倉・室町時代の歴史を通観し、研究発表を通して問題点を探り、併せて卒業論文の指導も行う。

演習 I

廣瀬良弘

下記の史料を用いて近世幕藩体制社会の成立過程を考察し、併せて近世史料の読解力・分析力を養う。

〔教科書〕歴代将軍の事歴を記録した『徳川実紀』と江戸前期から中期にかけて町奉行から町方へ出された法令を集めた『正宝事録』のコピーを配布する。

演習 II

廣瀬良弘

近世史料を講読し、その読解力を養い、併せて受講者の研究発表を通じて卒業論文の指導を行う。
〔教科書〕史料はコピーして配布。

演習 I

南和男

幕末の諸史料を読みながら、諸問題を考察する。
〔教科書〕コピーを配布する。

演習 II

南和男

幕末都市の諸相を追究し、あわせて卒業論文作成の指導を行う。
〔参考書〕受講者ごとに指示する。

演習 I

山口 一之

毛筆書きの近代文書のコピーを使用し、史料の読解力と批判力をつけることに主眼を置き、一年間みっちり勉強するつもりである。教材については最初の時間に指示するが、下記の書物を用意して活用してもらいたい。

〔参考書〕 児玉幸多編『くずし字解説辞典』
〔普及版〕（近藤出版社）¥2,000

演習 II

山口 一之

下記の書物を使用して研究発表と討論を行う。各人のこれまでの勉強の程を示す時間である。

〔教科書〕 筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』（東京大学出版会）¥3,200

演習 I

渡辺 直彦

桓武天皇の延暦十五（796）年七月条から、順次史料を講読する。

〔教科書〕 『日本後紀』（吉川弘文館）¥2,000

演習 II

渡辺 直彦

律令官制とその定員とを規定した「職員令」を講読する。

〔教科書〕 『令義解』（吉川弘文館）¥3,200

演習 I

阿部 肇一

『二十二史劄記』 趙翼撰、前巻部分の講読と研究。

演習 II

阿部 肇一

『入唐求法巡礼行記』（円仁）の講読と研究発表。

〔教科書〕 プリント配布。

演習 I

渡辺 惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分（漢文）を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演習 II

渡辺 惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争の部分（現代中国文）を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演習 I

石川 澄雄

西洋史近・現代、3年。欧文のテキスト輪読形式で進める。教材は開講時に指示する。山川出版社『世界史小辞典』のほか、できたら平凡社『カラー世界史百科』をも携行すること。（卒業論文作成のための予備指導を兼ねる。）

演習 II

石川 澄雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので、該当者は必ず出席すること（出席重視）。古典の熟読を行う。

テキストは開講時に指示する。

演習 I

椽川一朗

外書講読（卒業論文予備指導を兼ねる）。

演習 II

加藤晋平

先史時代に関し、受講者それぞれが抱く関心について、適当な論文を与え、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

演習 II

椽川一朗

外書講読および卒業論文のための指導。

演習 II

倉田芳郎

日本の弥生時代以降に関する考古学の報告書を1篇ずつ選ばせ、論評するか、あるいは資料を調べて補強させて、考古学の方法を身につけるように仕向けたい。あわせて、この時間を用いて、卒業論文作成の指導をする。年度第1週目の授業に必ず出席のこと。

演習 I

飯島武次

中国語原典の講読。

日本史各説II

久保田真継

室町時代について、研究史を紹介しながら講義する。とくに教科書・参考書は指定しない。

演習 II

飯島武次

中国語原典の購読。卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。発表方法については、最初の授業の折りに指示する。

日本史各説III

土肥鑑高

江戸時代の元禄—天保期について、いわゆる三大改革を中心に講ずる。田沼時代や化政期についても再評価してゆきたい。
〔教科書〕『改革の虚像』（秀英出版）¥1,200

演習 I

加藤晋平

旧石器時代から縄文時代にかけての生業活動に関する論文をとりあげ、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

日本史各説IV

山口一之

資料を通じて近代日本の問題点を把握するということを主眼とし、下記の書物を使用して勉強する。

〔教科書〕筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』（東京大学出版会）¥3,200

東洋史各説Ⅰ（古代）

宇都木 章

本年は秦漢・魏晉南北朝史を中心に、中国古代の政治・社会・文化の変遷とその特色を概説する。

東洋史各説Ⅲ（中世）

町田 隆吉

魏晉南北朝～隋唐時代の政治史・社会経済史について最近の研究成果をふまえて概観し、問題の所在を明らかにするとともに、とりわけ当該時代の国家形成の特質について考察する。

東洋史各説Ⅴ（近世）

吉田 寅

宋代を中心とし、唐・宋・元時代における中国史の諸問題を概説的に講述する。なお歴史的考察と関連しつつ史料の解説を行い、唐・宋・元時代研究への導入とすることを期している。

〔教科書〕史料プリントを配布する。

東洋史各説Ⅶ（近・現代）

安藤 正士

1930年代の中国の政治史を国内建設の諸問題と日本をはじめとする列強との関係に関連させて概論する。

〔教科書〕小島晋治・丸山松幸著『中国近現代史』（岩波書店）¥560

東洋史各説Ⅷ（周辺史）

海老沢 哲雄

モンゴル族の動向を中心とする12～14世紀中国

北方・西方周辺史を講義する。(1)12世紀の中央アジアとモンゴリアの情勢 (2)チンギス・ハンのモンゴリア統一 (3)チンギス・ハンの中央アジア侵攻 (4)バトウの東欧侵攻と西欧 (5)モンゴルの中国統治 (6)フラグの西アジア侵攻 (7)イル・ハン国とキプチャク・ハン国とチャガタイ・ハン国 (8)元朝と西方諸種族 (9)元朝とイル・ハン国と西欧。

東洋史各説Ⅸ（周辺史）

片岡 一忠

近代における中国と日本の政治・文化上の関係について概説する。

東洋史各説Ⅹ（周辺史）

田中通彦

ウエスタン・イムパクト（西欧の衝撃）を受ける前後の朝鮮の伝統的社会の基礎構造の叙述から始めて、それ以後日本支配の崩壊するまでの苦渋に満ちた朝鮮の近代史の展開を考察する。その際、それぞれの時代を代表し、画期ともなるべき歴史事象・事件を主題として取り上げ、その事象・事件を具体的に詳説するとともに、歴史的意義づけを行いつつ、しかも全体としての歴史の流れを見失わないようにする。取り上げる予定の各主題の全体は、講義の最初の日に配布する。各時間ごとの講義内容の理解を容易にするため、その都度資料を配布する。

西洋史各説Ⅱ

岩本 裕子

アメリカ「合衆国」史を概観する。1年目は、縦軸として時代順に通史（植民地時代～現代）を概観し、2年目は、アメリカ史の特徴と思われる様々なトピックを中心に、横割りでもアメリカ社会の断面をとらえていく。2年間をかけて縦横にアメリカを語ることで、とかく歴史が浅く若い国と言われやすい合衆国の抱える諸問題に対して、学生諸君の興味を引き出す糸口としたいと考える。教科書としては入門的な概説書である以下を使用し、参考書は、時代、トピックに応じ適宜講義の

中で指示する。今年度は通史を概観するが、前期は南北戦争終了及び再建期まで、後期は再建終了後から現在に至る、まさに現代史の講義を行う。

〔教科書〕有賀 貞，大下尚一編『概説アメリカ史』（有斐閣選書）¥1,500

〔参考書〕清水 博編『アメリカ史』（増補改訂版）（山川出版社）¥2,990

西洋史各説Ⅳ

伏 島 正 義

中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語のもつ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした物語を選んでみたい。そして、そうした物語がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にどのような物語を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。文献、関係論文（邦文、英文）、史料などを読みつつ、演習形式により授業を進めたい。テキスト、文献等は授業時に指示する。

但し、受講生の希望により、必ずしも物語に限定されるものではない。

西洋各国史Ⅰ

青 木 道 彦

「ピューリタニズムの発展と変容」をテーマとして、その後半期にあたるエリザベス朝末期からスチュアート朝期にかけてのピューリタニズムの展開とそれに関連する諸事件について講義を進める予定である。下記のものなど平易な日本語の文献を読んで読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕大木英夫著『ピューリタン』－近代化の精神構造－（中公新書）
石原兵永著『清教徒』（山本書店）
A. シンプソン 大下・秋山訳『英米におけるピューリタンの伝統』（未来社）

西洋各国史Ⅱ

阿 部 三樹夫

ロシアの近・現代史上の諸問題を多民族国家の歴史という視点から考察することを課題とする。

特にロシア帝国の西部国境地方（エストニア・ラトビア・リトアニア・白ロシア・ウクライナ等）に重点を置き、前半ではこれらの地域全般について、その併合・統合の経過とこれらの地域が近代ロシア史上にもつ意義を考えていき、後半ではウクライナの事例に的をしばってみたい。

〔参考書〕授業中に適宜紹介する。

西洋各国史Ⅲ

椽 川 一 朗

フランス語原典（パスカル『パンセ』等）の講読を中心に、フランス思想史を講述する。

〔教科書〕コピーを配布する。

西洋各国史Ⅳ

石 川 澄 雄

主にドイツ史を専攻する学生に対して、独文によりドイツ文化の理解を深めたいと考える。ゼミ形式で進める。2、3年生のほか、4年生の出席をも期待する。教材は開講時に指示する。

考古学各説Ⅰ

西 江 清 高

華南、インドシナ半島の先史時代を扱う。研究史を回顧したのち、特に同地域における国家出現の前段階の文化ともいえる在地青銅器文化の成立過程を、地域別に詳論し、またその青銅器の系譜関係を、広く東アジア諸地域との関係の中で考えていく。

〔参考書〕関野雄監訳『新中国の考古学』（平凡社、1988年）¥18,000
C. Higham, "The Archaeology of Mainland Southeast Asia" Cambridge University Press.

考古学各説Ⅱ

小 林 達 雄

日本における旧石器文化と縄文文化の概観。

東洋史特講Ⅶ (近・現代)

安藤正士

1960～70年にかけての中国文化大革命について、その原因、展開、および40年間にわたる中華人民共和国史における意義を述べる。

〔教科書〕安藤正士・太田勝洪・辻 康吾著
『文化大革命と現代中国』(岩波書店)
¥520

〔参考書〕岩波講座『現代中国』別冊2〔中国研究案内〕(岩波書店) ¥2,900

東洋史特講Ⅷ (周辺史)

田中通彦

近代以前の朝鮮半島及び中国東北を舞台に活躍した諸民族とその文化、国家形成とその展開の過程を概説する。その際、この地域の特異な地理的・生態的条件とも関連させ、その基層文化、生活文化のあり方にも触れ、平板な王朝交替史に陥らないようにするとともに、近代以前の東アジア世界におけるこの地域の史的展開の特異性を、中国・日本の史的展開とも比較しつつ認識できるようにする。各時間ごとの講義内容の理解を助けるための資料等をその都度配付する予定である。

東洋史特講Ⅸ (周辺史)

片岡一忠

中国周辺地域(とくに西域)に対する中国政府の政策、漢民族の関心を、1912年以降について考察する。

西洋史特講Ⅰ

伏島正義

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および昨年度履修できなかった西洋史専攻希望の3年生は必ず出席すること。テキストは第一時限目に指示する。

西洋史特講Ⅱ

三小田敏雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史概説の講義と重複する部分は省略して、各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

西洋史特講Ⅴ

中村純

古代ギリシアの歴史は、そこに固有の国家形態であるポリスの形成と発展、そして衰退の歴史に他ならない。このポリス社会の政治的・文化的側面について考える予定である。

〔教科書・参考書〕開講時指示。

考古学特講Ⅰ

高浜秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、特に中国地方の青銅器文化に重点をおいて、これらの文化を概観する。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

夏殷周文化の考古学研究。

日本仏教史Ⅲ

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

考古学実習（写真）

鈴木昭夫

前期に於ては、講義を主体とし随時実技実習を組み込み写真基礎技術をマスターし、後期には、実技を中心とし特殊写真特に考古、美術写真の撮影及び暗室技術の習得を目ざす。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

尚夏期に於て、発掘現場写真撮影の実習を行なう事も考慮している。

西洋文化史Ⅰ

椽川一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

考古学実習（測量）

栗山稔

遺跡調査等において必要となる測量の基礎知識と技術取得、特に後者に重点を置き講義・実習を行う。夏休みに3～4日の集中実習に参加することが必要である。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

〔教科書〕壇原毅著『測量の基礎』（山海堂）

西洋文化史Ⅱ

三小田敏雄

今年は西洋文化の原点であるギリシア文化を中心に学ぶ予定である。歴史的知識を基礎に考古学、哲学思想、社会構造、経済、芸術など多面的にギリシア文化を考えて行きたい。教科書は年間2・3冊の文庫本を予定している。その都度教室で指定する。またレポートを課して教室で発表してもらおう。積極的に学習に参加してもらいたい。

考古学実習（石器）

田中英司

石器研究の基礎である石器の観察と石器実測図についての講義を行う。石器の研究史と実測図の歴史、石器製作と打撃の原理、投影法、表現法等の基本的知識と、それをふまえた実技を通して、考古資料の記録と観察法を学ぶ。

〔教科書〕プリントを配布する。

考古発掘実習

寺社下博

野外における考古発掘実習を行なう。30日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

〔教科書〕文化庁文化財保護部『埋蔵文化財発掘調査の手びき』（財団法人国土地理協会）

考古学実習（土器）

酒井清治

出土遺物である「もの」の調査は考古学の基本であるとともに、その後の研究の基礎資料となる。出土遺物の一つである土器を通して、実測の目的および基礎技術、観察の方法などを理解できるようにする。

〔参考書〕大井晴男著『野外考古学』（東京大学出版会）

『発掘調査の手びき』（国土地理協会）

服部敬史著『発掘と整理の知識』

（東京美術）

『考古学調査・研究ハンドブック室内編』（雄山閣）

地誌学

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

地誌学

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。教科書は特に使用せず、参考書は講義中に紹介する。

人文地理学概説

小 林 高 壽

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理学は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕長谷川典夫著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店地理統計

歴史地理学

桜 井 正 信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

哲学史

丸 山 豊 樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世との哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代においてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

歴史哲学

大 石 紀 一 郎

この講義では、われわれが現代において「歴史」と取り組むことはどのような意味を持ちうるか、また、歴史の研究はどのようにして可能であるのか、そして、歴史に関する哲学的反省と歴史の研究とはどのような関係にあるのかという3つの問いを導きの糸にしつつ、ヨーロッパにおける「歴史」の思想の展開を概観し、とりわけ19世紀以降のドイツにおける歴史哲学と歴史学の関係、歴史主義とその克服の試みに焦点を当てて、現代における歴史とのありうべき関係を考えていくことに

する。

〔教科書〕参考書等は講義のなかで指示する。

美術史概説

中 島 亮 一

美術史を学ぶには、未だに生命を保ち続ける遺跡、遺物の研究が重要で、それらを生んだ民族、風土、思潮、美意識、作家集団などをマクロ的に、またミクロ的に検討することが必要である。そこで前半では主に西欧の美術、後半では主に東洋の美術に視点をおき、その造形理念や技術をスライドを使って、芸術学的な視点からも考察を加え、更に「見せる側」、「見る側」の鑑賞とは如何にあるべきかなどについても考えたい。

〔教科書〕井上 章著『美と美術』（家政教育社）
¥1,545

〔参考書〕その都度指摘する。

西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大な絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。

（スライド使用）

仏教美術

中 島 亮 一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

中国歴史文学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,000

ラテン語特講

佐 藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の修得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕コピー

〔参考書〕羅和辞典（研究社）

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

社会学科

基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)	126
社会福祉原論(永田 幹夫)	126
心理学概論(篠原 英壽)	126

専門教育科目

社会統計学(大熊 道明)	126
社会学史(安藤 喜久雄)	126
社会学方法論(金丸 由雄)	126
社会調査(川本 勝)	127
社会調査実習(川本 勝・坪井 健)	127
マスコミュニケーション(川本 勝)	127
産業社会学(安藤 喜久雄)	127
都市社会学(文屋 俊子)	127
農村社会学(文屋 俊子)	127
家族社会学(山根 常男)	128
法社会学(小林 弘人)	128
宗教社会学(櫻井 徳太郎)	128
社会心理学(坪井 健)	128
外書講読Ⅰ(金丸 由雄)	128
外書講読Ⅱ(坪井 健)	128
社会学特講Ⅰ(橋爪 敏)	128
社会学特講Ⅱ(櫻井 徳太郎)	129
社会学原論(渡辺 源樹)	129
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	129
図書館学Ⅱ(源 昌久)	129
社会福祉調査論(坂田 周一)	129
社会福祉援助技術総論(田村 健二)	129
社会福祉援助技術各論ⅡB (社会福祉調査技法)(小林 昭二)	130
法学(福祉)(小林 弘人)	130
社会福祉援助技術各論ⅠA (ケースワーク論)(田村 健二)	130
社会福祉援助技術各論ⅠB (グループワーク論)(松本 栄二)	130
社会福祉援助技術各論ⅡA (コミュニティ・ワーク論)(永田 幹夫)	130
リハビリテーション論(原田 信一)	131
社会福祉計画論(和田 敏明)	131
社会福祉運営論(永田 幹夫)	131
家族福祉論(山根 常男)	131
児童福祉論(安梅 勅江)	131
障害者福祉論(原田 信一)	131
老人福祉論(東條 光雅)	132
地域福祉論(永田 幹夫)	132

公的扶助論(伊藤 秀一)	132
医療福祉論(春見 静子)	132
婦人福祉論(林 千代)	132
保健福祉論(小林 臻)	133
社会福祉援助技術現場実習 (老人福祉施設・機関等)(東條 光雅)	133
社会福祉援助技術現場実習 (障害児(者)施設・機関等)(伊藤 秀一)	133
社会福祉援助技術演習Ⅰ(児童・家族) (田村 健二)	133
社会福祉援助技術演習Ⅰ(老人) (東條 光雅)	133
社会福祉援助技術演習Ⅰ(障害児・者) (原田 信一)	133
社会福祉援助技術演習Ⅱ(児童・家族) (川延 宗之)	134
社会福祉援助技術演習Ⅱ(老人) (東條 光雅)	134
社会福祉援助技術演習Ⅱ(障害児・者) (原田 信一)	134
社会福祉調査実習(東條 光雅)	134
社会福祉学特講Ⅰ(児童)(長谷川 重夫)	134
社会福祉学特講Ⅱ(老人)(長浜 恭子)	134
社会福祉学特講Ⅲ(障害児・者) (金子 勇)	134
社会福祉学特講Ⅳ(相談・援護) (伊藤 秀一)	135
社会保障論(近藤 功)	135
社会福祉発達史(林 千代)	135
社会福祉外書講読(伊藤 秀一)	135
海外社会福祉論(星野 貞一郎)	135
社会学(福祉)(星野 貞一郎)	135
心理学(福祉)(井上 孝代)	135
医学一般(小林 臻)	136
介護概論(石黒 チイ子)	136
社会福祉援助技術実習〔社会福祉実習Ⅰ〕 (永田 幹夫)	136
障害児教育原論(井田 範美)	136
心理学史(佐久間 章)	136
心理統計学(篠原 英壽)	136
心理学実験(実習)(篠原 英壽・小野 浩一・ 谷口 泰富・茅原 正)	137
心理学研究法(小野 浩一)	137
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)	137
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英壽)	137
基礎心理学Ⅲ(学習)(小野 浩一)	137
基礎心理学Ⅴ(臨床)(中村 昭之)	137
心理学研究Ⅰ(実習)(佐久間 章)	137
心理学研究Ⅱ(実習)(茅原 正)	138
心理学研究Ⅲ(実習)(中村 昭之)	138
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英壽)	138
心理学研究Ⅴ(実習)(小野 浩一)	138
心理学研究Ⅵ(実習)(谷口 泰富)	138
生理心理学(谷口 泰富)	138

児童心理学（横山 剛）	138
産業心理学（高橋 誠）	138
カウンセリング（鈴木 順一）	139
心理検査法（森山 敏文）	139
禅心理学（茅原 正）	139
心理学特講Ⅰ（佐々木 雄二）	139
心理学特講Ⅱ（佐々木 宏幹）	139
心理学特講Ⅲ（大塚 秀治）	140
精神医学（柴田 出）	140
社会政策（光岡 博美）	140
民法（青山 尚史）	140
労働法（佐藤 時次郎）	140
行政法（鷄徳 啓登）	140
経済原論（浅野 克巳）	141

〔 〕内は昭和62年度以前入学生適用科目名

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論

坪 井 健

社会学は、多くの人にとって初めて出会う学問である。「社会学とは何か?」。この問いに答えることは難かしいが、要は私たちの日常的な様々の社会経験を社会システムとの関連で理解するための知的枠組の1つであると言える。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的な諸事象に対する社会学的な見方の獲得を主眼とし、当初は社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸現象を選択的に分析していく中で、社会学的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕『社会学概論』『統計からみる社会学』(学文社)

社会福祉原論

永 田 幹 夫

今日、国民生活の変容のなかで、社会福祉の原理や機能も変化の徴候が顕著である。本講は社会福祉の発展経過、対象、機能および方法技術を概説しつつ、社会福祉の固有性を明確にし、今日すすみつつある変化の意味するものを論証し、社会福祉の意義を理解するようにしたい。

〔教科書〕社会福祉士養成講座①『社会福祉原論』(中央法規出版) ¥2,500

心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意

義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』(八千代出版)

専門教育科目

社会統計学

大 熊 道 明

統計的記述・推測およびデータ解析の基本について講義する。

〔教科書〕P.G. ホーエル著『初等統計学』(培風館) ¥1,576

社会学史

安 藤 喜 久 雄

過去から現代に至る主要な社会学理論を概観するとともに、社会学理論の中において現代に大きな影響を与えている主要な理論を中心に講義を進める予定である。

〔教科書〕新睦人 他著『社会学のあゆみ』(有斐閣新書) ¥800

新睦人 他著『社会学のあゆみ—パートII』(有斐閣新書) ¥700

社会学方法論

金 丸 由 雄

社会学に於いては、しばしば社会構造という言葉が用いられているが、この言葉ほど実は人により様々な使い方がなされてきた概念はないと言って良い。にも拘らず、社会の構造という概念は、社会の安定した状態のみならず変化を考える為

も不可欠である。本講に於いては、従来行われて来たいくつかの定義を比較検討し、更にそれらを用いたいくつかの調査結果に適応し、より満足すべき定義を試みる。

〔参考書〕その都度指示する。

社会調査

川本 勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点やデータ蒐集の技法、データの読み方、検定の仕方などを検討する。

社会調査実習

川本 勝・坪井 健

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひととおり理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータも併用する予定である。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的であるので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕その都度指示する。

マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社

会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

〔教科書〕安藤喜久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社）

都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』誠信書房 3,800円

日本の論文を集めたものとして、『リーディングス 日本の社会学7 都市』東京大学出版会 2,500円

『リーディングス 日本の社会学5 生活構造』東京大学出版会 2,500円などが適当かと考えている。

農村社会学

文屋 俊子

現代の農村をとりまく環境は、さまざまな意味で大変厳しい状況にある。かつて日本文化のひとつの型を代表し、その基底にあった農村社会がうちつづく構造変化の波のなかでどこへ行こうとしているのか、新旧の研究・報告を通じて考えるてがかりを求めていきたい。

1. 都市と農村
2. 村落共同体
3. 村落の伝統的組織と集団構造
4. 農村の家族
5. 農村の都市化

6. 農村の社会問題と地域開発
 7. 現代の農業問題と農村の将来
 [参考書] 『リーディングス 日本の社会学 6
 農村』東京大学出版会 2,500円

家族社会学

山根常男

1. 家族とは何か?
2. 結婚と家族の歴史
3. 現代の家族問題
 - a. 夫婦の問題
 - b. 子供の問題
 - c. 老人の問題
4. 家族の未来

注:年間2/3 以上の出席を要す。

- [教科書] 『家族の論理』(垣内出版) ¥2,600
 [参考書] 『ゆれ動く現代家族』(日本放送出版協会) ¥1,100
 『家族と人格』(家政教育社) ¥3,200

法社会学

小林弘人

前期は、法社会学の基礎理論(学説の説明が中心になる)の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

- [教科書] 及川伸著『法社会学入門』[新版]
 (法律文化社)
 [参考書] 六本佳平著『法社会学』(有斐閣)

宗教社会学

櫻井徳太郎

科学と宗教との関連で問題になるのは呪術と迷信である。21世紀を迎える現代において、何故この二つがその影をのこしているのであろうか。その現実を社会生活の実態から掘り起こし、宗教のもつ社会的機能を分析してみたい。とくに民衆の基層信仰から掘り起こしてゆくところに重点をおく。

- [参考書] 櫻井徳太郎著『民間信仰と現代社会—人間と呪術—』(評論社) ¥1,000
 [参考書] 櫻井徳太郎著『日本民俗宗教論』(春秋社) ¥3,800

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

- [教科書] 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』(人間の科学社)

外書講読 I

金丸由雄

講読する英文は易しすぎても難しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

外書講読 II

坪井健

外書講読 II は、原書(英文)の講読を通して社会的なものの方見方や考え方を深めることを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講 I

橋爪敏

本講では、政治社会的諸問題について取り扱うことになる。政治社会学は、政治現象について社会的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象として人間諸関係の政治的側面とそれ以外の社会的諸側面との関連が問題となってくる。そこで、政治社会学とは何かを問うことを始め、大衆民主主義社会の状況、大衆と

エリート、政治（社会）運動、政治的社会化等を問題としたい。“特講”と名づけられているが、講義という形式よりも、参加学生諸君の主体的研究を促す意味において、文献の講読ならびにディスカッションを中心として授業を行うことになる。
〔教科書〕未定。

社会学特講Ⅱ

櫻井 徳太郎

〔メインテーマ〕共同体と近代化

自由主義と社会主義といずれの体制下においても、現行の在り方が批判されて、新しい時代へと大きく変革されようと動きつつある。その世界的大変動のなかで、壊された共同体はどうなるのか、とくに社会集団としての地域共同体は何処へ帰趨を求めようとするのか。この点を地域の実態調査に基づいて探究してゆく。

〔教科書〕櫻井徳太郎著『結泉の原点』（弘文堂）
¥1,500

〔参考書〕櫻井徳太郎著『講集団の研究』（吉川弘文館）¥7,828

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂（編集）『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則1987年版』（日本図書館協会）

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

社会福祉調査論

坂 田 周 一

本講義では、社会福祉の分野でなされる調査の特質をおさえた上で、調査ならびに統計に関する基本的な知識・技術について講じてゆく。

本科目は、「社会福祉調査実習」（本年休講）に結びつき、実習前教育としても位置づけられるものであるため、調査技法に関しても具体的に展開するつもりである。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕随時紹介する。

図書館学Ⅰ

山 崎 慶 子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいえるべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めるようにしたい。

社会福祉援助技術総論

田 村 健 二

今日の社会福祉は、福祉サービスの提供者と利用者との対人的・非貨幣的支援活動のもつ比重が高まっている。本講義は、社会福祉実践の専門技術と技能の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、社会福祉固有の専門援助技能の基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、福祉専門職の専門性、現代社会におけるその独自の社会的機能等を明確化させつつ、社会福祉援助技術につ

いての入門的解説を中心に展開したい。さらに、臨床事例を用いながら、福祉専門職になるための基礎理解を深め、福祉専門職としての福祉倫理や基本的態度についても追求したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術総論』（中央法規出版）

¥2,500

田村健二『家族』（金子書房）¥2,000

〔参考書〕追って指示する。

社会福祉援助技術各論ⅡB (社会福祉調査技法)

小林 昭 二

この講義では社会福祉を考えてゆくのに必要な調査と統計に関する知識と技法を説明する。

社会福祉に関する調査統計は、人口をはじめとし一般の世帯や、高齢者世帯、生活保護世帯、身体障害者等特定のニードを有するものなど、範囲がきわめて広い。

このような調査の実施や統計の分析が、どのようにして実証性と客観性を持ち得るかを、具体的に取扱う。

〔教科書〕『厚生統計テキストブック』第2版
(厚生統計協会)

〔参考書〕『国民の福祉の動向』（厚生統計協会）

法 学 (福祉)

小林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）
(ミネルヴァ書房) ¥2,500

社会福祉援助技術各論ⅠA (ケースワーク論)

田 村 健 二

社会福祉援助活動の専門技術の1つである個別援助技術（ソーシャル・ケースワーク等）について、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、ソーシャル・トリートメント過程、

関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何か、一応体系的に理解できるようにつとめたい。また、関連する個別援助技術についても概説したい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

〔教科書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1と2（誠信書房）各¥2,200
福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術各論Ⅰ』（中央法規出版）
¥2,500

社会福祉援助技術各論ⅠB (グループワーク論)

松 本 栄 二

社会福祉実践方法としてのグループワークについての基礎的知識と技術ならびに倫理性について考えてみる。

講義の方法をとる以外に、映画、ロールプレー、事例検討などの方法もとり入れる。

社会福祉士国家試験を受験する学生のことも充分考慮に入れた講義カリキュラムをたてたい。

資料の適時配布についてはコピー代実費徴収する。

〔参考書〕『社会福祉援助技術』（'88年版）
(全国社会福祉協議会刊)

社会福祉援助技術各論ⅡA (コミュニティ・ワーク論)

永 田 幹 夫

社会福祉援助技術各論ⅡAは社会福祉方法論の中で、コミュニティ・オーガニゼーションすなわち地域組織化活動と社会調査等、地域福祉方法論を指すものとされている。今日の社会福祉改革期に当たり、方法論についても視座を変えて研究をすすめる時期にあるが、本講ではそうした問題にふれつつ、方法技術の理論的概要、発展過程および実践的適用のあり方について明らかにしていきたい。

〔教科書〕永田幹夫著『地域福祉論』
(全国社会福祉協議会) ¥2,000

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な福祉問題を抱えていることが、いちじるしく遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進行している。こうした状況を踏まえ、社会福祉ニーズを社会福祉の組織運営に的確に反映し、福祉サービスを系統化・総合化したり、広く市民の社会福祉への参加を促すことをねらいに、社会福祉の計画化が要請されている。その内容は、処遇計画・社会資源の調達計画・社会計画のなかの社会福祉計画・行政計画・活動・行動計画等の社会福祉計画である。講義では国・都道府県・市町村・小地域の各段階の計画や今日の焦点である「地域福祉計画」を中心に、その理論と方法及び具体的事例についての検討を行いたい。

〔教科書〕『地域福祉計画 理論と方法』

(全国社会福祉協議会) ¥1,300

社会福祉運営論

永 田 幹 夫

社会福祉サービスの普遍化に伴ってその規模は急速に拡大・複雑化し、社会福祉の運営管理を包括的にとらえるソーシャル・アドミニストレーションの研究が注目され、重視されてきている。本講ではその概念成立に至る歴史的経過、手法技術、現代的課題及びこれらに関連して社会福祉政策、行政を含む今日の社会福祉実践上の問題点に迫っ

てみたいと思う。

〔教科書〕改めて指示したい。

家族福祉論

山 根 常 男

1. 家族福祉の理論
 - a. 社会・家族・個人
 - b. 全体的・力動的・発生的・歴史的
 - c. 社会生態学的オリエンテーション
2. 社会の福祉と家族
エコシステムとしての家族
3. 個人の福祉と家族
人格発達と家族
4. 家族力動の仮説

注：年間2/3 以上の出席を要す。

〔教科書〕山根常男著『家族と人格』

(家政教育社) ¥3,200

児童福祉論

安 梅 勅 江

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

障害者福祉論

原 田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生のメカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加

え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じた。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕（有斐閣）

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』（高文堂）

(2)原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

老人福祉論

東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだ不十分な状況である。わが国においては、約半世紀後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版（海声社）¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説高齢者白書1989』（全社協）¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 昭和63年度版』（老人福祉開発センター）¥3,500

地域福祉論

永 田 幹 夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）

¥2,000

公的扶助論

伊 藤 秀 一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

医療福祉論

春 見 静 子

現代の社会福祉は多くの領域で医療との関係をますます緊密なものとし、両者を分離することはできない。児童、障害、老人福祉施設の職員が処遇を行ううえで、医療スタッフとどのように協力していくか、また、病院、保健所、リハビリテーション施設等のソーシャルワーカーが社会福祉をいかに実践しているかを事例を踏えて検証する。

教科書・参考書は授業時に指示する。

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か）、女と老い（老後問題の中で）が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時紹介。

保健福祉論

小林 孫

戦後40年にわたって構築されてきた社会福祉の制度・施策と保健・医療の制度・諸事業等を今日的課題に沿って見直すとともに、本格的な高齢化社会の到来をみすえて、これら両者の一層の連携をはかり統合化をめざすためのだてについて明らかにしてみたい。

〔教科書〕講義開始時に指示する。

社会福祉援助技術現場実習 (老人福祉施設・機関等)

東條 光雅

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

具体的には、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて展開することになる。

本実習は、前年度末に学科が実施した試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、主に、老人福祉分野ならびに福祉事務所等での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

なお、年度途中で配属実習の辞退は、原則として認めない。

社会福祉援助技術現場実習 (障害児(者)施設・機関等)

伊藤 秀一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的な展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、障害児・者福祉分野での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

社会福祉援助技術演習Ⅰ (児童・家族)

田村 健二

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格取得の指定科目の一つである。

社会福祉士(ソーシャルワーカー)の業務は相

談・援助が中心となる。そこで、社会福祉士として必要な専門援助技法の体得が演習Ⅰ、Ⅱの課題となる。

具体的には事例研究やロール・プレイ(役割演技法)の方法をもちいる。

なお、本科目は、「社会福祉援助技術現場実習」履修者で児童・家族福祉分野専攻の20人のみが履修可能である。

〔教科書〕田村健二・満喜枝著『離婚の人間学』
(システムファイブ) ¥1,800

〔参考書〕追って指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅰ (老人)

東條 光雅

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

社会福祉士の主要業務は相談・援助活動である。そのため、「援助技術演習Ⅰ」および「援助技術演習Ⅱ」では、そうした業務において基本的に必要とされる対人援助技術の修得に主眼が置かれる。

演習の具体的な進め方は、ケース記録による事例分析と、社会福祉特別研究室(面接実習室)におけるロール・プレイングを並行して行なう予定である。

なお、本演習は、「社会福祉援助技術現場実習」の履修者で、主に、老人福祉分野ならびに福祉事務所等での実習を希望する学生(20名以内)が履修できる。

社会福祉援助技術演習Ⅰ (障害児・者)

原田 信一

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

社会福祉士の主要業務は相談・援助活動である。そのため、「援助技術演習Ⅰ」および「援助技術演習Ⅱ」では、そうした業務において基本的に必要とされる対人援助技術の修得に主眼が置かれる。

演習の具体的な進め方については、開講時に指示する。

なお、本演習は、「社会福祉援助技術現場実習」の履修者で、障害者福祉分野ならびに心身障害施設・障害者更生相談所等での実習を希望する学生(20名以内)が履修できる。

社会福祉援助技術演習Ⅱ
(児童・家族)

川 延 宗 之

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格取得の指定科目の一つであり、集団援助活動（グループワーク等）、地域援助活動（コミュニティワーク等）の援助技法の体得が課題となる。

参考文献として、以下の書物を活用するので用意されたい。

「ソーシャルワークを考える」（川島書店）

「対人援助」（ミネルヴァ書房）

「グループワーク論」（ミネルヴァ書房）

社会福祉援助技術演習Ⅱ
(老人)

東 條 光 雅

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

演習内容の概要については、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」を参照せよ。

社会福祉援助技術演習Ⅱ
(障害児・者)

原 田 信 一

本講が、社会福祉援助技術演習Ⅰとの連動を図りながら講じてゆくことは言うまでもないが、さらに加えて、実践面の科目と連携し、より専門的視座から高次な内容で講ずる。即ち、総合的福祉企画、相談・援助、施設管理及び維持経営等々の方法などに亘る専門的資質の一端を備え得る内容をもって学び合う。

なお、本科目は、「社会福祉士」国家試験受験資格取得の指定科目の一つである。

〔教科書〕講義ノートによる。（資料配布を行う）

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉学調査実習

東 條 光 雅

本実習においては、実際に調査実査をすることによって、調査の企画・設計から集計・分析・報告書の作成に至る一連の作業を体得してもらう。集計・分析には、パーソナル・コンピュータを使う予定である。

具体的には、4名程度の班を作り、班ごとに社会福祉に関する調査を企画・設計してもらう。実査後、集計・分析結果をもとに報告書形式のレポート提出を各人に課す。

なお、パーソナル・コンピュータの使用法については、必要に応じて教授するので未経験だからといって心配する必要はない。

〔参考書〕必要に応じ適宜紹介する。

社会福祉学特講Ⅰ
(児童)

長谷川 重 夫

社会福祉・児童福祉の発達史のなかで最古の歴史をもち、児童福祉の原型ともいわれ、いまま児童福祉体系の中の児童入所施設の中核的位置にある養護施設を中心に、施設養護全般並びに里親養護の理念、歴史および具体的な方法論等について講述したい。

後半では、ケース研究を加え、また施設現場を見学しながら、理論と実践についての統合的理解が深まるようにしたいと願っている。

〔教科書〕特定のものを使用しない。

社会福祉学特講Ⅱ
(老人)

長 浜 恭 子

- 高齢化社会問題と老人福祉施設
- 施設ケアの特質とその課題
- 施設ケアの実際

社会福祉学特講Ⅲ
(障害児・者)

金 子 勇

日々の障害者福祉実践の中から導き出された身体障害者に対する専門的援助についての基本的な考え方及び諸技術（一般意味論、ケースワーク、カウンセリング、ゲシュタルト療法等）を障害者の様々な問題（生きがい、職業、結婚、人間関係、年金等）に沿って具体的に展開していくこととしたい。

なお、今年度は、昨年以上に人間理解を得るための実習を多く取り入れ、皆さん自身の課題の解決にも役立つよう配慮することとしたい。

社会福祉学特講Ⅳ
(相談・援護)

伊藤 秀一

本講では、社会福祉行政の現業機関である福祉事務所における生活保護制度の運用面について検討していきたい。したがって、まずは生活保護法の概要を把握する。そのうえで生活保護行政関連の先行研究論文等のコピーを受講者へ配布しディスカッションしながらあるべき生活保護行政のあり方を追求していく。

社会福祉外書講読

伊藤 秀一

わが国が福祉切下げに当面している今日、英・北欧諸国の社会福祉、社会保障の動向には極めて強い関心を持たざるをえない。

本講では、英国の近年の社会福祉に関する論文を輪読しながら、討議し、国際的な視野を広めることに努めたい。

なお、テキスト等については開講時に指示する。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的發展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

海外社会福祉論

星野 貞一郎

社会福祉を理解するためには、世界各国がそれぞれの国情に応じて発生させてきた社会福祉のすぐれた制度や活動を学ぶことが大切であることをふまえ、今年度は、とくにアメリカの社会福祉を中心に講義することにした。

〔教科書〕教場で指示する。

社会学(福祉)

星野 貞一郎

社会福祉関係の専門職業を志す学生のための社会学講義を旨とした。そこで社会学の基礎的概念を応用して現代社会における社会福祉現象を社会学的に理解するための視点を涵養する。そのために、現代社会の特徴を取上げるとともに、家族福祉、組織と官僚制、地域福祉等の問題に社会学的にアプローチする。

〔教科書〕教場で指示する。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

心理学(福祉)

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践、など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」

で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

医学一般

小林 臻

長寿社会を迎え、各自が心身ともに健全なライフサイクルを送れるための、医学に基礎をおいた健康科学の考え方を述べ、さらに社会福祉専門職としての社会福祉士・介護福祉士に要求されると考えられる保健学・医学の専門的知識について講義する予定である。

〔教科書〕講義開始時に指示する。

介護概論

石黒 チイ子

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における介護の役割について理解させ、介護行為の基礎知識、技術、態度を教授する。

後半では、特に成人期にある健康の維持増進の重要性を理解させ、また、老年期にある健康の特徴を理解し、老化に応じた介護、健康障害をもつ老人とその家族に対する介護について教授する。

さらに、社会福祉士及び介護福祉士と福祉関係者との連携の意義とすすめ方等について教授する。

〔教科書〕編集・福祉士養成講座編集委員会

「介護概論」（中央法規出版）¥2,000

社会福祉援助技術実習

（昭和62年度以前入学生：社会福祉実習Ⅰ）

永田 幹夫

社会福祉の基礎理論として学習した理論・知識・技術を総合的に体得し、専門職員としての倫理性を明確化し併せて自ら積極的に社会福祉の実践を学ぶ態度を確立するためには、社会福祉実習は欠くことができない。本講は実習効果を高めるために、実習の意義を理解して実習分野を自己決定し、かつ社会福祉現業の実態を把握することを目的に、実践現業との接触、見学を行い、各種の教材を活用して講義および討議を行うこととする。

〔参考書〕必要に応じてその都度、指示する。

障害児教育原論

井田 範美

障害児教育の理念、目標、内容について健常児の教育と比較対照しながら論述する。しかし、障害児教育は障害種別により成立基盤、発展の過程は異なる。

そこで、障害児全般にわたる基本的知識として各障害、（視覚障害、聴覚障害、運動障害、病弱虚弱、知能障害、情緒障害、等々）に関する諸概念ならびに教育の概要について講述する。さらに知能障害教育の立場から、学校、施設、家庭、社会の各面からの諸問題について論述する。

〔参考書〕佐藤泰正編『障害児教育概説』

（学芸図書）¥1,300

原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

¥2,800

井田範美著『知能障害児の指導』

（明治図書）¥2,700

心理学史

佐久間 章

「心理学は長い過去を持つが、しかしその歴史は短い」と言われる。二千年を越える学問の長い歴史の中で人々は常に人間の本性について考えてきたが、それは心理学というよりむしろ哲学であった。研究者が探究の手段として、自然科学と同様に周到に計画された観察と実験の方法を用いるようになったとき、心理学は初めて独立した新しい科学の道を歩み始めたのである。

この講義では、前半で心理学を育てる土壌となった哲学的背景、特に17-19世紀の『時代精神』、及び初期の心理学、構成主義と機能主義への生理学及び進化論の影響について述べ、後半では現代心理学の主要な学派、特に行動主義とゲシュタルト心理学について詳述する。

〔参考書〕D. シュルツ著・村田孝次訳『現代心理学の歴史』（培風館）¥7,500

心理統計学

篠原 英壽

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的、処理方法の心理学への適用とその限界、心理学に

において工夫された測定法処理方法などについて説明したい。

〔参考書〕随時示す。

心理学実験（実習）

篠原英壽・小野浩一
谷口泰富・茅原正

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、結果の処理法等を実習を通して理解してもらう。さらに、実験レポートの作成について指導する。

〔教科書〕依田新監修『基礎実験』〔心理学実験演習Ⅰ〕（金子書房）

吉岡一郎編著『心理学基礎実験手引』（北大路書房）

心理学研究法

小野浩一

心理学における主要な研究法について概観する。その中で、心理学の方法全般にわたる根本的な問題、個々の技法の根底にある基本的な考え方や問題点を明らかにしながら、それぞれの具体的な手続き、また効用や限界について解説する。

基礎心理学Ⅰ（人格）

谷口泰富

人格（パーソナリティ）とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論の紹介、研究法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛りこんでゆく予定である。

〔教科書〕講座心理学Ⅳ入門人格心理学（八千代出版）

基礎心理学Ⅱ（発達）

篠原英壽

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から生年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E.H.エリクソンの精神分析的理論、及びJ.ピアジェの認知理論を中心に取上げたい。

〔参考書〕随時指示する。

基礎心理学Ⅲ（学習）

小野浩一

学習心理学の基礎的な理論ならびに手法について解説し、それらが現代の行動科学の中でどのように活用されているかについて概観する。さらに、人間を含む生物体の行動をコントロールしている変数について実験的行動分析の立場から吟味する。

教科書はとくに指定しないが、参考書および参考文献については講義の際に詳しく教示する。

基礎心理学Ⅴ（臨床）

中村昭之

1. 臨床心理学人格理論（症状形成と治療）

- (1) 総論
- (2) カウンセリング
- (3) 精神分析
- (4) 森田療法
- (5) 内観療法
- (6) 行動療法・認知療法
- (7) その他

心理学研究Ⅰ（実習）

佐久間章

現代の言語の科学は社会科学や行動科学、とくに人類学と心理学を利用している。また20世紀の哲学の特徴である記号システムに対する関心も深く、さらに生物科学のいろいろな分野、とくにことばを話したり、聞いたりするのに関わる神経生理学、人間の言語を他の動物のコミュニケーション・システムと比較する比較生物学の分野とも密接に関わっている。さらにまた、コミュニケーション技術の急速な進歩の恩恵をもちうまっている。

このように、科学の新しい分野が目まぐるしく分化していく中で、多くの学問分野が言語を中心にして収束しつつあることは注目に値する。本講義では、実習を基礎にした言語の科学的究明を心理学の立場から試みる。

〔教科書〕G.A.ミラー著、無藤隆・久慈洋子訳『入門 ことばの科学』（誠信書房）
¥2,300

心理学研究Ⅱ（実習）

茅 原 正

環境心理学の諸研究を通して、文献、実験計画、方法、結果、論文のまとめ方、などを学ぶ。照明、騒音、温熱など、実際の生活場面における社会的・物理的条件が、人間の行動に如何なる影響を及ぼすか、基本的な実験を行う。

参考書、文献については講義の際に指示する。

心理学研究Ⅲ（実習）

中 村 昭 之

臨床心理学の理論の講義。各種ジャーナルの論読、ロール・プレイング、心理テスト、その他の実習を行なう。

臨床実習の性格上、受講者の人数を最大15名に制限する。受講者は、履修届を提出する前に、必ず担当教員と面接すること。

心理学研究Ⅳ（実習）

篠 原 英 壽

心理学研究Ⅳは、これまで開講されていた実験実習（上級）が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学的内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため、装置及び被験者等の関係上、実験の内容を実験的に行うことには問題もある。

そこで本年は、欧文の専門書及びジャーナルを精読し、その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し、追試可能なものを選択し、その方法に準拠して実験等を行いたい。

なお主たる参考書は下記のもので、そのコピーを用いる。

〔参考書〕 Readings in Child Development & Personality: Edited by P. H. Mussen, J. J. Conger, J. Kagan. Harper & Row, 1965

心理学研究Ⅴ（実習）

小 野 浩 一

心理学研究のプロセスを統一的に習得すること

を目的として、文献検索法、論文の読み方、実験デザインの組み方、実験の実施方法、結果のまとめ方、論文の書き方などを含めた総合的な実習を行う。前期は味覚学習、思考に関する代表的な研究をモデルとして、そこでなされた実験を追試するという形で進めるが、後期には受講者と相談の上適当なテーマを設定して実験を計画したいと考えている。

心理学研究Ⅵ（実習）

谷 口 泰 富

ここでは主に、生理学的指標を用いた種々の測定を行う。実習内容については、初めの時間に説明する。

本講を受講する人は、予め、生理心理学を履修しておくことが望ましい。

〔参考書〕 随時紹介する。

生理心理学

谷 口 泰 富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため、本講は、心理学と生理学の隣接するところから出発し、意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する。

児童心理学

横 山 剛

ひとは、物理的環境・社会的環境との相互交渉を通して、その潜在的な可能性を実現してゆく。この発達の様相や発達のメカニズム、それを促進する働きかけについて講義する。内容としては、児童期までの行動・知覚・思考・言語・情緒・社会性などの諸側面の発達を考えていく。

〔参考書〕 随時紹介する。

産業心理学

高 橋 誠

近年のコンピュータ技術革新によって、産業構造、労働組織、労働環境、業務形態、労働意識がどのように変化したか、また、変化しつつあるか、

産業現場における実態をとおして明らかにしたい。オフィスないし工場における実態把握の方法論についても、産業心理学史のレビューを加えながら検討していきたいと思う。

カウンセリング

鈴木 順一

カウンセリングにおけるPerson Centered Approach を確立したCarl Rogers の実践する「人間中心の教育」を現実化したい。カウンセリング・ロールプレイ、サイコ・ドラマ、ゲシュタルト・ワーク、エンカウンター等の体験学習を通じて、お互いのパーソナリティの理解と開発（自己実現）をめざす。

〔教科書〕『カウンセリングの理論』（誠信書房）

〔参考書〕『暮らしの中のカウンセリング』

（有斐閣）

『カウンセラーへの道』（創元社）

¥1,200

『カウンセリング』（芸林書房）

『新訂カウンセリング』（誠信書房）

『エンカウンター』（誠信書房）

『人間尊重の心理学』（創元社）

『エンカウンター・グループ』

（創元社）

心理検査法

森山 敏文

心理学の研究を進めていく場合のひとつの手段として、心理検査があるというのはいままでもない。狭義には、各種の質問紙法、投影法などがあり、広義に考えていくと、さまざまな実験器具を用いた方法や生理学的な測定法も含まれると思われる。講義では、前者に焦点をあて、さらに研究方法としてよりも心理臨床の場面での実践に役立つような検査法について言及していきたい。この場合、各種検査法を実際に体験してもらい、そのような体験を基本にしながら、必要に応じてレポート作成をしてもらったり、ディスカッションなどができればよいのではないかと考えている。

〔教科書・参考書〕必要に応じて紹介していく。

禅心理学

茅原 正

複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかんに行われ、心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では、座禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理論理学などについても考察する。

参考書、参考文献については、講義の際に指示する。

心理学特講Ⅰ

佐々木 雄二

1. 心理療法

(1) 心理療法とは何か

(2) 心理療法の歴史

(3) 心理療法の対象

(4) 心理療法の種類

2. 自律訓練法

(1) 自律訓練法とは何か

(2) 自律訓練法の歴史

(3) 心理療法における自律訓練法の位置づけ

(4) 標準練習の理論と実習

(5) 特殊練習の理論と実習

〔教科書〕佐々木雄二『自律訓練法の実際』

（創元社）¥1,000

心理学特講Ⅱ

佐々木 宏幹

日本を含む東アジア諸社会において、人生観・世界観の形成に宗教はどのようにかかわっているか、個人や社会の危機に宗教はどのような役割を果たしているか、また教祖的・カリスマ的人格とは何か、その影響は何か、などの諸問題について考察する。時おりスライドを使用する。

〔参考書〕佐々木宏幹著『憑霊とシャーマン』

（東京大学出版会）¥1,800

心理学特講Ⅲ

大塚 秀 治

現在コンピュータは心理学にとって必要不可欠なものである。コンピュータモデルは心理学の各領域にとり入れられつつあり、実験では刺激の生成、反応検出、時間制御、データ変換等に应用され、コンピュータ利用は必須のものとなりつつある。また統計解析等は心理学全般で利用されており活用の範囲はさらに拡大している。

本講座では①統計計算、データベース、ワープロ等の基本ソフトの利用法を習得する②応用プログラム作成技術を習得する③実験への応用技術を習得する④心理学とコンピュータモデルの現状、人工知能研究の概要の理解、を目的とし、実習形式をとる。

受講にあたっては、欠席を許さないので注意を要する。

また、期末試験は行なわれないが十数回のレポート課題（プログラミングを含む）の提出が求められる。なお実習機材の関係で第1回目目の講義に出席しないものは履修届を行っても受講できないので注意されたい。

〔参考書〕開講時に示す。

精神医学

柴 田 出

現代の厳しい現実社会で生きている現代人は、多くのストレスにさらされ、心を病む人も少なくない。しかし、現実の組織や集団に所属するからといって、全ての人が心の病いにおかされるわけではない。このように考えると、個人を取り囲む組織の問題だけに帰すわけにはいかず、個人の自我の成熟度も大きく関わっていることがわかる。演者はこのような観点に立って、個人の心の発達過程を臨床例にあげながら述べていきたい。

とくに、コドモからオトナへの移行過程の時期であり、コドモとオトナが共存している青年期を中心に述べていくつもりである。

〔参考書〕『こころ自己分析』（有斐閣）¥1,300

社会政策

光 岡 博 美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオ

ロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕教場で指示する。

民 法

青 山 尚 史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大意を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

労働法

佐 藤 時次郎

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕佐藤時次郎・原 慎一・志賀直人共著『社会生活における労働ルール』（蒼文社）

行政法

鶏 徳 啓 登

現代国家は、一般に福祉国家又は文化国家といわれるようになり社会問題も多くなっている。そして、例えば指紋押捺問題のような社会問題では、必ずといってよいほど行政のあり方が問われるのである。このような問題を考える場合に、行政に関する法令はどんなものであり、行政はどのように行われるのか、ということを法律的側面から考えてみることも、社会問題を客観的に考慮できるようにするための1つの方法であると思われる。

その意味で、「行政法」とはどのような法律であるのかを知っておくことは、公務員をめざす学生ばかりでなく、一般の学生にも、今後増々要求されてくるようになるだろうと思われる。

〔教科書〕『行政法の話』（第一法規）¥1,800

〔参考書〕教場にて説明致します。

経 済 原 論

浅 野 克 巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。

I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場と価格決定

II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長

III 現代経済学の課題と方向

IV 経済学の生成過程

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』
（成蹊堂）1988年，¥3,400

〔参考書〕和田・浅野・谷口『市場と企業の経済学』
（中央経済社）1989年，¥2,500

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目

次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………1	国民所得論(吉野 紀)……………7
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………1	中国経済論(小杉 修二)……………7
禅学特講Ⅲ(石井 修道)……………1	アジア経済論(小林 英夫)……………7
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………1	日本経済史(木村 健二)……………8
禅学思想史(峰岸 孝哉)……………1	中小企業論(三井 逸友)……………8
哲学史(中村 友太郎)……………1	教育経済論(谷敷 正光)……………8
印度仏教史(松本 史朗)……………2	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)……………8
中国仏教史(佐藤 達玄)……………2	財務会計論(遠藤 孝)……………8
日本仏教史(山内 舜雄)……………2	管理会計論(中原 章吉)……………9
日用經典(櫻井 秀雄)……………2	会計監査論(飯岡 透)……………9
仏教美術(中島 亮一)……………2	商業政策(岩下 弘)……………9
現代哲学概説(田島 節夫)……………2	貿易論(古沢 紘造)……………9
上代文学(小野 寛)……………2	マーケティング(曾我 信孝)……………9
中世文学(水原 一)……………3	原価計算論(加藤 利安)……………10
近世文学(富士 昭雄)……………3	労務管理論(石井 脩二)……………10
近代文学(片岡 懋)……………3	行政法Ⅱ(斎藤 寿)……………10
中国文学(中村 璋八)……………3	民法Ⅳ(1)(青山 尚史)……………10
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)……………3	民法Ⅳ(2)(青山 尚史)……………10
英文学特講Ⅱ(小林 亨)……………3	比較憲法(竹花 光範)……………10
英文学特講Ⅲ(高野 正夫)……………3	地方自治法(梅木 崇)……………11
英文学特講Ⅳ(中岡 洋)……………3	経済法(川井 克倭)……………11
英文学特講Ⅴ(高松 雄一)……………4	国際関係論(首藤 素子)……………11
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)……………4	西洋政治史(鬼柳 勝一)……………11
英米演劇特講(落合 和昭)……………4	宣伝広告論(上條 末夫)……………11
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)……………4	政党論(早川 純貴)……………11
米文学特講Ⅲ(山縣 敏夫)……………4	経営学史(北村 健之助)……………12
時事英語(大沢 一雄)……………4	国際経営論(武田 康)……………12
地質学(小池 一之)……………4	経営統計(後藤 儀一郎)……………12
気候学(中村 和郎)……………4	保険経営論(石名坂 邦昭)……………12
人口地理学(上坂 修夫)……………5	財務会計論(久松 治夫)……………12
応用地理学Ⅰ(高木 正博)……………5	経営分析論(片桐 伸夫)……………12
都市地理学(今朝洞 重美)……………5	税務会計論(高木 克己)……………12
文化地理学(菱口 善美)……………5	経営労務論(中村 真人)……………13
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)……………5	商業史(山田 勝)……………13
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(渡辺 惇)……………5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)……………13
西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗)……………5	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 儀一)……………13
考古学特講Ⅲ(飯島 武次)……………5	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正)……………13
歴史哲学(大石 紀一郎)……………6	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)……………13
哲学史(丸山 豊樹)……………6	国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾)……………13
日本民俗学(谷口 貢)……………6	国文講読Ⅴ(近・現代)(田澤 英藏)……………14
マスコミュニケーション(川本 勝)……………6	国文特講Ⅴ(近・現代)(尾形 国治)……………14
産業社会学(安藤 喜久雄)……………6	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子)……………14
都市社会学(文屋 俊子)……………6	時事英語(岡本 誠)……………14
社会福祉発達史(林 千代)……………7	計算機言語概論(杉田 徹)……………14
ソビエト経済論(山縣 弘志)……………7	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄)……………14
社会政策(光岡 博美)……………7	応用計測学(榎尾 英次)……………14

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

道元禅師の主著『正法眼蔵』を『永平広録』その他の著述との関連によって講読する。この講座では、必修科目としての『正法眼蔵』の講義内容とは異なり、出来るだけ多くの諸巻について、それぞれの撰述意義を学ぶことを目的とするので、1年間に20巻前後の解説を予定している。

禅学特講Ⅲ

石井修道

『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張を明了である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔教科書〕『大慧書』(筑摩書房) ¥3,500

禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益(1649~1708)のことである。損翁は面山瑞方(1683~1769)の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『続曹洞宗全書(法語・歌頌)』

P.411~P.445 までをコピーすること。

禅学思想史

峰岸孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元(1200~53)の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

(春秋社)

〔参考書〕鈴木泰山『禅宗の地方発展』

(吉川弘文館)

哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史

という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕教場で指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

印度仏教史

松本史朗

インド仏教史を教団史・思想史の観点から概説しさらに個々の思想的問題について考察する。

〔教科書〕『仏教史概説』（平楽寺書店）

〔参考書〕平川 彰著『インド仏教史』（上・下）（春秋社）

奈良康明著『仏教史Ⅰ』（山川出版社）

中国仏教史

佐藤達玄

中國民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説-中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

日用経典

櫻井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕櫻井秀雄著『曹洞宗回向文講義』

『続曹洞宗回向文講義』

仏教美術

中島亮一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の視点を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即した新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』

（世界書院）¥2,500

上代文学

小野寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。

『万葉集』をよむに当たって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』

(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料 上
代文学史』(笠間書院)

中 世 文 学

水 原 一

鴨長明作『発心集』を読んで、仏教説話の意義に
触れ、作者の人物像について考える。

〔教科書〕三木紀人著『方丈記・発心集』(新潮
日本古典集成)(新潮社)

近 世 文 学

富 士 昭 雄

『猿蓑』の連句の講読を通して、蕉風俳諧の特
質を考察する。また影印本の読解に習熟する。

〔教科書〕(影印本)『猿蓑』(武蔵野書院)
¥620

近 代 文 学

片 岡 懋

島崎藤村と田山花袋の作品を中心に、明治20年
代中葉以後の文学の展開の相を考察する。

中 国 文 学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成
した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式
で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教な
ど中国の文化の中で重要な位置を占めているだけ
でなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期
に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間
行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及
ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれ
ている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻
する人々には欠かせない内容を含むものと思う。
是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版)¥2,000

英文学特講 I

石 原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世
のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、
過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、
文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生
の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発
展』(三修社)

英文学特講 II

小 林 亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、
絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察す
る。講義だけでなく出来る限り作品に接すること
をこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

高 野 正 夫

詩が読者を失ってから久しいと言われているが、
このような傾向に抗してイギリス的な詩の復興を
唱えた、1950年代の‘The Movement’の詩人を中
心に論じていく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学特講 IV

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuther-
ing Heights*を残したBrontë sistersについて、
彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生
涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講V

高松雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。

〔教科書〕開講時に指示する。

英文学特講VI

丸小哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の意義と快楽を目指します。

〔教科書〕適宜、プリントを配布します。

英米演劇特講

落合和昭

今年度は、悲劇、メロドラマ、喜劇における構成要素を考察する。そのうち、現代演劇の思潮について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が数多くついているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としては、レポートを十回（一回につき、原稿用紙一、二枚程度）を提出してもらう。

米文学特講I

東雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson 等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の

内向性と開拓者精神の外向性を常に偏在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism とPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

米文学特講III

山縣敏夫

20世紀アメリカ文学、特に黒人作家やユダヤ系作家の作品をとりあげ、社会的変遷とのかわりあいについて研究する。

時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』（東大出版会）¥3,400

〔参考書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）各¥3,400

貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,200

気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気

候学の基本的諸概念と研究方法，世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

〔教科書〕中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治著
『日本の気候』（岩波書店）

人口地理学

上坂修夫

人口現象は，社会地理，歴史地理，経済地理などの重要な構成要素であるが，それは単に量として捉えるだけではなく，質（構造）的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では，人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに，いままで地理学ではあまり活用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え，人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

応用地理学 I

高木正博

河川と地域の関係を，災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて，地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕大矢雅彦著『河川の開発と平野』（大明堂）
山田安彦編著『地域の科学』（古今書院）

都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか，日本，外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次著『都市地理学』（大明堂）

文化地理学

菱口善美

本講義では，まず文化地理学の中心的課題，す

なわち(1)文化，(2)文化領域，(3)文化景観，(4)文化史（誌），(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら，文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山口一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として，秘密結社（会党・帮会）をとりあげ，その発生，発展，組織の特色，時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介，指示する。

西洋文化史 I

椽川一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を，社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

考古学特講Ⅲ

飯島武次

夏殷周文化の考古学的研究。

歴史哲学

大石 紀一郎

この講義では、われわれが現代において「歴史」と取り組むことはどのような意味を持ちうるか、また、歴史の研究はどのようにして可能であるのか、そして、歴史に関する哲学的反省と歴史の研究とはどのような関係にあるのかという3つの問いを導きの糸にしつつ、ヨーロッパにおける「歴史」の思想の展開を概観し、とりわけ19世紀以降のドイツにおける歴史哲学と歴史学の関係、歴史主義とその克服の試みに焦点を当てて、現代における歴史とのありうべき関係を考えていくことにする。

〔教科書〕参考書等は講義のなかで指示する。

哲学史

丸山 豊樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世との哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代においてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

〔教科書〕安藤多久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社刊）

都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、
『リーディングス日本の社会学7 都市』
（東京大学出版会）¥2,500

『リーディングス日本の社会学5 生活構造』
（東京大学出版会）¥2,500

などが適当かと考えている。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

国民所得論

吉野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソ連邦は第12次五ヶ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕講義の中で指示する。

社会政策

光 岡 博 美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕教場で指示する。

中国経済論

小 杉 修 二

現代の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設

—超大国志向・低開発経済・社会主義』
（龍溪書舎）¥3,000

アジア経済論

小 林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。I. 賠償過程 II. 借款過程 III. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

日本経済史

木村健二

幕末の開港以降、日本経済は世界資本主義のインパクトのもとで、近代化の道を邁進していった。しかしその道は決して平坦ではなく、しかも太平洋戦争の敗北へと帰結することになる。本講義では、この近代化の過程で切り結んだ対外経済関係、中でも国際的人口移動の誘因、諸結果に焦点をあて、現代日本が直面する国際関係のあるべき姿を考察していきたい。

テキストは追って指示する。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何なのか、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から説明をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的関係、中小企業群の集積と結合、「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕 巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』
(有斐閣) ¥1,700

車戸 實編『中小企業論』
(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕 中小企業庁編『中小企業白書』
(各年次)

教育経済論

谷敷正光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は戦後全体を、朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の産業教育要求とそれに対応した政府の経済政策、

教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は産業教育政策として国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。授業中必要な資料を配する。

〔教科書〕 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)

〔参考書〕 高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

石井公一郎著『経営者からの教育改革案』(築地書房)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』
(三和書房)

『中教審と教育改革—財界の教育要求と中教審答申—』(三一書房)

『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

1987年度の私のアメリカ生活と研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカの生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて説明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生は出席を遠慮されたい。なお一層ふかめて学習したい諸君には、私担当の原書講読をあわせて受講するようにすすめる。

財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をは

たしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部の他、法学部の商法専攻者その他の履修を期待している。

管理会計論

中原章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえで成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

会計監査論

飯岡透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別

財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、簡易監査などにも言及したい。

〔教科書〕飯岡透著『株式会社会計監査論』（創成社）¥3,000

〔参考書〕飯岡透編『会計監査基本規則集』（創成社）¥800

商業政策

岩下弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔教科書〕未定。

〔参考書〕その都度指示する。

貿易論

古沢紘造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってくれないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済問題について取り上げ、日本と世界（欧米、第三世界）の経済的かかわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

マーケティング

曾我信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。

したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。
〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

原価計算論

加藤利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕諸井勝之助著『原価計算講義』

（東大出版会）

〔参考書〕津曲直躬著『原価計算論講義』

（中央経済社）

労務管理論

石井脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』

（中央経済社）各¥2,800

行政法Ⅱ

斉藤寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、

『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ(1)

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』（啓文社）

民法Ⅳ(2)

青山尚史

民法Ⅳ-(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』（啓文社）

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）

4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）
〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。
〔教科書〕講義において指示する。
〔参考書〕細谷千博・臼井久和編『国際政治の世界』
〔増補改訂版〕（有信堂）¥2,800

地方自治法
梅 木 崇

西洋政治史
鬼 柳 勝 一

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。
〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。
講義は、受講生各自の関心を基礎に、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。
〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕講義進行の都度列挙する。

経 済 法
川 井 克 俊

宣伝広告論
上 條 末 夫

経済法—独占禁止法を中心として—
第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その他の私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。
このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。
〔教科書〕特に使用しない。
〔参考書〕講義の中で紹介する。

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。
〔参考書〕その都度指示する。

国際関係論
首 藤 素 子

政 党 論
早 川 純 貴

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係

本年はドイツの政党政治に焦点を当てる。すなわち、ワイマール期の多党制の限界とナチズムの問題。戦後西ドイツにおける二大政党（CDU・SPD）の発展と包括化過程、そして近年の「緑の党」進出に見られる新しい政党と既存の政党と

の対立・連合の動き、等である。
〔教科書〕使用せず。
〔参考書〕講義時に随時紹介。

経営学史

北村 健之助

ドイツ経営経済学（前史，成立，1・2・3・4次方法論争，現代の経営経済学）およびアメリカ経営学（成行管理，科学的管理法，管理過程論，行動科学的展開）等々の発展過程を現代経営学を軸に探り，経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト，参考書は一応下記に示しましたが，必要があればその都度他の参考書もお薦めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』（学文社）

国際経営論

武田 康

国内経営と国際経営の相違に焦点をおき，直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに，日米両国の多国籍化の類型を歴史的視点から比較し，総合商社をはじめ，日本型国際経営の特質の解明を内容とする講義とする。

〔教科書〕武田 康著『国際経営の基礎的諸問題』（白桃書房）¥2,900

経営統計

後藤 儀一郎

統計学，特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものでない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計的品質管理，時系列分析，線形計画等）されるかを，学習する。

〔参考書〕吉野・後藤著『現代統計解析』（声書房）¥2,700

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日，日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり，一方国内の個人消費，住宅投資，設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から，リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

久松 治 夫

外部報告会計としての財務会計を研究する場合，わが国の財務会計を規制する2つの基本的規則，すなわち，「財務諸表規則」と「計算書類規則」に関連させつつ，財務会計の基礎を把握することが必要であり，このため，本年度の講義は下記の教科書を使用し，財務会計の基本問題について講述する予定である。

〔教科書〕山形休司著『財務会計総論』（中央経済社）¥2,300

〔参考書〕開講時に指示する。

経営分析論

片桐 伸 夫

経営分析の方法を大略，以下の要領で講義する予定ですが，特に伝統的，基本的方法である収益性，流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で，一生逃れる

ことが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的な問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

国文講読Ⅱ（中古）

鈴木 儀一

『清少納言枕草子』を読む。平面的解釈にとどまらずに、時代・社会の背景をも講述し、生き生きとした人間像をさがし求めて見たい。

〔教科書〕田中重太郎著『校注・枕草子』
（笠間書院）¥1,300

〔参考書〕適宜に指示する。

経営労務論

中村 眞人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

国文講読Ⅲ（中世）

岡崎 正

中世室町期に完成した演劇である能の詞章「謡曲」を読む。「謡曲」は先行文芸の粋をあつめ、そして後代文芸に大きな影響を与えた。いわば日本詩華の集散地のような位置にあった。謡曲を読むことによって劇文芸（戯曲）としての構造や、その文芸的価値を探る。

〔教科書〕増田・小林・羽田編
『能一本説と展開一』（桜楓社）

商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

清田 啓子

近世怪異小説の白眉とされる『雨月物語』を読む。読本の発生と展開を見、作者秋成の果たした役割を見定めたい。

〔教科書〕水野稔校注『雨月物語』（明治書院）
¥1,300

国文講読Ⅰ（上代）

佐原 作美

『万葉集』を対象として講読を行なう。
〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』
（桜楓社）¥1,600

国文講読Ⅴ（近・現代）

大室 英爾

近代詩のなかから主に透谷、藤村、独歩、晚翠、泣菫、有明らの作品を取りあげる。作品を丹念に読み、詩史上の流れや傾向を検討しつつ鑑賞を深めたい。

〔教科書〕各種文庫及びプリントを使用。授業開始時に指示。

国文講読V (近・現代)

田澤英藏

森鷗外の作品を読む。鷗外の文芸における営為の大略を知るために、最初の契機となるような作品について講ずる。

〔教科書〕重松泰雄編『森鷗外』(桜楓社)
その他のものは開講後に指示する。

国文特講V (近・現代)

尾形国治

明治期の作家としては、坪内逍遙、二葉亭四迷、森鷗外、北村透谷、島崎藤村、夏目漱石、大正期では有島武郎、芥川龍之介などの代表作を読む。現代の作家では井伏鱒二、三浦哲郎のほか、戦後生まれの宮本輝、村上春樹、村上龍などを予定している。数少ない作品をじっくりと読んでみたいと考えている。

プリントを用意する。
〔教科書〕各種文庫本

英文タイプライティングII

竹内美恵子

キーボードのブラインド・タッチを習得していることを前提として授業をすすめます。おもにレター、各文書をスピーディに処理できることを学びます。

細かい内容は教場で説明します。なお、授業では基礎実技の指導はいたしません。

時事英語

岡本誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してやること。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』
(サイエンス社) ¥1,700

臨床放射線特論I

本間襄

医療特に臨床にかかわる者の常識として、また医療人相互のコミュニケーションと診療録の内容を理解するのに欠かせない外来医学用語・技術用語・略称について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

応用計測学

櫃尾英治

X線CT装置、MRI装置および核医学装置(ガンマカメラ、シングルホトンCT、ポジトロンCT)を中心とした医用機器のハードウェア、ソフトウェアについて概説する。また、超音波装置、CRならびにPACS等についても講述する。

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。

(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(磯野 昌蔵).....	1
教育原理(上岡 安彦).....	1
教育原理(北村 三子).....	1
教育原理(坂本 信昭).....	1
教育原理(村山 輝吉).....	1
教育心理学(大浜 幾久子).....	1
教育心理学(改田 明子).....	2
教育心理学(国眼 眞理子).....	2
教育心理学(中村 均).....	2
教育心理学(難波 和明).....	2
青年心理学(大浜 幾久子).....	2
青年心理学(川田 三夫).....	2
青年心理学(岸本 弘).....	2
青年心理学(牟田 悦子).....	2
特別活動(中野目 直明).....	3
生活指導(佐藤 尚人).....	3
宗教科教育法(桜井 秀雄).....	3
国語科教育法(神谷 道倫).....	3
書道科教育法(谷村 義雄).....	3
英語科教育法(大沢 一雄).....	3
社会科教育法(川合 元彦).....	3
社会科教育法(中島 義一).....	4
社会科教育法(野呂 肖生).....	4
社会科教育法(長谷部 八朗).....	4
社会科教育法(谷敷 正光).....	4
社会科教育法(大久保 治男).....	4
社会科教育法(橋爪 敏).....	5
職業科教育法(谷敷 正光).....	5
商業科教育法(谷敷 正光).....	5
道德教育の研究(上岡 安彦).....	6
教育実習(上岡 安彦).....	6
教育実習(北村 三子).....	6
教育実習(坂本 信昭).....	6
教育実習(村山 輝吉).....	6

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育史(磯野 昌蔵).....	7
教育哲学(汐見 稔幸).....	7
宗教教育(桜井 秀雄).....	7
教育社会学(熊谷 一乗).....	7
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗).....	7
教育評価(大浜 幾久子).....	7
教育情報学(難波 和明).....	8
教育調査(鈴木 規夫).....	8
教育関係法規(荒牧 重人).....	8
教育法規研究(浪本 勝年).....	8
社会教育の基礎(社会教育概論) (磯野 昌蔵).....	8
社会教育施設(村山 輝吉).....	8

図書館学I(山崎 慶子).....	8
図書館学II(源 昌久).....	8
児童文化(湯山 厚).....	8
青少年問題研究(和田 謙寿).....	9
視聴覚教育(赤堀 正宜).....	9
教育臨床心理学(牟田 隆郎).....	9

(3) 教科に関する専門科目

【社会】

日本史概説(大久保 俊昭).....	9
日本史概説(宮本 由紀子).....	9
世界史概説(井村 行子).....	9
世界史概説(渡辺 惇).....	10
地誌学概説(今朝洞 重美).....	10
地誌学概説(長野 寛).....	10
地誌学概説(宮口 侗迪).....	10
人文地理学概説(小林 高壽).....	10
自然地理学概説(早船 元峰).....	10
民法I(林 幸司).....	10
政治学原論(上条 末夫).....	11
社会学原論(渡辺 源樹).....	11
経済原論(小野 俊夫).....	11
哲学概説(篠原 壽雄).....	11
哲学概説(國嶋 一則).....	11
倫理学概説(久保 陽一).....	11
宗教学概説(脇本 平也).....	11
宗教学概説(洗 建).....	12

【職業】

産業概説(前田 幸一).....	12
職業指導(山田 勇治).....	12
商業実習(前田 幸一).....	12

【商業】

職業指導(山田 勇治).....	12
------------------	----

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学I(山崎 慶子).....	13
図書館学II(源 昌久).....	13

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論) (磯野 昌蔵).....	14
社会教育計画(村山 輝吉).....	14
社会教育実習(磯野 昌蔵).....	14
社会教育実習(上岡 安彦).....	14

(2) 選択必修科目

児童文化(湯山 厚).....	14
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗).....	14
成人学習論(牧野 篤).....	14

婦人問題と社会教育(矢口 悦子)	15
青少年問題研究(和田 謙寿)	15
青少年指導演習(和田 謙寿)	15
社会教育行政(牧野 篤)	15
社会教育施設(村山 輝吉)	15
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	15
博物館学Ⅰ(倉田 芳郎)	15
博物館学Ⅱ(矢島 國雄)	16
企業内教育・職業訓練(塩川 正人)	16
社会体育Ⅰ(古田 潤子)	16
社会体育Ⅱ(古田 潤子)	16
視聴覚教育(赤堀 正宜)	16
教育原理	16
教育史(磯野 昌蔵)	16
教育心理学	16
青年心理学	16
社会心理学(坪井 健)	16
教育社会学(熊谷 一乗)	17
教育調査(鈴木 規夫)	17

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ(倉田 芳郎)	18
博物館学Ⅱ(矢島 國雄)	18
教育原理	18
社会教育の基礎(社会教育概論)	
(磯野 昌蔵)	18
視聴覚教育(赤堀 正宜)	18
博物館実習Ⅰ(館務)	
(倉田芳郎・太田喜美子)	18
博物館実習Ⅱ(収集)	
(倉田芳郎・所 理喜夫・	
葉貫磨哉・太田喜美子)	19
考古発掘実習(寺社下 博)	19
博物館実習Ⅲ(見学)	
(倉田芳郎・太田喜美子)	19

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ(廣瀬 良弘)	19
印度仏教文化史(奈良 康明)	19
西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗)	19
西洋文化史Ⅱ(三小田 敏雄)	20
仏教美術(中島 亮一)	20
現代美術(宮崎 克己)	20
禅美術(海老根 聰郎)	20
美術史概説(中島 亮一)	20
西域美術史(相馬 隆)	20
考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)	20
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)	20
考古学特講Ⅰ(高浜 秀)	21
考古学特講Ⅲ(飯島 武次)	21
日本民俗学(谷口 貢)	21
仏教民俗学(和田 謙寿)	21
宗教人類学(佐々木 宏幹)	21

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論(伊藤 秀一)	22
社会福祉原論(永田 幹夫)	22
老人福祉論(東條 光雅)	22
障害者福祉論(原田 信一)	22
児童福祉論(許斐 有)	22
社会保障論(近藤 功)	23
公的扶助論(伊藤 秀一)	23
地域福祉論(永田 幹夫)	23
心理学(福祉)(井上 孝代)	23
社会学(福祉)(星野 貞一郎)	23
法学(福祉)(小林 弘人)	23
社会福祉援助技術現場実習	
(老人福祉施設・機関等)(東條 光雅)	24
社会福祉援助技術現場実習(障害児(者)	
施設・機関等)(伊藤 秀一)	24

※() 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、
講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、そ
の頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教 育 原 理

磯 野 昌 蔵

教育とはどういうことか。
中等教育の歴史と問題。
学校教育の役割。

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、出てくる問題について日本の現象を例として教育的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
(岩波文庫)

上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

教 育 原 理

北 村 三 子

前半は、自分達が経験してきた学校教育の性格をより広い視野から捉え直すことをめざす。後半は、『エミール』を手掛りに、近代人の自己疎外の深さに思いを至し、ルソーとともにありうべき教育像を模索する。

〔教科書〕ルソー著『エミール』(岩波文庫)
上 ¥570, 中・下 ¥520

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、とも

に考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート

(エイデル研究所) ¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

(学芸図書) ¥950

デュイ著、宮原誠一訳『学校と社会』

(岩波文庫) ¥200

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)

『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』(岩波新書)
¥480

教育心理学

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教

育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最新の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習する。また、必要に応じて、心理検査などの実習を行なう。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

教育心理学

中 村 均

1. 発 達
子どもはどのように大人になるか。
2. 学習と学習指導
どのような仕組で学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいのか。
3. 人 格
一人一人の違いはどうとらえればよいか。能力と性格について。
4. 適 応
5. 学級集団
学級集団はどのような役割を果たすのか。
6. 教育評価
7. 心身障害児

教育心理学

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした

授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

川 田 三 夫

今も昔も青年（期）をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけにとどまらず、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本人的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

〔教科書〕磯貝芳郎・福富 護・川田三夫著『現代青年』（ブレン出版）』¥1,200

青年心理学

岸 本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

〔教科書〕『思いやりの動機と達成動機』（学文社）¥4,300

青年心理学

牟 田 悦 子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をも

つかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学—青年心理学』（学文社）¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）¥2,000

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕使用せず、講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕随時指示する。

宗教科教育法

桜井 秀雄

「宗教」の教員免許取得上、宗教教育の意義と歴史について知ると共に、宗教科の目標・教育課程・学習指導の実際について研究し、殊に、その視点を仏教におく。

国語科教育法

神谷 道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

書道科教育法

谷村 義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いただす授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探究する内容にしたい。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

英語科教育法

大沢 一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような授業法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法（地理）

川合 元彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、

学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕随時必要に応じて指示する。

社会科教育法（地理）

中 島 義 一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上にも立ち昇って授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,200

社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科教育法

長 谷 部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらおう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社

会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕梶 哲夫著『中等 社会科教育研究(1)』（高陵社）

遠山 啓著『競争原理を超えて』

（太郎次郎社）

石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）

灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕矢川徳光著『教育とは何か』（新日本出版新書）

無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科教育法

大 久 保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の

目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

社会科教育法

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の形成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、それも、現実の政治的状况のなかで紆余曲折し、また現在、再編が企図されつつある。そこで、社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

谷 敷 正 光

この免許の「職業科」（職業・家庭科）は、1958年に学習指導要領の改訂によって、「技術科」（技術・家庭科）が新設され、「技術科」が必修となり、これまで必修であった「職業科」は選択科目となり、現在に至っている。職業科目のことを昭和44年度版の中学校学習指導要領では、「農業、工業、商業、水産」と明記されていたが、昭和52年度版では、「第2章第10節に示すその他特に必要な教科」となっている。

ところで、必修を従来の「職業科」から「技術科」へ変えた際、職業科担当教員に対して「職業」免許の「技術」免許への切りかえを完全に行なわなかったため、「技術科」の教員の中には、「職業」の免許で担当している人もいる。中学校社会

科の教員採用が厳しくなっており、「職業」の免許も生きる可能性があるので、教員志望者は、「社会」と併わせて履修することが望ましい。

本講は、民主的で文化的な平和国家建設のための基礎的職業教育、人格の尊厳と人間の全能力の発達を中心とした人間形成のための職業教育を中心に授業を展開する。

〔教科書〕授業で、必要な教材を配布するので特に用意する必要はない。

〔参考書〕『講座現代技術と教育8 技術教育の歴史と展望』（帝国地方行政学会）近藤大生著『職業と教育』（福村出版）

商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、商業教育は大きく軌道修正され、さらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保が困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている（67年11月）ので、しっかり勉強して欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』
（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸図書）¥773

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥361

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）
¥350

教育実習

北 村 三 子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成－提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』

（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育実習

村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

教育哲学

汐見稔幸

中学生が自分の両親と祖母をメッタ刺しにして殺害する——そういうことがどうして「可能」なのか。この子はそこまで「追い詰め」られていたのか、それともふとした気分の変化で親すらも殺せるほどに現実と非現実の境目がアイマイになってきつつあるのか。この子の心情はうすめられた形ですべての子どものものとなっているのか。それともこの世代のこの子のようなタイプの子に特有なのか。教育は一体何をすればよいのか。—

そういうことをいっしょに考えてみませんか。12歳で自死をとげた岡真史君の詩集やさまざまなルポ・手記などを手掛りに、子どもの考現学を参加者といっしょに追求してみたいと思います。

〔参考書〕岡真史『ぼくは12歳』（筑摩文庫）
杉本治『マー先のバカ』（青春出版）
山崎哲・芹沢俊介『子どもの犯罪と死』（春秋社）など。

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と實際を研究する。

〔教科書〕日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と實際』（鈴木出版(株)）1985.10 ¥5,800

教育社会学

熊谷一乗

登校拒否、偏差値支配、家庭内暴力などの教育をめぐる問題は、教育と社会との密接な関係のなかで発生してきている。重要な社会問題として注目されている教育上の諸問題をどう解決したらよいか、という問題意識のもとに、教育と社会との関係、教育の社会的過程を明らかにする。講義で扱われるテーマは、次のとおりである。

①人間の発達と社会的環境 ②集団と教育 ③教育と政治・経済との関係 ④教育と地域社会 ⑤マス・メディアと教育 ⑥学校と子どもの生活
〔教科書〕熊谷一乗著『子どもの発達と社会—教育社会学の基礎』（東信堂）¥2,700

現代社会の諸問題と教育

熊谷一乗

現代の社会は、技術の革新、高度化にともなって激しく変化し、益々複雑化し、しかも緊急に解決を要する難問を次ぎから次ぎに引き起こしている。こうした社会の動向と問題は、教育の在り方に強く影響し、教育に新たな対応を迫ってくる。講義では、次ぎのようなテーマを設定して現代社会を特徴づける諸問題と教育との関係を検討する。(1)ハイテク化と教育 (2)情報化と教育 (3)国際化と教育(4)高齢化と教育 (5)環境問題と教育 (6)人権問題と教育(7)女性の職場進出と教育 (8)競争社会(自由化)と教育(9)生涯学習社会の形成と教育改革

〔教科書〕講義要旨および資料のコピー配布。

〔参考書〕教室で指示。

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母

・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来的機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』
(法政大学出版局) ¥1,300

教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴木規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育関係法規

荒牧重人

現在さまざまな形態で生じている教育問題を視野に入れながら、人権としての教育という観点を基本に、憲法・教育基本法・学校教育法などの教育関係法規を概説します。学習指導要領、教科書、体罰、校則、学校事故、教育評価、研修、職員会議その他、教師になったときに直面するであろう教育法上の今日の問題も考察します。

〔参考書〕『解説 教育六法』〔1990〕(三省堂)

教育法規研究

浪本勝年

現代の学校は、公的な制度によって高度に組織化されている。したがって、学校教育をよりよく

理解するためには、教育に関する法規についての学習が不可欠となる。特に「初任者研修法」及び改正教育職員免許法が、昨年から実施され、教員養成問題は、今日、新たな困難な事態を迎えている。

この時間は、これから教職をめざす学生諸君が、ぜひとも身につけておくべき教育法規の基礎知識の修得に力点を置いて研究を進める。その際、臨教審「教育改革」関連法や教科書訴訟の判決の分析、さらには現実の教育政策の動向(中教審などを含む)にも注目しつつ学習する。したがって、結果として教員採用試験(選考)にも大いに役立つであろう。

〔教科書〕(開講時に示す)

〔参考書〕全国教員養成問題連絡会編『初任者研修法と教免法』(あゆみ出版)
¥1,500

社会教育の基礎(社会教育概論)

磯野昌蔵

(P.14) 参照

社会教育施設

村山輝吉

(P.15) 参照

図書館学 I

山崎慶子

(P.13) 参照

図書館学 II

源昌久

(P.13) 参照

児童文化

湯山厚

児童文化とはなにかとか、その史的変遷とか、ないしはこれからのあり方は、といったふうに児童文化一般をではなく、現に身近にある名作物の絵本の主人公や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公

教育との関係——といった視点からとらえなおし、子どもをとりまく環境の一部をなしている文化財を見なおすいとぐちとする。

〔参考書〕『日本唱歌集』（岩波文庫）¥450

木下順二・文『かにむかし』

（岩波書店）¥1,400

H. A. レイ・光吉夏弥訳

『ひとまねこざる』（岩波書店）

¥1,300

青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年には特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版

（天志堂印刷）¥2,500

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会】

日本史概説

大久保俊昭

日本史のなかで、とくに中世・近世をテーマとして、政治史・経済史などを中心に検討してみたい。参考書等未定。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.16) 参照

教育臨床心理学

牟田隆郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいいがたい。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現してもいる。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

日本史概説

宮本由紀子

通史を概観しつつ、各時代の女性の社会における地位や生き方を検討する。特に教職科目ということもあり、基礎的かつ具体的な内容に留意する。講義はノート中心とし、教科書の指定はない。

世界史概説

井村行子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界

についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア，東南アジア，南アジア（インド），西アジア，内陸アジアに分け，それぞれの歴史的世界の風土，歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず，プリント・資料を配布する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ，日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち，現代世界の地域特色を，自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に，その国の地誌を学習する。受講にさいしては，できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら，地誌学のあり方を講じていきたい。日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。教科書は特に使用せず，参考書は講義中に紹介する。

人文地理学概説

小 林 高 寿

歴史学は時間の経過を追って，人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが，地理学は空間の中に人文現象と，人間の認識される範囲の自然現象を追求し，説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ，人文現象に対する学的究明を深め，拡大しつつ，空間のもつ意味を固定的にでなく，究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして，本講においては，人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ，将来の教職の現場にあって，応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解，歴史学と地理学の交錯分野にまで，講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕長谷川典夫著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と，二宮書店地理統計。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ，人間と自然とのかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1，5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ，それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」（いわゆる担保物権法を含む）を対象とし，その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では，重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密着しているか」を実感できるように留意し，『鵜呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかにすることに主眼をおく。また、政治システムにおける主権者たる国民の政治参加のあり方や役割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。そのことによって、将来政治教育の一端を担う際に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義とする。

〔教科書〕加藤秀治郎著『政治学入門』（芦書房）
¥2,000

〔参考書〕上條末夫ほか著『基礎政治学』
（北樹出版）¥2,300

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。
〔教科書〕開講の際に指示する。

哲学概説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか

容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『莊子』〔内篇〕（中公文庫）

哲学概説

國 嶋 一 則

「知ることを愛し求める」のは人間の本性であるが、これが哲学philosophiaの原義である。こんにち哲学とは、自分が生きて行くに当り最も重要なもの＝原理を探求することである。このためには、その原理がいかなるものであり、それをいかに実現すべきかが問われねばならぬ。ここに価値論が成立する。しかしこの価値論の前に、価値とはいかなる存在であるかが知られねばならぬ。ここに存在論が成立する。さらにまた存在論の前に、その存在がいかに認識されうるかが解決されねばならぬ。ここに認識論が成立する。

本講義は認識論、存在論、価値論の順に進められる。

〔教科書〕その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

デカルト以来の主観－客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのようにみえる。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については、カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚学すべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について、後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕カント著『道徳形而上学原論』
（岩波文庫）

ヘーゲル著『法の哲学』（中央公論社世界の名著「ヘーゲル」）、ヤメ・ペゲラー編『ヘーゲル・ヘルダーリンとその仲間』（公論社）

宗教学概説

脇 本 平 也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の

成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕適時指示する。

【職業】

産業概説

前 田 幸 一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣）

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

武藤博道・日本経済研究センター編『図説日本産業』（日本経済新聞社）

職業指導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版）
¥1,500

商業実習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

【商業】

職業指導

山 田 勇 治

(P.12) 参照

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいうべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めるようにしたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂（編集）

『日本十進分類法 新訂8版』

（日本図書館協会）

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年度版』

（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

磯野昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

- 社会教育制度
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

社会教育実習

磯野昌蔵

実習前の準備（大学）

実習

実習後・社会教育の実際について検討（大学）

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化，地域社会と社会教育，社会教育調査とデータの活用，社会教育事業計画，学習情報の提供と学習相談，社会教育と広報・広聴，社会教育施設の経営，社会教育の評価等が主な内容となる。

〔参考書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）¥2,000

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し，日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）
¥1,500

(2) 選択必修科目

児童文化

(P. 8) 参照

現代社会の諸問題と教育

(P. 7) 参照

成人学習論

牧野篤

中央教育審議会生涯学習小委員会の審議経過報告が出され，今後，教育体系全体を生涯学習体系へと再編していく基本的な方向性が示された。それは，「職業能力開発」をキーワードとし，学習・職業訓練・就労等をすべて個人の責任に還元しつつ，その成果を企業・国家へくり返すという構造をもっている。この背後には，日本の産業構造

の転換と国際的な位置の変化が存在する。この講義では、権利としての学習の思想を基礎に、今日、成人が自らの生活において学ぶとはどういうことなのかを、既述の世界的な動向を視野に入れつつ、考察したい。

〔参考書〕小川利夫編『生涯学習と公民館』（亜紀書房）1987年
ジェルピ著『生涯学習』（東京創元社）1983年
新田照夫編『地域に開かれた学園都市』（同時代社）1989年

婦人問題と社会教育

矢口悦子

婦人問題の解決にむけて社会教育はこれまでどのような活動を展開してきたのか、今後何をなすべきかを明らかにしたい。特に、学習者の婦人問題への認識の深まりを軸として進められる婦人問題学習の事例を紹介する。それを通じて、皆さん自身の意識や状況についても考えていただきたいと思っている。

〔参考書〕必要に応じて提示する。

青少年問題研究

和田謙寿

(P. 8) 参照

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようとして心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

社会教育行政

牧野篤

文部省の社会教育局が生涯学習局へと改組され、筆頭部局となったように、国の教育政策全体が生涯学習体系へと移行しつつある。この講義では、戦後の社会教育行財政の基本を、憲法・教育基本法・社会教育法の三者の構造的な連関の中でとらえるとともに、生涯学習体系への移行期において、国民の学習権を生涯にわたって保障する社会教育行財政はいかにあるべきかを、考察したい。

〔参考書〕社会教育推進全国協議会編『改訂 社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）1984年

小川利夫編『社会教育の法と行政』（亜紀書房）1987年

文部省編『我が国の文教政策』1988年版

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』（講座・現代社会教育 第6巻）（亜紀書房）

図書館学 I

山崎慶子

(P. 13) 参照

博物館学 I

倉田芳郎

(P. 18) 参照

博物館学Ⅱ

矢島國雄

(P.18) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業は人なり」と言われます。企業が今取り組んでいる最重要戦略のひとつが「企業人教育」です。その理由は、嵐の時代ともいえる現代を生き抜く道は、人づくりなしにありえないからです。

本講義は、各種の企業のさまざまな人の育て方を、実証的に学び、学生諸君に企業の生きた姿を紹介します。

講師自身が経営教育コンサルタントとして、今実践している企業人教育の事例と理論を生かし、大学と企業の間を橋をかける講義を、討論や対話も入れて展開します。

〔教科書〕塩川正人著『MTS 総力経営』

(日本能率協会) ¥1,000

社会体育Ⅰ

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということ動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』(三笠書房) ¥980

社会体育Ⅱ

古田潤子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.18) 参照

教育原理

(P.1) 参照

教育史

磯野昌蔵

(P.7) 参照

教育心理学

(P.1・2) 参照

青年心理学

(P.2) 参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』(人間の科学社)

教育社会学

熊谷一乘

(P. 7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P. 8) 参照

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

矢島國雄

博物館は近代西欧に起源をもつ社会教育機関である。「文化」と「生涯教育」の重要性の叫ばれる今日、博物館に期待される役割は重いものがある。

本講義では「博物館とは何か」、「博物館の専門的職員としての『学芸員』の使命と役割は何か」という問題を中心的な課題とし、あわせて博物館の現状と問題点について触れながら、あるべき博物館像をともに考えたい。受講生諸君には講義と平行して、できるだけ多くの博物館を自分自身の眼で見ることをお願いしたい。

〔教科書〕倉田公裕著『博物館学』（東京堂出版）
¥2,500

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

磯野昌蔵

(P. 14) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータ通信等のニューメディアの利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・所理喜夫
葉貫磨哉・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

寺社下 博

野外における考古発掘実習を行なう。30日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

〔教科書〕文化庁文化財保護部『埋蔵文化財発掘調査の手びき』（財団法人地理協会）

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山の文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一面面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、

他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版社）

奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅰ

椋川一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椋川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

今年は西洋文化の原点であるギリシア文化を中心に学ぶ予定である。歴史的知識を基礎に考古学、哲学思想、社会構造、経済、芸術など多面的にギリシア文化を考えて行きたい。教科書は年間2、3冊の文庫本を予定している。その都度教室で指定する。またレポートを課して教室で発表してもらおう。積極的に学習に参加してもらいたい。

仏 教 美 術

中 島 亮 一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

現 代 美 術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禪 美 術

海老根 聰 郎

日本の中世時代（鎌倉、南北朝、室町時代）の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。（毎回スライドを使用する。）

美術史概説

中 島 亮 一

美術史を学ぶには、未だに生命を保ち続ける遺跡、遺物の研究が重要で、それらを生んだ民族、風土、思潮、美意識、作家集団などをマクロ的に、またミクロ的に検討することが必要である。そこで前半では主に西欧の美術、後半では主に東洋の美術に視点をおき、その造形理念や技術をスライドを使って、芸術学的な視点からも考察を加え、更に「見せる側」、「見る側」の鑑賞とは如何にあるべきかなどについても考えたい。

〔教科書〕井上 章著『美と美術』（家政教育社）
¥1,545

〔参考書〕その都度指摘する。

西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年 ¥2,800

考古学特講 I

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、特に中国北方の青銅器文化に重点をおいて、これらの文化を概観する。

考古学特講 III

飯 島 武 次

夏殷周文化の考古学的研究。

日本民俗学

谷 国 貢

民族学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民族事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民族学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財

の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言えよう。

〔教科書〕和田謙寿著『仏教の地域発展』（訂正版）（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕佐々木宏幹著『聖と呪力——日本宗教の人類学序説——』（青弓社）
¥2,060

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』

(誠信書房) ¥1,500

社会福祉原論

永田 幹夫

今日、国民生活の変容のなかで、社会福祉の原理や機能も変化の徴候が顕著である。本講は社会福祉の発展経過、対象、機能および方法技術を概説しつつ、社会福祉の固有性を明確にし、今日すすみつつある変化の意味するものを論証し、社会福祉の意義を理解するようにしたい。

〔教科書〕社会福祉士養成講座①『社会福祉原論』

(中央法規出版) ¥2,500

老人福祉論

東條 光雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだ不十分な状況である。わが国においては、約半世紀後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを

考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1989』(全社協) ¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 昭和63年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

許斐 有

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというのではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開し

てきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕古川孝順編『児童福祉論』（川島書店より平成2年度中に刊行予定）

〔参考書〕小川・大橋編『教育福祉の思想と実践』（光生館より平成2年3月刊行予定）

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開

発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）

¥2,000

心理学（福祉）

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

星野 貞一郎

社会福祉関係の専門職業を志す学生のための社会学講義を目ざしたい。そこで社会学の基礎的概念を応用して現代社会における社会福祉現象を社会学的に理解するための視点を涵養する。そのために、現代社会の特徴を取上げるとともに、家族福祉、組織と官僚制、地域福祉等の問題に社会学的にアプローチする。

〔教科書〕教場で指示する。

法学（福祉）

小林 弘人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

社会福祉援助技術現場実習
(老人福祉施設・機関等)

東 條 光 雅

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

具体的には、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて展開することになる。

本実習は、前年度末に学科が実施した試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、主に、老人福祉分野ならびに福祉事務所等での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

なお、年度途中での配属実習の辞退は、原則として認めない。

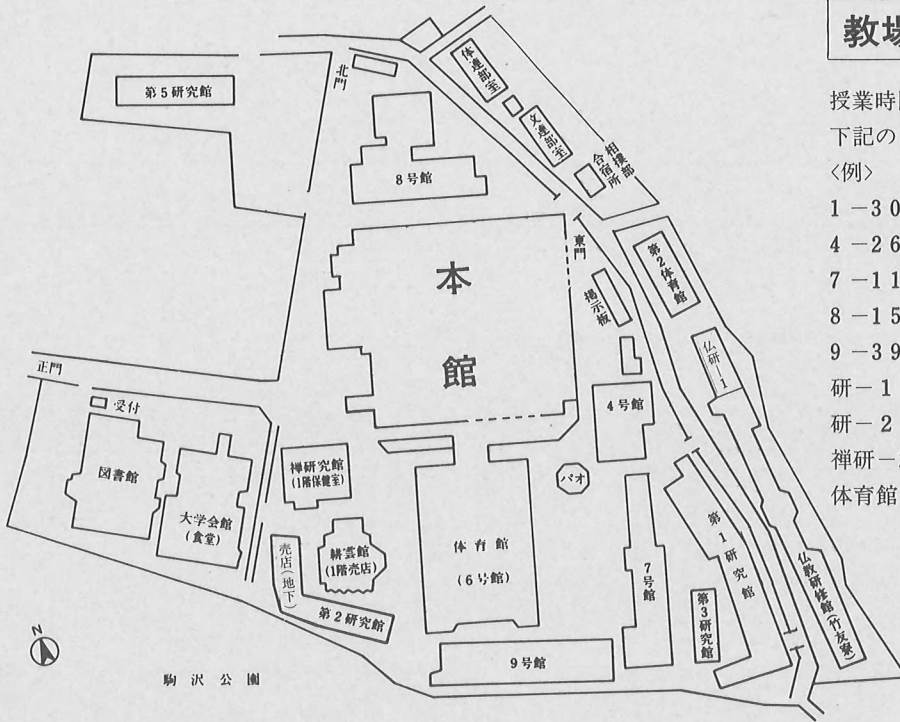
社会福祉援助技術現場実習
(障害児(者)施設・機関等)

伊 藤 秀 一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、障害児・者福祉分野での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

駒沢大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

<例>

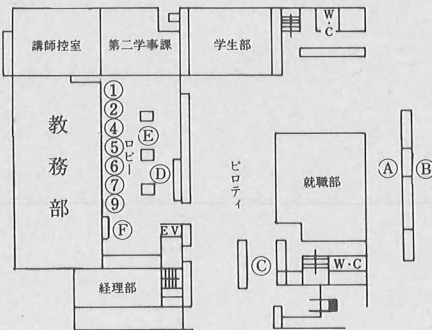
- 1-301 本館(1号館)3階
 - 4-266 4号館2階
 - 7-110 7号館1階
 - 8-150 8号館1階
 - 9-390 9号館3階
 - 研-1 第2研究館1階
 - 研-2 第2研究館1階
 - 禅研-201 禅研究館2階
 - 体育館 体育館2階
- (ただし選択種目により第2体育館になる)

本館 1F

各事務室・掲示板配置図

教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡)
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更・聴講
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部



提 示

- ①第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項、教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- ②第2掲示板(裏面)ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- ③第3掲示板ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職関係連絡事項(4月~11月)
- ④休講掲示板
- ⑤授業時間表カウンター
- ⑥大学院・留学生関係掲示板

